Les Siecles
Du ciel viendra un grand Roy d'effrayeur,
Resusciter le grand Roy d'Angolmois.
Avant Marres, Mars regner par bonheur
(10.72.Le Siecles.)
grand Roy d'effrayeur
cens nonante neufseptmois
1999
Par foudre en marche on & argent fondu.
Les deux captifs l'un l'autre, mangera.
De la cité le plus grand estendu.
Quand submergee la classe nagera
(1.13.Siecles.)
la terre&l'air galerout se grand eau,
Lors qu'on viendra pour jeudy venerer;
Ce qui sera jamais ne feut si tard.....
(10,71.Siecles)
ノストラダムスの
大予言
Catastrophe
1999
La Splendeur claire a pucelle joueus
Ne luyra plus long temps sera sans sol
Nous peste measre monstre universal
(10,98.Siecles.

ノストラダムスの大予言

Catastrophe 1999

●表紙（デザイン・樋口真嗣）

CONTENTS OF NOSTRADAMUS（目次）

1 CHAPTER MAKING OF NOSTRADAMUS

Edition ❶MAKING OF 人類滅亡への14大スペクタクルシーン……4p
Edition ❷本編撮影　舛田組小記録……17p
Edition ❸番外スナップ集……18p
Edition ❹「大予言」よりコワイ!?第7ステージ火災の顛末……19p
Edition ❺中野昭慶に聞く！……20p

2 CHAPTER ENCYCLOPEDIA OF NOSTRADAMUS

Edition ❶主要登場人物（キャスト紹介）……23p
Edition ❷主要スタッフ紹介……25p
Edition ❸世紀末怪獣大図鑑……26p

3 CHAPTER GALLERY OF NOSTRADAMUS

Edition ❶初公開！イメージボードコレクション……28p
Edition ❷新聞記事と広告にみる大予言事件簿……30p
●誌上復刻　14大スペクタクルシーンポスター……34p
●資料館（特典に出来なかった宣材）……35p

4 CHAPTER VISUAL OF NOSTRADAMUS

Edition ❶シネマスコープ完全版フィルムストーリー（333カット）……36p
◆予告編……92p
◆誌上復刻　東宝映画25年の歩み……94p

5 CHAPTER TV版およびUSA版　徹底究明！もうひとつの大予言

Edition ❶海外版研究序説～海を渡った「ノストラダムスの大予言」……95p
Edition ❷海外版「LAST DAYS PLANET EARTH」紹介……96p
Edition ❸比較検証・海外版と日本版……97p
Edition ❹必見！ホリディスペシャル～テレビON AIRされた数々の『ノストラ…』……98p
Edition ❺併映作品「ルパン三世　念力珍作戦」紹介……100p
◆比較検証表～完全版・ホリディスペシャル版・海外版LD……102p

6 CHAPTER BGM OF NOSTRADAMUS

Edition ❶『ノストラダムスの大予言』BGMについて……109p
Edition ❷音源リスト（ステレオ・モノラル）……112p
Edition ❸絵でみる劇中使用曲解説　徹底分析!!……114p
Edition ❹サウンドコレクション……123p

7 CHAPTER 幻の企画～その後の「ノストラダムスの大予言」

Edition ❶TBS系　日曜午後8時、テレビシリーズの企画があった!?……130p
Edition ❷魔王降臨『ノストラダムスの大予言Ⅱ恐怖の大魔王」幻の映像化……131p

8 CHAPTER Essay

Edition ❶映画『ノストラダムスの大予言』の思い出／中村　哲……132p
Edition ❷○石くんのお楽しみはココからだ!!／大石　昌弘……133p
Edition ❸『ノストラダムスの大予言』がある風景／早川　優……134p

9 CHAPTER Column～作品封印への経緯

Edition ❶興行成績について……135p
Edition ❷公開当時の騒動記～ビデオ・LD発売中止にいたるまで……136p
Edition ❸『ノストラダムスの大予言』の思い出／監修　川北　紘一……141p

10 CHAPTER Others

◆完全版ドラマCD・全封入特典目録……142p
◆参考文献・著者紹介・企画、構成、編集紹介……144p
◆発見!?『恐怖の大魔王』試作ポスター？……145p

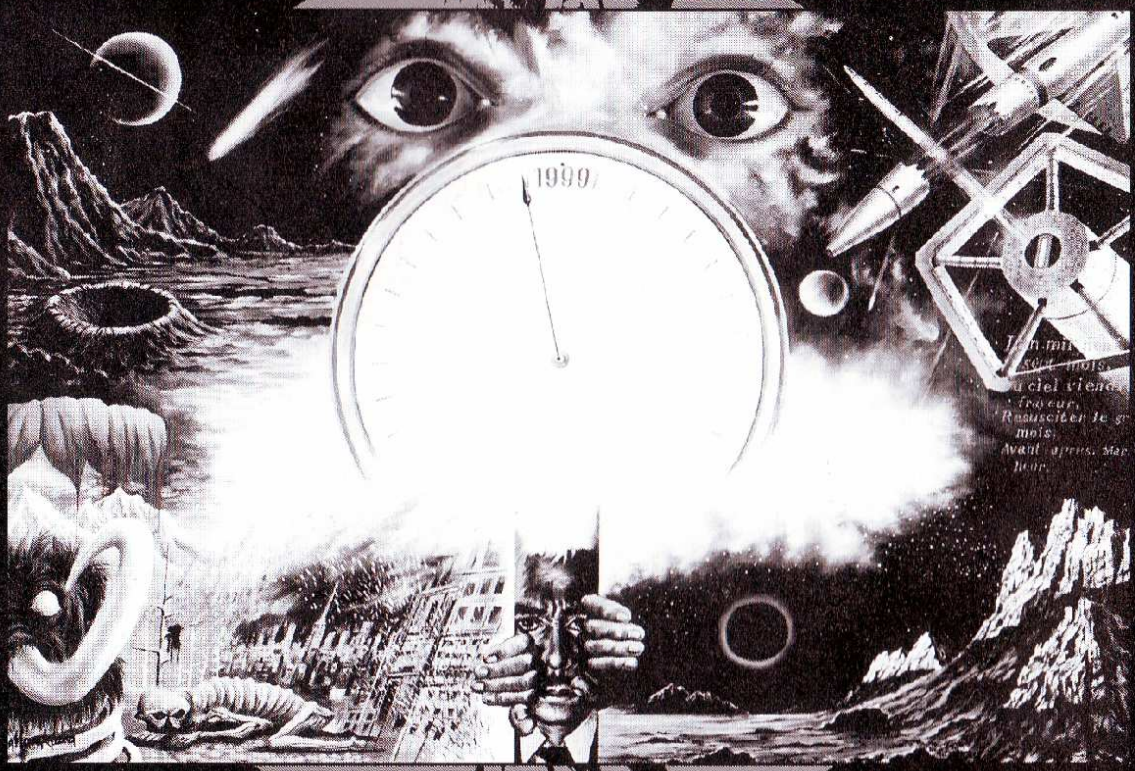
11 CHAPTER 巻末付録　巻末より和綴じ

◆『ノストラダムスの大予言』全スタッフ・キャスト……146p
Ⅲ『ノストラダムスの大予言』脚本完全再録……147p
Ⅱ『ノストラダムスの大予言』企画書完全再録……179p
Ⅰ『ノストラダムスの大予言Ⅱ・恐怖の大魔王』企画書完全再録……181p

Catastrophe-1999
ノストラダムスの大予言
劇場公開完全版ドラマCDブックレット
APOLLO-17

MAKING OF

人類滅亡への14大スペクタクルシーン



Catastrophe-1999

東京に突然変異の動物が群生!

「所長!夢の島に変な生き物が発生したそうです!ナメクジみたいだが二、三十センチもあるバケモノだそうで…」

↑AF2の影響か!?夢の島に奇怪なナメクジ状の生物が現われた。出動した自衛隊が火焔放射による掃討作戦が展開されるなか、真相究明を望む良玄の叫びは炎の音にかき消された。

←大ナメクジに驚く、まり子。……と、おもいきや下の撮影スナップではこの表情。さすが大女優である。

本物の陸上自衛隊員を交えた撮影記念写真。本作での自衛隊の出番はこのシーンのみであるが、彼等も「怪獣」と戦う、れっきとした「東宝自衛隊」である。↓

赤潮にむしばまれる瀕死の海

赤い海

「お父さん、気持ちはわかる、わかるよ！」
「死ぬんだ！ワシは魚や貝と一緒に死ぬんだぁっ！」

赤潮に汚染され、海は死んだ。漁師である明の父、三治（平田未喜三）は、やり場のない怒りと絶望に駆られ、自ら命を絶とうとさえするのだった。←

月光の下、愛しあう二人がついに結ばれる。冨田勲の幻想的な名曲が、ささやかな愛の形を艶やかに謳う…。

←セット内に敷き詰めた寒天の海を整えるスタッフ達。手にした1枚の板きれが、微妙な海面の表情を作りだしていく。
デジタル全盛の時代においてなお色あせない幽玄の映像美は、こうした職人芸的なこだわりに支えられているのだ。

Catastrophe-1999

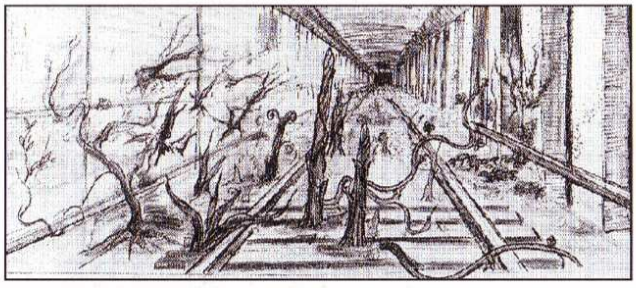
人類滅亡への14大スペクタクルシーン 3

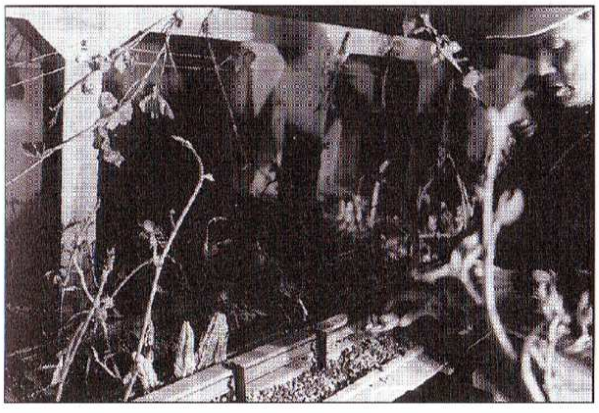
地下街ジャングルと化す!

「一夜にして地下鉄の遂道内に大発生した未知の雑草の事件は日本中に起こっている奇怪な現象の一例に過ぎません…」

突如、東京の地下鉄坑内に怪植物が発生、人々をパニックに陥れる。しかし、この事件は来るべき終末の前兆に過ぎなかった……。
公害によるものと思われる異能児の誕生や、新たな奇病の発生。人間が、いや自然そのものの営みが確実に狂いはじめたのだ! →

地下鉄を覆う怪植物のイメージスケッチ。実際の特撮シーンは、これよりも更にリアルで迫真性のあるものとなった。「ノストラ」のイメージ素材は、この他に氷山融解時のもの等、ピクトリアルスケッチが数点描かれている。 →



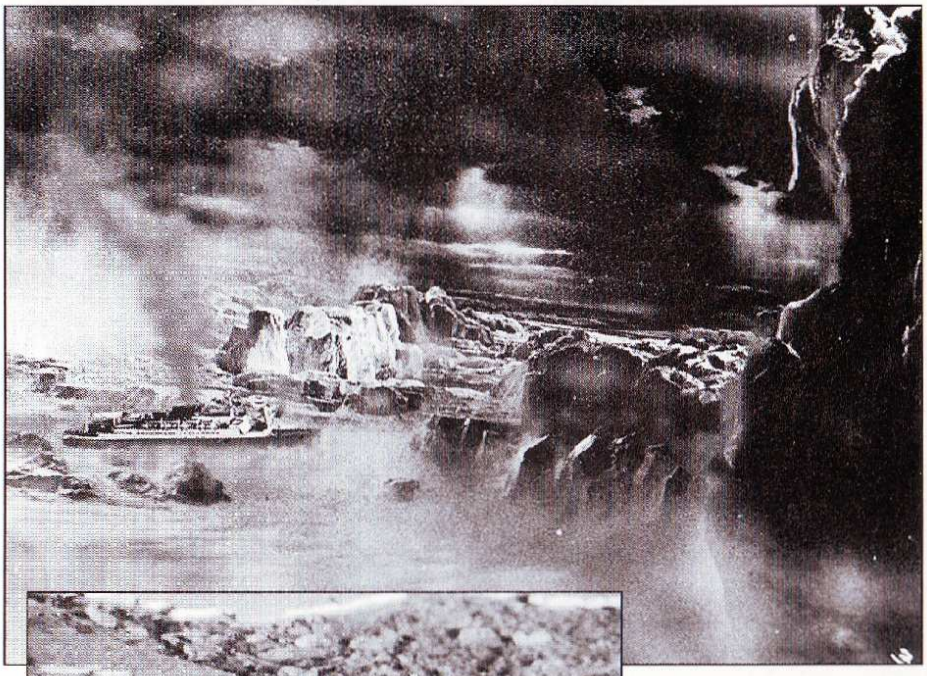


←同シーンのメイキングスナップ。小さなセットで撮影されていたことが意外におもえるほど、完成作品はスケール感に溢れていた。
最小のセットで最大の効果を演出すること。これこそ「トクサツ」が映像のマジックたる由縁である。

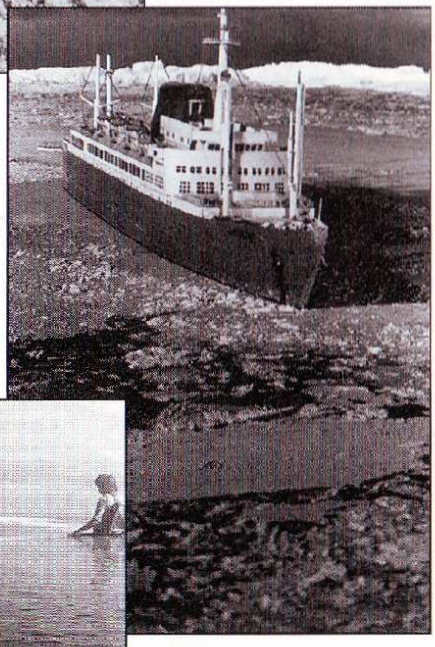
人類滅亡への14大
スペクタクルシーン
4

熱帯の海が氷結を始める!

「例えば亜熱帯に属するハワイ北部の太平洋上においてさえ海上が氷結した…」



相次ぐ異常気象が、遂には熱帯の海を凍結させた。
氷塊と化した海面に囚われ、船舶が脱出不可能に陥る。
それは正に氷の牢であった。



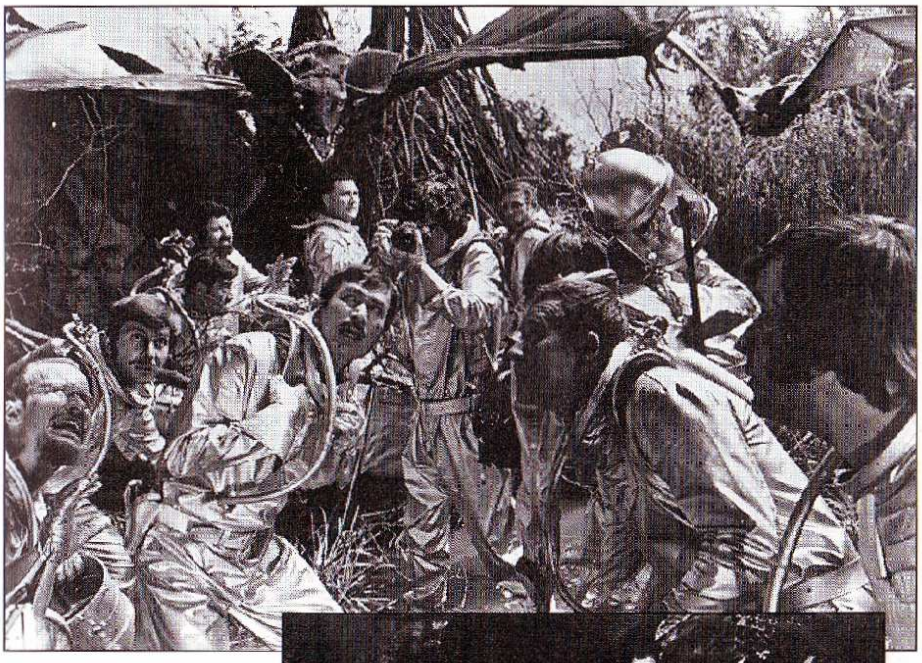
精巧に作られた船舶のミニチュア。→
劇中に登場する乗組員から察すると、
日本船籍のもののようだ。

今まさに氷塊に突入せんとする船舶を撮影中のスタッフ。人型のファンが波に表情を作り出す。
遠景のショットにも耐えられるよう、セットはかなり広めに作られていたものと推察される。↓

人類滅亡への14大
スペクタクルシーン
5

ニューギニアに異常事態!

「神は……神は何故人間に地獄を与えたもうた…」



原子灰の影響を探るため派遣された第1次調査隊が消息を絶った。大根、吉浜ら二人の所員達を案じてニューギニアに向かった良玄が見たものは、まさに生き地獄と化した現地の惨状と、変わり果てた第1次隊員達の姿であった。
生ける屍となった愛弟子に銃を向けた良玄の嗚咽が、暗黒のジャングルに吸い込まれていく……。

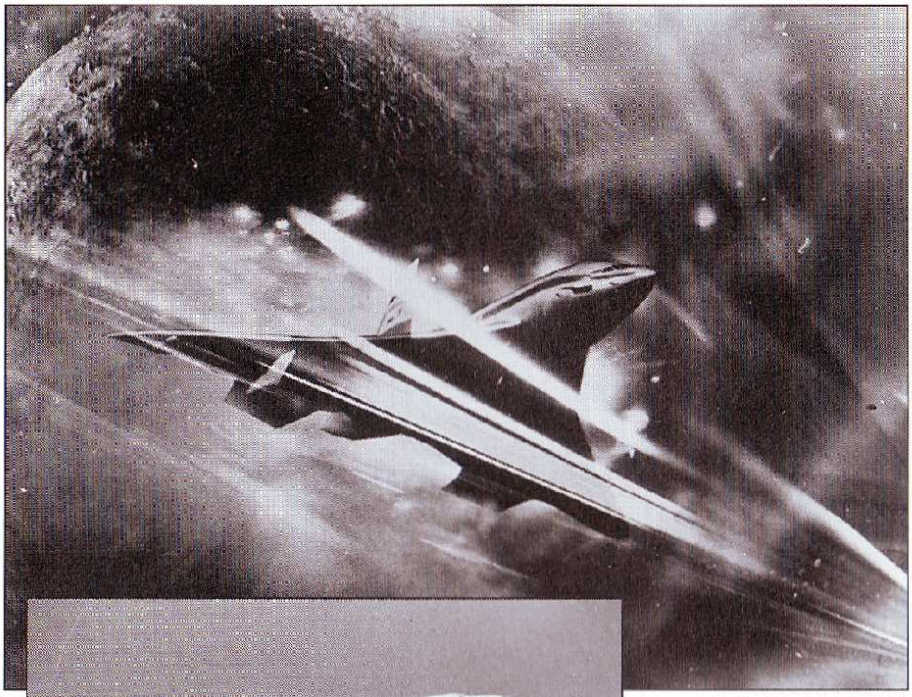
↑メイクを施された第1次隊員役の俳優達。「血を吸う」シリーズや「狼の紋章」など、この時期の東宝作品は特殊メイクに力の入ったものが多く、本作品でもその実力は遺憾なく発揮されている。

※予告篇では、ニューギニア、アフリカ、ロケ敢行!と、公式には発表されている宣伝文句があるが、実際には丹波哲郎を始めとするメインキャストは、現地ロケには行っていない。協力監督の坂野義光と数名のスタッフのみである。メインキャストがニューギニアに登場しているシーンは、スクリーンプロセスとセット撮影で処理された。

↑ニューギニア奥地を行く第2次調査隊。着用している防護服は『怪獣総進撃』に登場する、ムーンライトSY-3号乗組員のユニフォームが塗り直して流用されている。一見、『モスラ』に登場する調査隊のユニフォームにも見えるが、こちらにはヘルメットにつばが着いているため別物と思われる。
また、『クレージーのぶちゃむくれ大発見』の劇中にも使用された。

SST事故で成層圏オゾン帯が破れる!

「本日午後零時四十三分、瀬戸内海の上空でSSTの爆発事故が起こりました。屋外には出ないで下さい!」



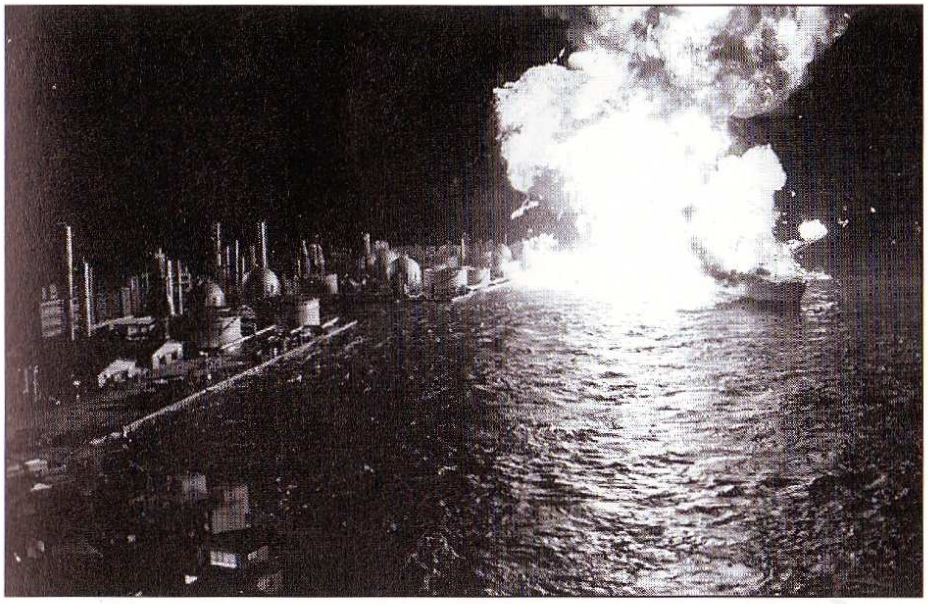
超音速機SSTが成層圏で爆発したことにより、オゾン層が破壊された。容赦なく降り注ぐ強烈な紫外線は、人体を焼き、草木を枯死させ、湖を干上がらせてしまった!

文明の象徴たるハイテク旅客機の事故が引き金となり、地上は連鎖的な激しい異変に見舞われる。
中盤における最大の見せ場は、このパノラマ的な連続スペクタクルシーンであり、それは即ち特撮演出の独壇場でもあった。

←パースを考えてのことだろうか、完成画面の印象に比べて、ややずんぐりした感じを受けるSSTのミニチュア。ポスターやスチールの宣伝素材としても多用された、いわば「ノストラ」の顕的なミニチュアキャラである。

タンカー事故でコンビナート有爆!

「タンカー爆発による徳江市の火事は、消火活動が思うにまかせず拡大する一方です!」



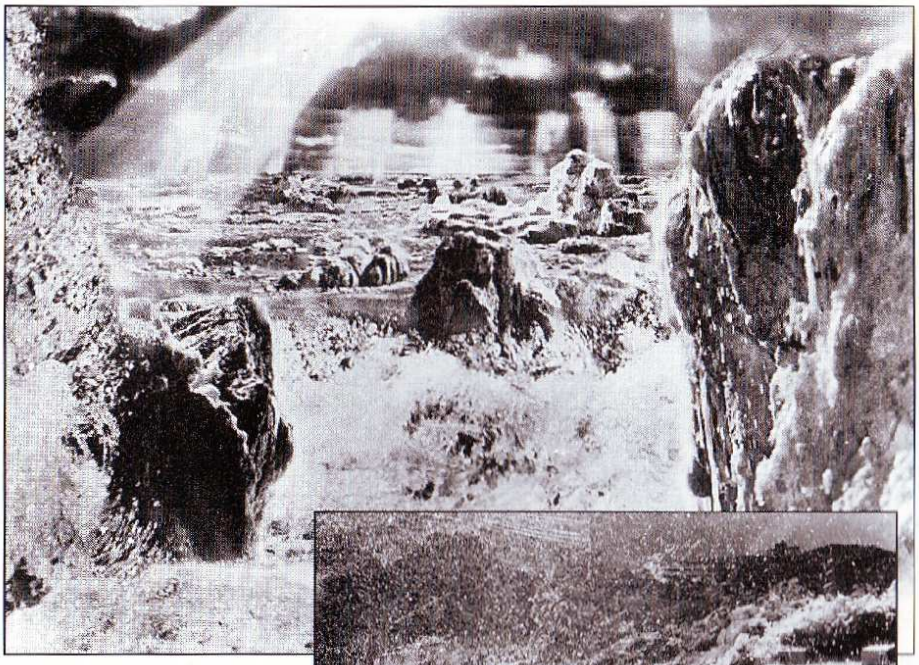
大型タンカーの座礁事故で大爆発。コンビナートが次々に有爆を始めた。

大プールに組まれた→コンビナート地帯のセット。
一瞬にして噴き飛ぶ運命のミニチュアであるが、そのディティールは精密だ。
先に作られた「日本沈没」を凌駕するほどの凄まじい炎上シーンはこうして作られたのだ。

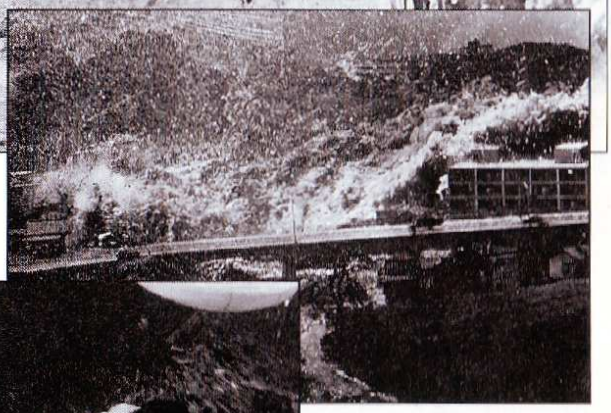
若き日の川北紘一監督。(右から2人目)「ノストラ」の秀逸な合成カットなどは氏のアシストによる功績も大きい。名場面を支えた影の立役者であった。↓

北極海の氷山が急激に融解！大洪水が世界各地を襲う!!

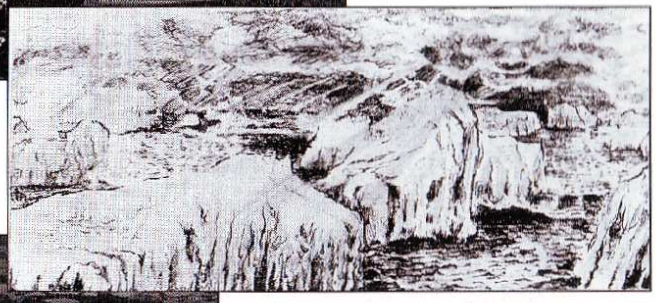
「第十巻の七十一、大地と大気は冷えてゆく。大きな氷も一緒に。恐れの木曜日が訪れるとき、そしてもう晴れることはなくなる。」



北極海の巨大氷山が融解する！地球の水位が急激に上昇、濁流が全世界を襲った!!



食事時の民家を直撃した洪水は、小さな平和のひとときを跡形もなく流しさった。最大最悪の天変地異から逃れる術は、もはやないのだ。

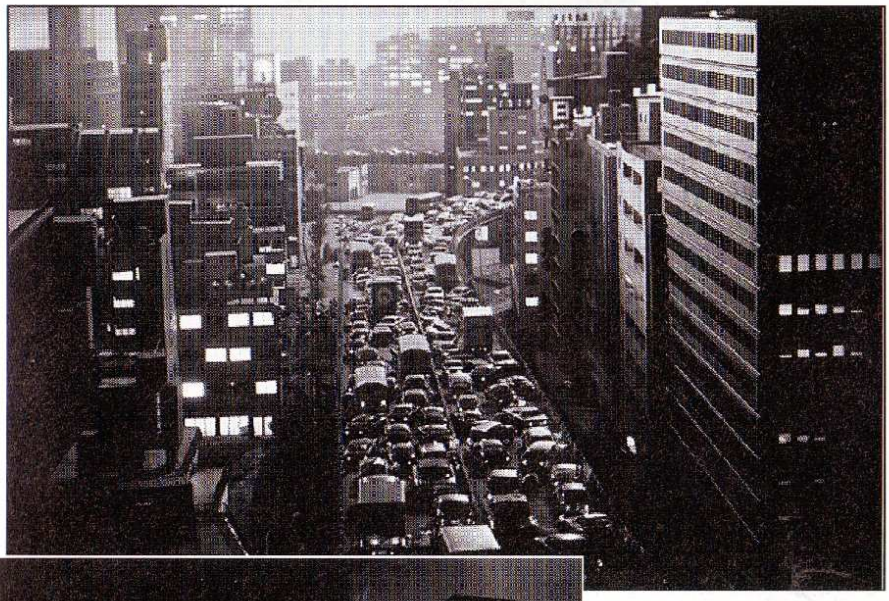


氷山融解のイメージスケッチ。

←高下駄を履いてセットに入る特撮スタッフ。赤潮と同じく、この海も寒天で作られている。その量はヨウカンにして実に420万本分（!!）との記述が当時の少年マガジングラビアに残されている。

高速道路が一瞬に火の帯!

「高速道路は家族ぐるみ家財まで満載して首都圏脱出をはかる車の群れのため全面完全渋滞となって、各ランプは閉鎖されております!」



パニック状態となった首都圏を逃れようとする車で、主要高速道路は超渋滞となった。苛立った一人の運転手が車を暴走させたことから、史上最悪の人災が起きる。
巨大な火柱が東京の夜空を赤く照らしだす!

実際の自動車を使い、フールスケールで撮影された炎上シーン。
特撮シーンとのスピーディーなカットバックにより、凄まじい迫力が生みだされている。

←特撮シーンのスナップ。精密に作られた自動車のミニチュアも見ものだが、何よりビル街のネオンが美しい。このシーンは、84年版『ゴジラ』劇中にもライブ映像として裏焼で使用されており、現在でも観ることが出来る数少ない「ノストラ」の特撮カットとなっている。

大空が巨大な鏡に変化!

「空にビルがっ!」「お日様は死んだのか……!」

↑公害物質を蓄積した大気がレンズの作用をし、東京の風景を空に反転して写し出す。
地上を圧する無気味な幻影は、この映画のメインビジュアルとして、あまりにも有名だ。

←最愛の妻を公害病で亡くした良玄。頭上の変動は、彼の悲しみが天を衝いたためなのか……。
丹波哲郎の全霊を込めた名演が圧巻である。

ビルの屋上から、世紀末の東京を見る良玄と明。深い悲しみと疲れは良玄の表情を一変させてしまった。
この後、良玄は全ての人類に警鐘を発するために決意をふりしぼって国会に臨む。
科学者としての彼の戦いに終わりはないのだ。

原子力発電所が爆発！工場群が炎上！

「これは言語に絶する公害であります！」

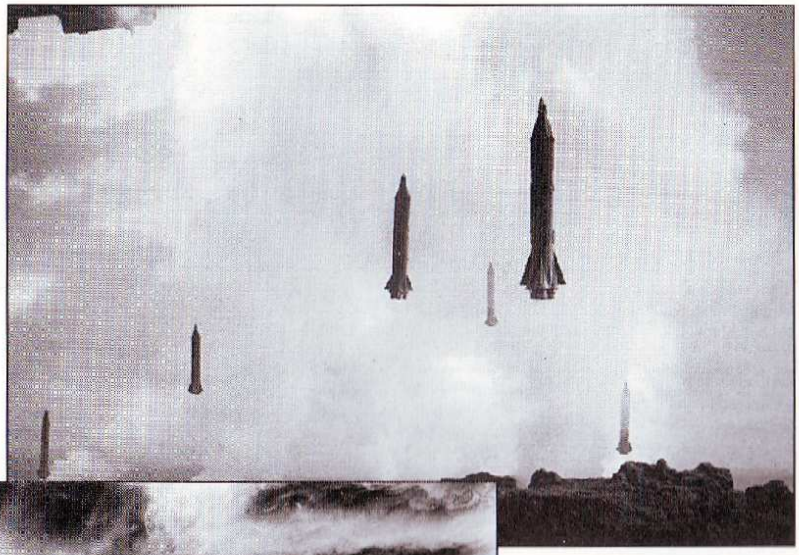
国会に立った良玄は、来るべき終末の地獄絵図を明確なビジョンを持って語った。先祖代々「諸世紀」を受け継いできた彼は、今、まさにノストラダムスの詩のイメージを借りて予言する。
火山噴火によるカタストロフ、爆発する原子力発電所。閃光のうちに全てを焼き尽くす熱風と衝撃派が、容赦なく文明を凪払っていく。
傍聴者は戦慄し、固唾を飲んだ。そして遂に……。

←危機管理の徹底が急がれていた原発を、不意の大地震が襲う。今日にも通用する恐怖の瞬間を、既に描ききっていた本作の先見性はどうだろう。

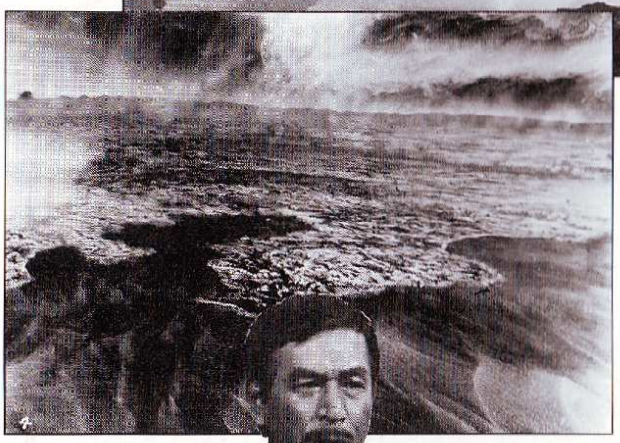
ゴジラを大暴れさせ、日本を海中に沈め、今また→世界を滅ぼした男、特撮監督・中野昭慶。
日本映画界において、最もスペクタキュラーな映像を重厚に演出し、円谷英二亡き後の東宝特撮を支え切った氏の「仕事」は、今ようやく再評価の時期を迎えている。
この「ノストラダムスの大予言」はまさに、中野特撮の頂点のひとつとして、記憶されるべき名作なのである。
写真は、原発爆発により誘爆するコンビナートのミニチュアセット。

世界ミサイル戦争!

「一九九九年七の月、空から恐怖の大王が降ってくる」



滅びの時は来た。国際紛争の緊張が頂点に達した時、人類は最悪の決断を下してしまったのだ。



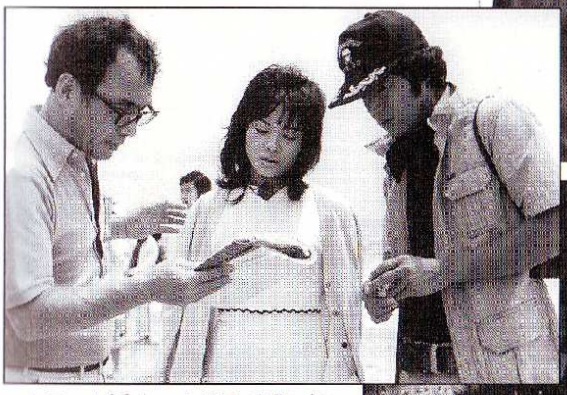
やがて人類は死に絶えた…。しかし、自動報復システムによってなおも核ミサイルは発射され続ける。
地球は完全に死の星となり、永い沈黙の時を迎えた。
果たしてこの星を継ぐ者は再び現われるのだろうか？
そして、それはどんな生き物なのか？
良玄は、その恐ろしい未来さえも予言して、長い演説を終えるのだった。「今なら遅くはない」と希望の祈りを込めて……。

←↑核ミサイル発射シーンの撮影スナップ。作中では実際の記録映像が併用されるため、シビアでリアルな描写が特撮にも訴求されている。勿論、スタッフはよくこの難題に応えたといえるだろう。

本編撮影 舛田組小記録

Catastrophe-1999
ノストラダムスの
大予言

「明治から宇宙までを撮る男」の異名をもつ職人肌の名監督・舛田利雄。主演の丹波哲郎や中野特技監督とのコンビも多く、ジャンルを問わず快作・傑作をモノにしてきた。日本娯楽映画界の貴重な重鎮である。



↑ラスト近く、まり子が明に妊娠を告げるシーンを演技指導中の舛田監督。全身を使って生の喜びを体現するまり子のダンスシーンは、この映画におけるもうひとつのエンディングといえる。

↑台本を覚えてこないことで有名な丹波哲郎が、豪快にも現場で台詞を覚えている（らしい）。後ろに控える柏尾憲兵大佐も早く尋問したくてウズウズしている（ようだ）。

↑暴走族の飛び降りシーンを撮影中の１コマ。いかにＪＡＣのメンバーがスタントを担当するとはいえ、どんな危険が起こるかわからない。舛田監督の表情も真剣そのもの。

撮影終了後に行われた舛田組の打ち上げ記念写真。ありし日の田中友幸プロデューサーや、平成ゴジラの大河原監督らの顔もみえる。

Catastrophe 1999
ノストラダムスの
大予言

番外スナップ集

→キャンペーンの一環として設置された「世界最大の水時計」。この時計が止まる時間を「予言」すると賞金が貰えるという趣向だった。因みに実際に時計が止まったのは公開年の8月4日午前3時1分40秒だった。当選した人はいたのだろうか？

↑製作発表で由美かおるを肩に乗せご満悦の丹波哲郎。会見ではムッツリ顔の黒沢年男も歯をみせて笑っている。

←メインスタッフ、キャストが揃っての製作発表。（昭和49年4月25日、於赤坂プリンスホテル）メガヒット作「日本沈没」に続けと、大きな期待が込められたスタートだった。

←原作者の五島勉氏。映画の続編が製作されていれば、同名の主人公が登場する予定だった。当時あまりにセンセーショナルな内容に、本気で悩んだ人も多かったのでは？

↑同じく千代田劇場（公開当時）の風景。「ノストラ」の宣伝作戦は相当に力の入ったものであったらしく、東宝の受付嬢が電話に出る時は「大予言の東宝です」と名乗ったほどだった。

↑今はなき日劇の公開当時の風景。

Catastrophe 1999
ノストラダムスの
大予言

関係者が語る

大予言よりコワイ!?

第7ステージ火災の顛末

↑消防隊決死の消化風景。こんな写真も「ノスゝラ」のスナップとしてちゃんと保存しているとは、東宝もなかなか懐が深い?!

撮影当時、成城の東宝第7ステージでは、前作「日本沈没」をはるかに凌ぐ凄まじい爆発シーンがいよいよ開始されようとしていた。

爆発シーンを撮影する際には、プロの常として再三の注意が励行され、万一の場合に備えて消防署への連絡が怠られることはない。

その撮影のときも、それは周到な用意の上で行われている筈だった。しかし、ヒット作を生み出そうとするスタッフの熱気が乗り移ったのであろうか、着火の瞬間、火勢は計算を上回って高くほとばしり、ステージの三重に燃え移って大火災を引き起こしてしまったのである。

映画では街を焼き、森を焦土にすることが得意なスタッフも、これには焦った。

「とにかくスタッフが懸命に消火作業をし、鎮火した後に消防車が到着して現場検証が始まったのです」当時のスタッフは語る。

「消火したと言っても、火災を出した特殊効果の担当者はクビを覚悟の状況ですからね。控室に入って背広に着替え、警察の呼び出しを待っていたようです。」

結果は、速やかな連絡で鎮火も早かったことから始末書程度で済んだそうだが、責任感の強い技術者のことだから、その心境たるや推して知るべし。

「でも、その責任者は最近のヤマトタケルでもオロチに限界ギリギリまで火を吐かせていたそうですからね、逆に火に対して免疫が出来たんだろうと（笑）」

いやはや、職人根性恐るべしである。

当時、「大予言、火事を予言せず」などとマスコミに冷やかされた事件であったが、これは逆に特撮現場管理の厳しさと危険さを知る貴重な経験となった。

スクリーンでは今日もゴジラの放射能が街を焼き、火山の噴火が溶岩の濁流を噴出させている。こんなスペクタクルの陰には職人達の命がけの取組みがある。

CG全盛の時代になっても、彼等の経験は活かされていき、常に新しい映像を創りだしていくための布石となるのだろう。

↑撮影所には、普通の場所にない特殊な可燃物も多い。駆けつけた消防隊員の顔にも緊張が走る!

あまりの大騒ぎに、すわ一大事と宇宙ステーションから駆けつけた宇宙パトロール隊の隊員達。と、いうのは勿論冗談。撮影合間に火事見舞と言ったところだろうか。マニアの人は背番号で隊員の名前を当ててみよう。→

中野昭慶に聞く！

特別インタビュー 中野昭慶 特技監督

『ノストラダムスの大予言』の特技監督を担当された中野昭慶氏に、このＣＤドラマの解説書の執筆中に、たまたま本作のお話を聞く恰好の機会を得た。
当初は数分の時間で、２～３の軽いコメント程度を頂く予定であったが、以前から私と面識があり、たいへん気さくな人柄の中野氏は、３０分以上にも渡って作品中の様々な事柄を思い出して、お話をして頂けた。
こちらの急なお願いに、気軽に対応して頂いた中野昭慶氏には、ただ、感謝するばかりである。なお、当日のインタビューの際には、こちらが本作のパンフレットを用意し、中野氏がそれを見ながらお話をされたことを付記しておく。

―― 今日はお忙しいところ、大変ありがとうございます。実は今回、『ノストラダムスの大予言』が、ドラマを２枚のＣＤにして発売されることになったんですが…。

中野　『大予言』は、やっぱり絵を見てもらわないとなあ。
『大予言』は、色々と絵作りには苦労したからねえ。

―― 『ノストラダムスの大予言』の特撮シーンでは、私は亜熱帯の海が氷結するシーンのロングのカットが特に好きなんですが…。

中野　そのカットなんか、特撮シーンの中じゃ、本当の氷山の一角だよ（笑）。
（パンフレットを見ながら）このパンフレットには、俺が何か書かなかったかなあ。

―― パンフレットの６ページに、監督の舛田利雄さんと共に寄稿を寄せてます。

中野　うん。この通りだよ、この通り。これがまさしく本音だよ。

―― 葉っぱが枯れるシーンの撮影で、どんな薬品を使っても緑色が、中々変化しないのに、現実では、この緑を枯らす程の猛毒を我々がばらまいているという事ですね。

中野　うん。それとＡＦ２の防腐剤ね。この怖さ。
だって今、防腐剤の入っていない食品なんて殆ど無いんじゃないか。
君たちもバリバリこれを食っているんだよな。

―― ええ。よく言われますが、今の人間、何を食わされてるかわからないですよね。

中野　で、あれの怖いのがね、人間の遺伝子がイカレちゃうんだよな。だから君が大丈夫でも、君の子供か、孫が、どうなっちゃうかわからないんだよ。

―― この作品が製作されてから、もう２５年も経って、翌年に１９９９年を迎えますよね。

中野　事実は小説よりも奇なりっていうけど、まさに、現実の状態が、この映画の内容よりも、もっともっとすごいってことね。
そういえば、これには岸田今日子のナレーションも入るんだよな。

―― 熱狂的な『ノストラダムスの大予言』のファンは岸田今日子さんのナレーションとは言わないで、岸田今日子さんの声を“予言の声”と言うんです。

中野　ああ、そうか。予言の声か。
あれは不気味でいいんだよな。

―― タイトルバックの予言詩の朗読はいいんですよね。

中野　そう。そう。
――　（パンフレットを見ながら）中野監督の若い頃の写真が載っていますね。
中野　おお（笑）。これはオープンだろ。
――　そうですね。オープンのコンビナートの爆発シーンですね。
中野　これはバックに黒幕か何か掛けてあるんだよ。
まあ、このカットはプールじゃないと燃やすことが出来ないよ。
（パンフレットを見ながら）それにしても、由美かおるはいい女だったな。
確か、彼女が自宅でタコ焼きを作って来てくれて、特撮のスタッフルームに差し入れをしてくれたんだよ。こんなでっかいタコ焼きで、その日の昼メシは、そのタコ焼きで済ましたよ（笑）。
あれはうまかったよ。
――　撮影中のエピソードとしては、第７ステージの火事ですね。
中野　びっくりした。あれは山火事のシーンの撮影だったよな。
で、あの時初めて、この第７ステージが昭和１３年に出来たことを知ったんだよ。
――　中野監督が、特に気に入った特撮シーンがありますか？
中野　俺がこの作品の中でも好きなのが、この赤潮の絵なんだよな。
これは、俺自身はうまくいったと思っているんだ。
――　有名な、寒天の海を着色して撮影したんですよね。
中野　うん。で、この作品の監修の学者さんで、根本（順吉）さんと西丸（震哉）さんがね、『あれは本物です』って。太鼓判を押してくれて。あれは何処で撮ったんですかって言われてね。
――　それはすごいことですね。
中野　これはね、寒天の中でも赤潮の中の、この色を出すのは大変なことなんだよ。で、ライトがね、表面を滑らせると全部が反射して、色が無くなっちゃうしさ。
――　寒天の海で、青色を出すことは簡単なんですか？
中野　こんなのは簡単。それよりも寒天の海の中に茶色が滲んでゆくね、そういうのが大変なんだよ。
それから、海洋学者のある人がね、研究材料にするからくださいって言ってね、このコマを持っていったよ。
――　そうですか。この作品の特撮シーンには、けっこう細かいシーンが多いですよね。
中野　細かいところだと、この地下鉄のシーンにしてもね、美術が凝っているんだよ。
地下鉄の中の植物にしてもね、本物のワラビとかね、色んなものを使っているんだけどね。
――　植物群が地下鉄脇の側壁から、ドロと共に徐々に出てくるのがリアルでした。
中野　そこまでは覚えてないなあ（笑）。それからね、ゴミの広場でナメクジを撮ったんだけど、あれ、俺が全部立ち会ったんだよ。あのナメクジはね、有機ガラスを使って作ってあるんだ。
――　良く出来てますよね。
火炎放射器で燃やされた後の、火炎と土にまみれてうごめくあたりの描写が良かったです。
中野　火を被っても艶が無くならないようにと、有機ガラスを使ったんだよ。
――　ナメクジは特撮の美術班が作ったんですか？
中野　そうだよ。全部こっちで作って、現場に持って行った。
本物の火炎放射器を使うって、前もって聞いてたから。で、材料をどうするかってね。そこから始まっているんだ。
今だったら、もっと手軽な材料を使うんだろうけど、有機ガラスには勝てないと思うな。
――　ナメクジの動きは、どうやって表現したんですか？
中野　体の中にモーターを仕込んで、あと、ピアノ線の操演で動かしたよ。
――　ＣＧ全盛の現在から見れば、手作りの良さが出てますね。
中野　今ならすぐにデジタル、ＣＧなんだろうけど。
あの艶なんて、ＣＧが得意だからな。
だけども、あの火が被って、あそこでジジっと徐々に表面が焼けていく。あの微妙な表現ってのは、ＣＧじゃ出来ないと思うな。まあ、手作りの良さって言われても、あの頃は全部アナログで、あれしか無かったけどな（笑）。
――　この作品の撮影の日数では、苦労されましたか？
中野　これも、時間が無かったことは確かだね。
――　パンフレットには製作費が６億５千万円なんて書かれてますが…。
中野　アハハハ。これはね、私のコメントするところじゃないですね（笑）。
――　原発の爆発シーンは、撮影の裏話が詳しく載っていますが…。
中野　これはね、美術のスタッフが泣いちゃったよ。

火薬の予算がオーバーですよって。
だいたい俺は、一種類の火薬はイヤなんだ。面白くないんだ。微妙な火薬の調合の中にね、こう、パッと瞬間、形を作ったり、それから広がったりと。それを時間差で点火させる訳だよ。
そのタイミングだよな。これをやったのが、特殊効果の渡辺（忠昭）だったけど、点火用の三味線の針を何本開けるかどうかってね。火薬点火のタイミングには苦労したよ。あと、使った火薬の量も種類も大変なものだったね。これ（パンフレット）には魔法びんのことが書いてあるけど、魔法びんっていっても使ったのは、魔法びんの中だったけど、あれを500本ぐらい買ってきて。爆発の時に魔法びんのガラスの破片が飛び散る際に、周囲の煙を引っ張ってくれたんだよ。
じゃあ、撮影後は片付けが大変だったですね。

中野　ゴミが凄かったな。あんなにゴミを出しちゃイカンね（笑）。だから、まあそういうアナログっていうか、これは緻密な計算とか、勘っていうか、何だろうな。まあ、動物的なものだろうな。

——　今まで監督が培ってきたものの、集大成ということでしょうか？

中野　うん、そうだな。そういうものじゃないかと思うね。だいたいあんまり予算が無いから。
俺のモノを見て、特撮ファンは、爆発だ、爆発だってよく言われるけど（笑）、予算が少ない時は、爆発シーンは、一番効果があるんだな。金が無かったらセットも作れないもんな。

——　中野監督の担当した作品の中でも、これは一番セット数が多いんじゃないですか。

中野　そうだな、一番多いかもしれないな。
それからこれはね、色んな意味で話題を呼んだ作品だったな。ラストシーンなんかにしてもね。
そういえば、山村聰さんの総理大臣のラストの演説のセリフには友幸（田中）さんが、相当こだわってたな。それで舛田（利雄）さんが、何回書き直したことか。そういう記憶があるね。

——　この作品の会議のシーンで、田中友幸プロデューサーが丹波さんの隣に座ってますが…。

中野　ああ、出ているね。

——　監督の舛田さんは、夢の島の群衆で出演しています。

中野　いや、僕も本当は、若者たちの死出の旅路のシーンで、ヨットに乗る予定だったんだけど、さすがにそれは勘弁してよってね（笑）。『東京湾炎上』には、特撮監督の役で俺も出る積もりだったんだけどな、あれは時間が無くてな（笑）。

——　最後にこの商品を買ってくださるファンの方たちに一言お願いしたいんですが…。

中野　こういう商品が出て、これを結構買ってくれるって人がいるということは、結局、作品の絵を見たいってことだと思うんだよね。まあ、それは監督冥利に尽きますよ。
だから、それだけに音だけっていうのは残念だね。まあ、その音から作品の中の絵を、逆算して聞いてもらいたいって気がするんだよね。
それを聞いた人なりの映像が、浮かぶかもしれないね。
まあ、今回は音だけで楽しんでもらって、後は、ちゃんとした映像商品でね。
まあ、僕も絵作りにこだわって作ったんで、是非、ビデオ化を期待したいですな。

——　今日は、ありがとうございました。

DATE　平成10年4月10日（土）池袋「ます久」にて
インタビュー　中村哲　インタビュー協力　木代英明

Catastrophe-1999

ノストラダムスの

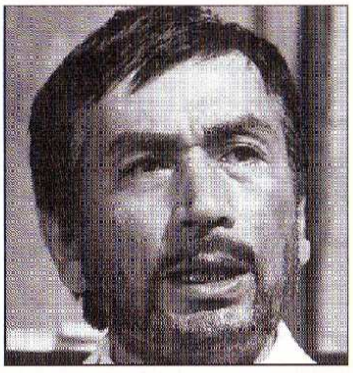
大予言 主要登場人物

キャスト紹介

丹波哲郎

西山玄哲

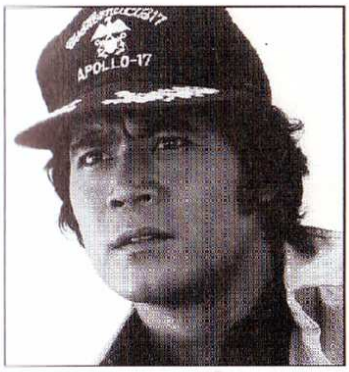
西山玄学



西山良玄

江戸時代よりノストラダムスの「諸世紀」を受け継ぎ、それぞれ受難と戦いの生涯を送った西山三代を丹波哲郎が演じる。
純粋な予言の語り戸ではなく、「詩のイメージ」を詭弁として自らの学問を世に問うというリアルな学者像の設定と、何よりも役者として絶頂期を迎えていた丹波哲郎をキャスティングしたことが効を奏し、東宝特撮映画史上もっともユニークで迫真力をもったキャラクターが誕生した。「大演説映画」「一人芝居」との酷評も、このハイテンションなド迫力演技の前では説得力を持たないだろう。
そう、この映画は単なるデザスタームービーではなく科学者・西山良玄の波乱の人生を描いた“人間”の物語ともなりえているのだ。
主な代表作は、「007は2度死ぬ」「人間革命」「二百三高地」「日本沈没」等多数。「大霊界」シリーズでは製作も担当した。

黒沢年男



中川　明

まり子の恋人、カメラマンの明を演じる。ダンプカーの運転手、キャバレーのドラマーなど職を転々とした後、東宝ニュータレント募集に合格。映画「女体」でデビューする。「日本のいちばん長い日」で立気にはやる青年将校を凄絶なまでの体当り演技で表現し、演技派としても注目された。他の代表作に、「狼の紋章」「ザ・ハングマン（TV）」等。

由美かおる

西山まり子

終末に向かう絶望的な世界の中で、女性としてポジティブに生き抜いていくヒロイン、まり子を演じた。劇中披露する見事なダンスに西野バレエ団仕込みの本格派だ。
代表作に「同棲時代」「日本沈没（TV）」「エスパイ」「コント55号とミーコの絶対絶命」「水戸黄門（TV）」「かげろう忍法帳（TV）」等がある。

司葉子

西山伸枝

良玄を陰から支え、病魔と戦いながらも娘・まり子に「女として生きること」の意味を伝えて、悲運の最期を遂げる伸枝を、熟達した名演で演じきった。
「家庭よみうり」の表紙に登場したことがきっかけとなり「君死に給うことなかれ」で女優デビュー。その後「秋日和」「日本誕生」「紀ノ川」などで好演し、ブルーリボン主演女優賞、毎日コンクール女優主演賞を始めとした数多くの栄誉に輝いている。

山村聰

総理大臣

「世界大戦争」以来２度目の総理大臣を演じ、その威風堂々たる存在感で作品を引き締めた。
小津安二郎作品などに出演する傍ら、自らもメガホンをとり「黒い潮」「蟹工船」などを演出、高い評価を得た。俳優としての代表作には「東京物語」「早春」等があり、特撮作品では最近作に「ゴジラＶＳキングギドラ」がある。

竜崎勝・佐々木勝彦

吉浜（佐々木／左）・大根（竜崎／右）

西山研究所から派遣されて原子灰の降るニューギニアに赴き、非業の最期を遂げる所員を各々演じた。
佐々木勝彦は「メカゴジラの逆襲」の主演で特撮ファンにはお馴染み。竜崎勝は「八甲田山」「白昼の死角」などで渋い脇役を演じる傍ら、ＴＶ番組「くいしん坊万歳」のレポーターやＮＨＫ朝の連続ドラマ小説「春のじゅうたん」にも出演してお茶の間で人気を博していた。

谷口香

おりん（玄哲の妻）

玄武（玄哲の子）

田遠実

瀬良庄太郎

開発大臣

志村喬

病院院長

良玄に「医者の哲学」を説く、病院院長。演じるは、NYタイムズ誌をして世界最高の演技者と言わしめた名優、故・志村喬である。「ゴジラ」の山根博士役はあまりにも有名。代表作は「七人の侍」「生きる」等多数。

浜村純

木田

西山研究所所員として公害の撲滅に尽力する木田を演じる。プロレタリア演劇研究所の三期生として宇野重吉らと共にデビュー。代表作に「串弥呼」「キューポラのある街」「砂の器」「地獄」「メインテーマ」等。

内藤武敏

官房長官

「帝銀事件・死刑囚」など数多くの熊井啓監督作品に出演、硬派な男優として圧倒的な存在感を放つ。代表作は「真昼の暗黒」「日本列島」「ビルマの竪琴」「人間の条件」第３部・４部、同完結編、「獄門島」等。

鈴木瑞穂

環境庁長官

数多くの超大作・問題作に出演、社会派の役所を演じては抜群の説得力を発揮する名優。代表作に「白い巨塔」「地の群れ」等があり、特撮物では「東京湾炎上」の葛木本部長や復活「ゴジラ」の外務大臣役等が印象に残る。

青木義朗

柏尾憲兵少佐

映画冒頭、玄学を取り調べる憲兵として登場、短い出番ながら強烈な印象を残した。日本では数少ないハードボイルド俳優として貴重な存在感を持つ俳優である。他の出演作に「高校大パニック」「首都消失」等。

平田昭彦

植物学者

良玄と共に環境破壊の恐ろしさを説く植物学者を演じた。東宝の特撮映画にに欠かせぬ俳優であり、故人となった今でも、その名演を偲ぶファンは数知れない。代表作は「ゴジラ」「地球防衛軍」「人間革命」他多数。

小泉博

動物学者

過密都市東京の動物学的問題点を指摘する科学者を演じる。ＮＨＫアナウンサーを経て俳優となり、「ゴジラの逆襲」「マタンゴ」等、数多くの特撮映画に出演した。ＴＶ「クイズグランプリ」の司会としても有名。

谷村昌彦

田山

日々の生活に不安を感じ、長玄に相談を持ちかける田山を、庶民的な人なつこさで演じる。柳家金語楼劇団・金星プロに所属し、所謂アチャラカ喜劇で活躍した。映画出演作に「おトラさん」「野性の証明」等がある。

下川辰平

自衛隊隊長

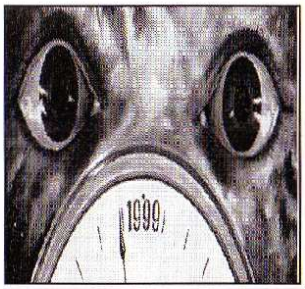
夢の島に現われたナメクジ状の怪生物を焼却処理する自衛隊の実直な隊長を演じる。TV「太陽にほえろ！」の野崎刑事役として有名で、他に「黒部の太陽」「甦る大地」「聖職の碑」など映画出演作も多数。

納谷悟朗

太田一雄

世界各地で続発する災害を伝えるTV番組のキャスター役として登場。当時のアニメファンには銭形警部の素顔を知る絶好の機会となった。特撮物ではニック・アダムスやジョセフ・コットンの吹き替えも担当している。

岸田今日子



予言の声

本作品を象徴するファクター「予言の声」を担当。もはやこの人以外には適任者がいないというほどのハマリ役であった。個性派女優として「砂の女」「戦争と人間」などに出演、声優業としては「ムーミン」が有名だ。

Catastrophe-1999

ノストラダムスの大予言 主要スタッフ紹介

監督・舛田利雄

昭和2年神戸市生まれ。20年新東宝助監督部に入社。中川信夫、井上梅次などに師事する。33年日活に移り「心と肉体の旅」でデビュー。以降45年に退社してフリーとなるまで数多くのアクション映画を演出し、黄金期の日本映画界に活力を与え続けた。

娯楽、文芸とあらゆるジャンルをものにしてしまう卓抜した映画センスと職人気質の手堅さで現在も活躍中。

※主な代表作／「人間革命」「二百二高地」「大日本帝国」「日本海大海戦・海ゆかば」「片翼だけの天使」「首都消失」他。

特技監督・中野昭慶

昭和10年満州に生まれる。34年、日大卒業後東宝に入社する。もともと演出志望であったが、映画のメカニズムを探究するため特撮部門に転向。円谷英二に師事したのち、「ゴジラ対ヘドラ」「沖縄決戦」で特殊技術を担当、続く「日本沈没」で特撮監督となる。

ダイナミックでスケールの大きな特撮を得意とし、重厚感溢れる映像で数々の作品を成功に導いた。

※主な代表作／「ゴジラ対メカゴジラ」「連合艦隊」「ゴジラ（'84）」「首都消失」「ブルガサリ」「竹取物語」他。

製作・田中友幸

明治43年大阪府出身。戦前は劇団の経営や演出にも携わり、やがて東宝に入社。昭和29年「ゴジラ」を製作し大ヒットを呼ぶ。以後、無数の娯楽・文芸大作を世に放ち、その人生の大半を日本映画の発展に捧げた。

「ゴジラの産みの親」といってくくりだけで氏の業績を語るのはあまりに狭量な見識であるが、日本の特撮映画を語るうえでは間違いなく最重要人物の一人である。

※主な代表作／「さらばラバウル」「世界大戦争」「日本沈没」「影武者」等多数。

〈写真は「ノストラ」に特別出演した時のもの〉

特撮監督助手・川北紘一

昭和17年東京生まれ。中学時代に観た、「地球防衛軍」に感動、後に東宝特技課へ入社する。TV「ウルトラマンA」などで頭角を現わしたのち、「ノストラ」でチーフ助監督を担当、「大空のサムライ」で遂に特殊技術として演出を担当する。平成ゴジラシリーズは、その技量と独自のプロデュース術が結合した日本映画最長の大河的特撮シリーズとなった。

※主な代表作／「さよならジュピター」「零戦燃ゆ」「ヤマトタケル」「モスラ（'96）」他。

協力監督・坂野義光

昭和6年愛媛県生まれ。東京大学美学美術史学科を卒業後、東宝に入社。黒澤明、成瀬巳喜男に師事したのち「ゴジラ対ヘドラ」でデビューした。「ノストラ」では海外ロケの監督を担当したが、この他にTVシリーズの「素晴しき世界旅行」など紀行物も得意としている。

Catastrophe-1999

ノストラダムスの

大予言

世紀末怪獣大図鑑

東京地下の怪植物

●一夜にして東京都内の地下鉄内に大繁殖した未知の巨大な雑草。軌道内一杯に張り巡らされた強靭な根はコンクリートの内壁さえ崩壊させてしまった。
太いつる状の茎と扇大の葉を有し、驚異的な成長力で急停車した地下鉄に侵入、乗客をパニックに陥れた。

突然変異大ナメクジ

●夢の島に蓄積された廃棄物の公害成分が生み出した奇怪な生物。劇中では「ナメクジのような３～４０センチの化け物」と語られており、実際にこれがナメクジの変異体かどうかは明確にされていない。その毒性を危惧した政府が、陸上自衛隊による火焔攻撃を即断、廃棄物ごと焼却されてしまう。

〈ニューギニア編〉

巨大肉食コウモリ

●大量の原子灰が降下したニューギニアのジャングルで突然変異、発生した巨大なコウモリ。放射能による影響で餌となる小動物が全滅したため、熾烈な生存競争が発生し、凶暴性が増大している。群れをなして良玄ら探検隊を襲撃した。

放射能苔

●原子灰によって汚染された苔。この苔を常食していた生物がその影響を受け、死ぬか劇的な変異を起こすに至った。

猛毒吸血蛭

●放射能を含んだ苔を食べて変異した山蛭の一種。樹上より大群が豪雨のように降り注ぎ、人間の全身に吸いついて、輸血が必要になる程大量の体液を奪う。脳神経を狂わせる猛毒を持ち、これに犯された人間は、凶暴化と空白状態を繰り返した後、やがては生ける屍と化してしまう。劇中、第1次調査隊はこの蛭の猛襲によって致命的なダメージを被ったものと推測されている。

巨大食肉樹

●放射能により大型化した食肉樹。ジャングルの野鳥などをひと飲みにする口と、巨大な消化袋をもち、原色の怪しい花を咲かせる。

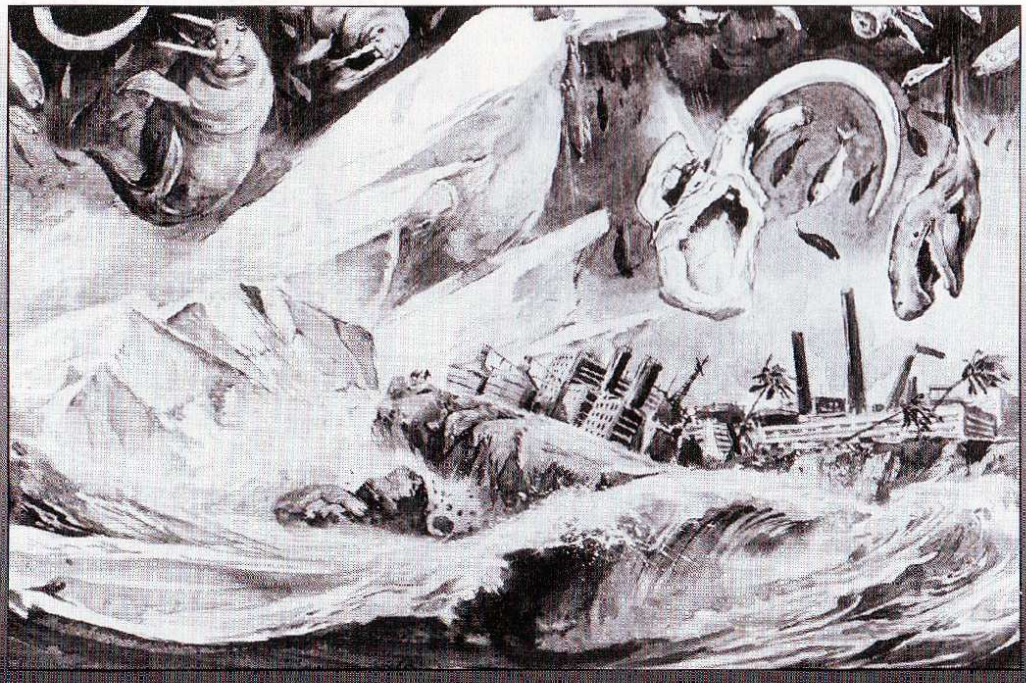
大ミミズ

●ラスト近く登場する未知の未来生物。

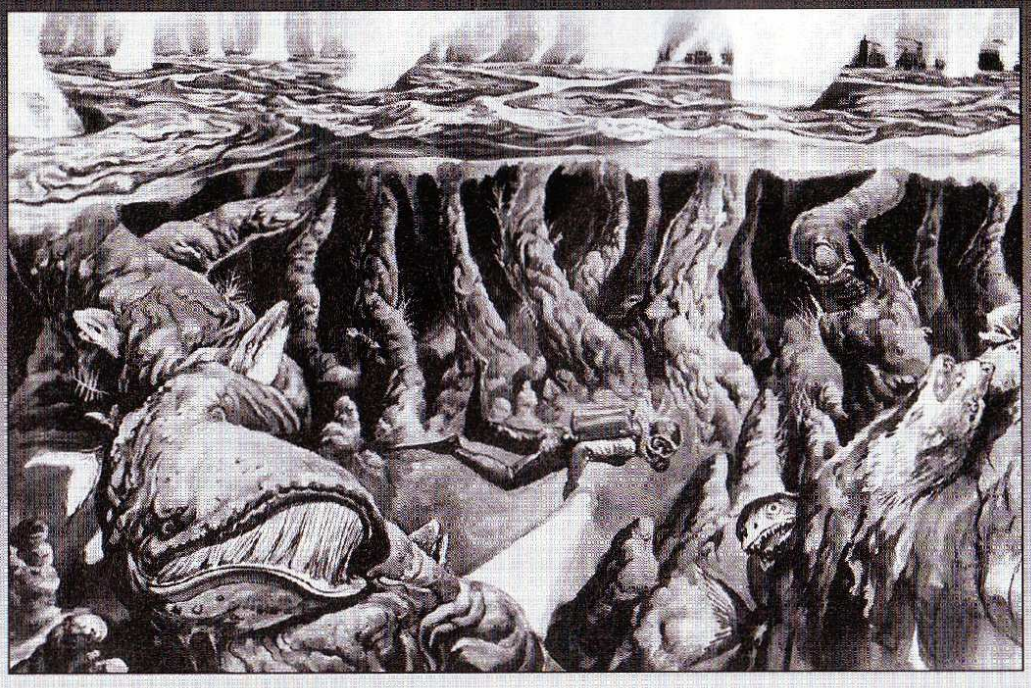
初公開！イメージボードコレクション

撮影前に描かれたと思われるイメージボードが、今回のＣＤ化にあたり発見された。
「ノストラダムスの大予言」という作品が完成するまでに、どのようなイメージの変遷があったのか。
これは「誰も見たこともない終末の世界」の表現に果敢な挑戦をした、スタッフ健闘の記録である。

●スモッグの空・地下ガス帯が出来て、やがて人間は…



●ハワイ方面を南下する氷山（空から海中生物が降って来た）



●ヘドロの体積物は（海中生物の死体を核にして）遂に…

●生物を溶かす集中スコール

まるで悪夢を見ているかのように幻想的な構成、さらにちぎれ飛んだ人間の四肢や首、奇形化した鯨などのキャラクターを眺めていると、当初考えられていた本作品のイメージがいかに空想的で奔放なものであったかがわかる。
これはまさに、「ノストラ」が持つ映画的なもうひとつの可能性であった。

※各イラスト下のタイトルは、それぞれ原本に記載されていたメモをそのまま掲載したものです。

新聞記事と広告にみる

大予言事件簿

↑朝日新聞夕刊（昭和49年7月26日）より。
ポスター等に使用されている代表的なイラストモチーフではなく、キノコ雲をバックに配して映像的なイメージにまとめた新聞広告。シンプルでダイナミックな構成が迫力を醸し出している。

↑朝日新聞夕刊（昭和49年7月5日）より。
イラストポスターの一部をアレンジし、主演の丹波哲郎をより大きくアピールした縦型新聞広告。
この頃は「まだ２５年もある」とみんな思っていた。

朝日新聞夕刊（昭和49年8月16日）より。 →
全国の上映劇場が一覧出来る新聞広告。
１９９９年を指そうとしている時計のまわりに群がる人々を、当時の観客の写真コラージュでデザインしたアイデアもの。
「恐怖のスペクタクルが大評判です！」のキャッチがなんだか可笑しい。

東宝

史上空前の製作費（6億5千万円）圧倒的な映像で描く恐怖の超大作！

1999年7月の月——地球は〝死の惑星〟となる！

我々の子孫は、我々の子供時代と同じように、たのしく遊べるだろうか。我々の子孫は、我々の青春時代と同じように、はげしく走れるだろうか。

そして、こんな心配をした人類は過去にいただろうか。我々はなんでこんな毒をまきちらし、自然を破壊してしまったのだろう。〈SF作家〉半村 良氏

一人一人に決断を迫る映画〈SF作家〉石川喬司氏

■正直言って僕は大予言なんて信じない。しかし、この映画は違う。観客はむしばまれ行く人類文明の自画像に対面させられ、その恐るべき地獄図から決して眼をそらすことは出来ないだろう。これは僕ら一人一人に決断を迫る映画である。

地球が発狂しはじめた〈科学評論家〉斉藤守弘氏

■私は思うのだが、今の消費文明の行き過ぎは、人間とそれを取り巻く自然とのバランスを崩し、この地球の大自然そのものが発狂しはじめる。そこから想像を絶する途方もない自然界の狂い、常識外れの現象が続発するのを恐れる。

特別鑑賞券 凄い人気を呼んで 絶賛前売中

■お近くの東宝系劇場及び東宝洋画ロードショーチェーンでお求めください。

7月25日(木)NHK 20:00 8チャンネル・フジテレビ・木曜大特集「ノストラダムスの大予言」特集を放映いたします。ぜひご覧ください。

8月3日〈土曜〉衝撃の全東宝系一斉公開

同時上映〈カラー作品〉ルパン三世・念力珍作戦

ノストラダムスの大予言

〈カラー作品〉catastrophe 1999

丹波哲郎 由美かおる 黒沢年男 司葉子 山村聡

監督■舛田利雄 特技監督■野村昭夫 製作■田中友幸・田中収 撮影■鈴木一正 美術■村木与四郎 音楽■佐藤勝

「日本沈没」に続いて科学の粋と無限のイマジネーションを駆使して人類滅亡の瞬間を描くスペクタクル巨篇！

■

〈特別スタッフ〉異常気象■根本順吉／地震予知■茂木清夫／超自然現象■斉藤守弘／天生態学■四丸慎敬／作家■半村良／SF作家■石川喬司

市定常券お求めの方（左記3枚、先の各500円様）に〈大予言〉特製ネクタイピンをプレゼントします。

明20日〈土曜〉指定席券 前売開始！

■電話予約も承ります。

ヒビヤ 千代田劇場 新宿武蔵野館 テアトル銀座

先の3館は「ノストラダムスの大予言」のみ上映

時間	
10:30	45
12:00	15
3:15	30
5:30	
指定席	
1,500円	

アラスカの別荘地が当る ジャンボ水時計クイズ

明20日〈土曜〉★夏休み★東宝系大公開

急げ！若者

★ジャニーズ★郷ひろみ〈青春〉を直撃！

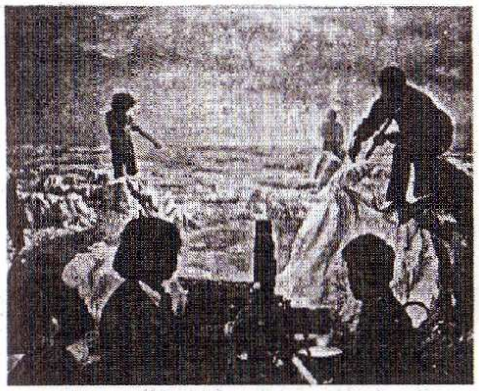
血を吸う薔薇

クールな恐怖美にしびれた。（週刊ポストより26日号）

オカルト映画の決定版！

↑朝日新聞夕刊（昭和49年7月19日）より。

半村良のコメントが、公害時代といわれた当時の風俗をよくあらわしている。また、公称製作費は6億5千万円とされている。となりの「血を吸う薔薇」帯広告にも注目。



「ノストラダムスの大予言」の現場、熱ぼうするスチールの流水膜

特撮、大詰めに

「ノストラダムスの大予言」（東宝）

公害、異常気象がテーマ

「日本沈没」で自信のスタッフ

←毎日新聞夕刊（昭和49年6月3日）より。

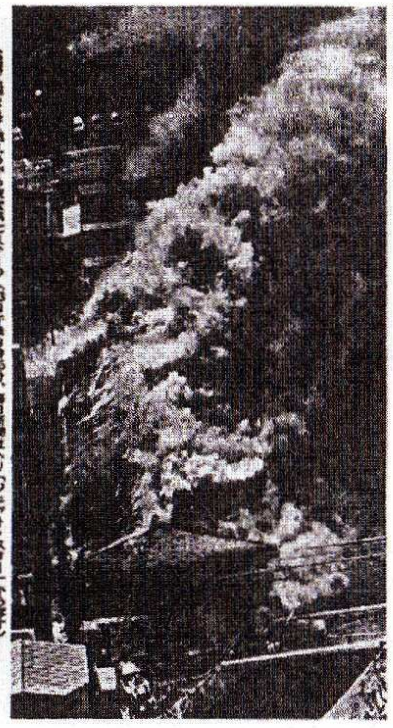
何と!劇中、黒沢年男の父親役を演じた平田未喜三氏は千葉県鯛南市で「地下タビ町長」として有名な素人さんであった。あまりに堂々とした演技にプロの役者だと思っていた人も多かったのでは……。「最近四次元の世界に興味を持ち始めてね」という丹波哲郎のコメントは、やがて四次元を飛び超えて霊界研究者となる自分の未来を「予言」した名言（？）である。

毎日新聞（昭和49年12月19日）より

ノストラダムスの大予言

「差別場面」はカット

東宝、被爆者団体に約束



「大予言」火事を予言せず

東宝撮影所焼ける

毎日新聞（昭和49年5月14日）より

あまりにも有名な「大予言、火事を予言せず」の新聞記事。詳しい内容についてはグラビアページを参照していただきたい。

お詫び

当社が製作配給しました映画「ノストラダムスの予言」には、その製作意図に反し、心ない表現や被害者の方々に対する配慮に欠如の部分があり、被爆者の方々に対する問題を提起しました点、深くお詫び致します。

つきましては十二月二十日以降、その部分をカットしたものでご提供を願うことお願い致します。

昭和四十九年十二月二十五日

東宝株式会社
株式会社東宝映画
東宝映像株式会社

←毎日新聞（昭和49年12月25日）より。
左上の記事を受けて掲載された東宝の謝罪広告。この日「ノストラ」完全版の存在はこの世から消滅した。
道義的に正しい選択も、ファンにとっては痛恨の一事となる。大多数の観客にサービスすることは、一方で一部の人々に複雑な思いをもたらすことでもあるのだ。
「芸術性」か「社会道徳」か。このせめぎあいは、映画が娯楽としてこの世にある限り永遠のテーマとして提示され続けることだろう。

1999年地球の生物は全て死滅し、この冷たい孤独な星に 再び熱い血が甦るのはいつの日か?

人類滅亡への14大
スペクタクルシーン

❶東京に突然変異の動物が群生
九人血液研究室がE-2の新種が2匹の異形が群生。自衛隊の出動部隊が出撃し、最後の保護作戦を展開したが…これが地球異変の始まりとなった。

❷地下鉄、ジャングルに
暗いスモッグに覆われ、暗い、寒い日が続いた続く日、突然、地下鉄のトンネルに、ガビガの巨大な植物が発生した。

❸原子灰が各地に集中降下
大気圏内に蓄積された原子灰は、ジェット気流に乗って、世界各地に集中降下し始めた。大量の放射線汚染によって、動物、植物に異形変異が続発、人類の暗い未来を示した。

❹ニューギニアに異常事態
原子灰が最も多量に降下したのは、地球上で二番目に大きい島、南太平洋のニューギニアだった。国連の第一次調査団は全滅、第二次調査団も、惨敗を終る異常事態に直面した。

❺北極海の氷山が急激に融解
成層圏で破壊したフロンの事故…その為、地球を覆っていたオゾン層が破壊された。温暖化の影響は北極海の氷の厚さは世界を直撃。動物は狂ったように、氷山は溶け、海洋の水位は急上昇した。

❻熱帯の海が氷結を始める
熱帯の空は、厚いスモッグの雲で覆われていた。それに、太陽の光と熱を奪い、熱帯を極寒の地に変えた。海は急激に氷結を始め、氷海に閉じ込められた船が続出した。

❼大空が巨大な鏡に変化
公害物質が充満した異常の空は、太陽が反射鏡となり、異常の術を示した。地上を圧迫するように、過ぎさる、電磁波の雲が覆いかぶさり、発狂する船員が続出した。

❽アメリカ穀倉地帯に大洪水
米国中西部に集中豪雨が襲った。ロッキー山脈の雪解水に続くミシシッピー河のはん濫は穀倉地帯に大打撃をあたえ、水面は、農作の植えはおろか、収穫もできなくなった。

❾マンモス・タンカー炎上
東京湾に緊急避難したマンモスタンカーが座礁炎上。東京湾はふたたび一大の海となり、品川から工場地帯へ燃え広がった火は、やがて京浜工業地帯を全滅させた。

❿赤潮にむしばれる瀕死の海
赤潮は、工場排水などによるプランクトン大繁殖によって起る。赤い海は死の海である。餌を奪われた魚は死に、やがてすべての生命がなくなる。

⓫高速道路が一瞬にして火の海
大都市の都市から脱出しようと、高速道路は殺到する車で身動きもできない。一台が火を吹くと、動くガソリンタンクは連鎖的に爆発を起こした。高速道路は火の海となって東京を包む。

⓬大森林、工場群の炎上
原子力発電所の事故は、太陽の紫外線遮断によって枯れていた大森林を燃え上らせた。かつてないスケールの山火事は、工場群へも飛び火し、日本の繁栄をかい滅させた。

⓭世界ミサイル戦争
戦争するか?戦って死ぬか?…食糧危機は、遂にミサイル戦争を誘発させた。世界の各都市は死滅してゆき、なおかつ各国のミサイルは、オートマチックに発射され続けていた。すべて奪うそすべて…

⓮ここに人間がいた…荒廃の関東平野
荒土だけになった関東平野。もう人間はいない。たとえ、でも生きられない。文明がもたらした荒廃なのか?人間が地球に生まれた時から持っていた運命なのか?

東宝

〈カラー作品〉
原作■五島勉
『ノストラダムスの大予言』(祥伝社ノン・ブック)より
監督■舛田利雄
特撮監督■中野昭慶
製作■田中友幸/田中収
脚本■八住利雄

ノストラダムスの大予言

Catastrophe 1999

丹波哲郎
由美かおる
黒沢年男
司葉子
山村聡
岡田茉莉子 特別出演

映倫

〈特別スタッフ〉
異変気象■桜木健古/植物社会学■宮脇昭/超科学現象■芦辺守弘
食生態学■西丸震哉/作家■半村良/作家■石川喬司

■本作の見せ場を一堂に網羅したB全ポスター。従来の「東宝写真ニュース」などの超ワイド版といったところだろうか。数多く作られた「ノストラ」宣材の中でも珍しいものである。

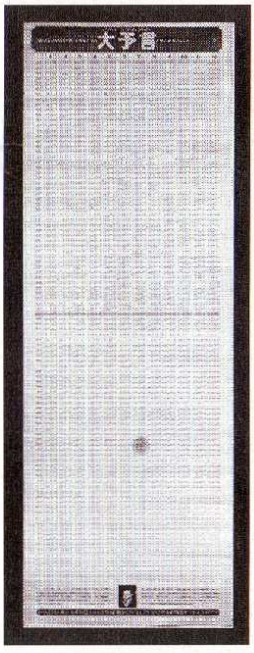
Catastrophe-1999

ノストラダムスの大予言 資料館

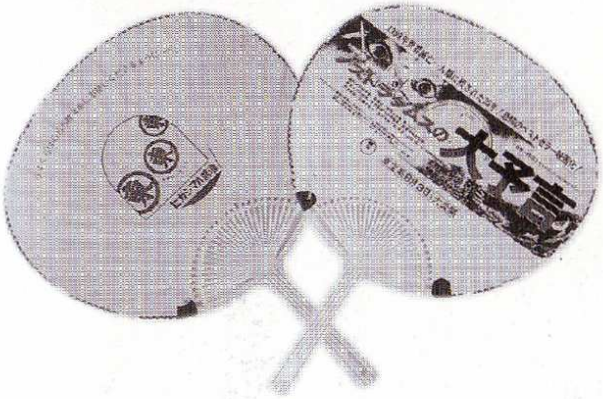
特典に出来なかった宣材

■178.5×119.5（cm）という特大サイズのポスター。

■当時、一部劇場のみで販売されていた「大予言」ネクタイピン。



■これ1枚で一生役立つ？世紀末カレンダー。2025年までの日付が一望できる。



■当時、劇場で配布されていたうちわ。夏の話題作らしい宣材だ。

■車内吊り広告

■チラシ裏面。今回復刻特典として封入された広告刷り込み版と違い、こちらがおそらくスタンダード版であろう。各界著名人のコメントが時代をうかがわせる。

予告篇

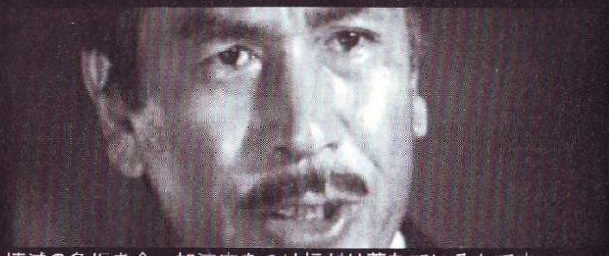
大都市崩壊

１９９９年の７の月、空から恐怖の大王が降って来る…

タイトル『ノストラダムスの大予言』予告篇

夢の島に異変！

声「大地と大気は冷えてゆく…」



壊滅の急坂を今、加速度をつけ転がり落ちているんです…

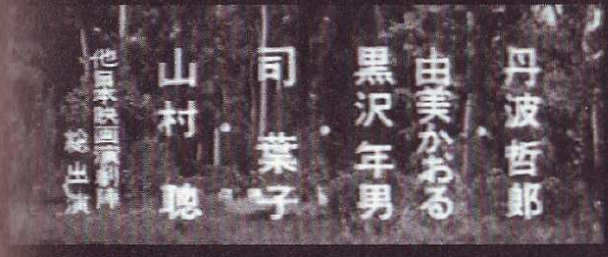
声「そしてもう晴れることはなくなる…」

声「美しい処女の煌き、それはもう輝くことはない…」

伸枝「どんな時代にも、女は新しい命を生んで、それを立派に育て上げてゆくのが、女の努めだと思います…」

予告篇

暴徒と化した民衆

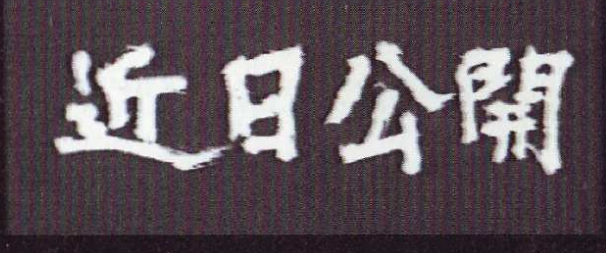


＊予告編でしか見ることのできない、貴重なカット
（本編未使用・アングル違い）

＊本編と予告編の字幕スーパーの入り方が異なる。本編では、
「彼らも人間だ　撃ってはいかん」フィルムストーリー２０３参照

タイトル「ノストラダムスの大予言 catastrophe-1999」

この燃えさかる文明の業火のなかで…日本は、そして世界は、
本当に滅び去って行かなければ、ならのいのか！？



『ノストラダムスの大予言 Catastrophe-1999』（1時間54分）

——東宝映画・東宝映像提携——

製作年度　1974年（S49年）
Crank in（'74年5月11日）　Crank up（'74年6月30日）
検　定（'74年7月24日）　封　切（'74年8月3日）

ノストラダムスの「諸世紀」を研究してきた科学者が人類滅亡の危機を目の当たりにし、苦悩する姿を特撮を駆使して描く。

——CAST——

丹波　哲郎
由美かおる
黒沢　年男
司　葉子
山村　聰
志村　喬

——STAFF——

製作　田中　友幸
田中　収
監督　舛田　利雄
原作　五島　勉
構成・脚本　八住　利雄
潤色　舛田　利雄
坂野　義光
撮影　西垣　六郎
美術　村木与四郎
録音　増尾　關
照明　小島　真二
編集　小川　信夫
助監督　岡田　文亮
製作担当者　村上　久之
音楽　富田　勲
振付　川西　清彦
監督助手　西川常三郎
安田　真人
大河原孝夫
正森　和郎
撮影助手　岡田　久広
牧村　壽夫
関口　芳則
脇屋　隆司
照明助手　友成　富男
栗山孝三郎
荒井　定邦
栗木原　毅
蝶谷　幸士
斉藤　薫
南　仁
入口　正平
照明準備責任者　伊久間　衛
録音助手　池田　昇
近田　進
影山　脩
膳師　豊
特殊機械　三輪野　勇
田中　豊夫
鹿山　和男
美術助手　村瀬　継雄
沼田　和幸
酒井　賢
菊地　昭
大道具班長　相沢　政二
大道具助手　滝井　英二
長南　豊彦
高橋　義三
組付　阿部　清壮
装飾小道具　田代　昭男
佐々木大三郎
宮内　寿明
電飾　佐々木康二
衣裳　百沢征一郎
編集助手　岩谷　圭祐
武田　勲
上池　康夫
結髪　松本　好子
メーキャップ　秋田乃吏子
スチール　石月　美徳
記録　梶山　弘子
作品係　本田　弘明
宣伝係　鹿野　英男
製作係　藤田　昭
前田　光治

〈B班〉

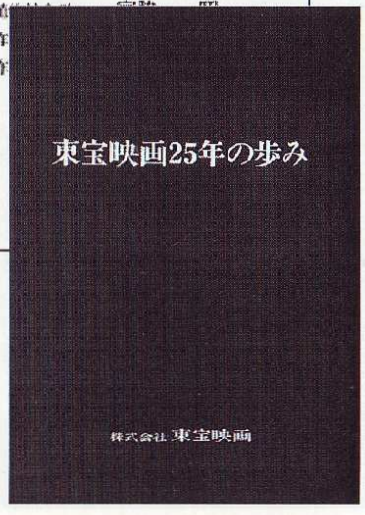
監督　坂野　義光
撮影　鷲尾　馨
製作担当者　徳増　俊郎
監督助手　橋本　幸治
撮影助手　古山　正
五十畑幸勇

〈特殊技術〉

特技監督　中野　昭慶
撮影　富岡　素敬
山本　武
美術　井上　泰幸
照明　池田　泰平
スチール　田中　一清
光学撮影　宮西　武史
合成　松田　博
光学作画　石井　義雄
操演　松本　光司
特殊効果　渡辺　忠昭
助監督　川北　紘一
製作担当者　篠田　啓助
監督助手　神沢　信一
西田　耕一
吉富　昌彦
撮影助手　柿沼　勝
池田　雅行
伊藤　野鳴
江口　憲一
高橋　昌徳
長谷川千尋
桜井　景一
照明助手　宮川　清
高橋　保雄
白川　浩
町田　勇治
田村　研二
峰　和男
照明準備責任者　赤沢　利広

〈特別スタッフ〉

異常気象　根本　順吉
食生態学　西丸　震哉
超科学現象　斉藤　守



東宝映画25年の歩み〈非売品〉

東宝映画25周年を記念して、関係者のみに配布された社内史料

表紙⇒

海外版研究序説 海を渡った映画『ノストラ…』

■『ノストラダムスの大予言』の海外版について

ノストラダムスの大予言 Catastrophe-1999 と題するように、英語のサブタイトルを付記された意図には、当初より海外向けの上映を意識して制作されたものとおもわれる。

しかし、アメリカでは一般の劇場公開はされておらず、唯一、カリフォルニアのジャパンセンター内での「国際劇場」において、(イベント的な東京国際映画祭のようなもの) 英語字幕のノーカット版が、期間限定ではあるが、上映されたものと推定される。

■イギリス、フランス、カナダでの劇場公開及びタイトルについて

確認された情報によれば、本作は東宝国際（株）が『PROPHECIES OF NOSTRADAMUS』というタイトルで、カナダ及び、北米向けの作品として、Frontier Enterprise 社へ販売した。

しかし、Frontier Enterprise 社によって、編集に手が加えられており、８８分と日本版より大幅に短縮されている。

その内容は、日本版とは大筋では変わりないが、画面サイズもシネマスコープからスタンダードに変更され、題名も、『THE LAST DAYS OF PLANET EARTH』と改変され、英語の吹き替え版が作られた。

その後、『THE END OF THE WORLD』と改題。フランス及び、カナダ向け（フランス語圏）に販売され、１９７７年に劇場公開されている。

一方、ヨーロッパの英語圏においての公開は、イギリスにて『Catastrophe-1999』のタイトルで劇場公開されているが、惜しくも「X 指定」…１８歳未満はお断りの上映であった。

このことから、イギリスでの上映は、日本での公開時に問題があったシーンも収録された完全版が、上映されたものと推測される。

その後、このフィルムは…『緯度０大作戦』、『惑星大戦争』等の東宝特撮映画数本と一緒に、Gold key Entertainment 社に、買い取られ、１９８１年の始め頃に、ＵＰＡにてテレビ放映された。

又、この作品はパラマウントより、ビデオとレーザーディスクのソフトが発売されていた。（現在入手困難）

Catastrophe-1999

（海外版タイトルのロゴ）

PROPHECIES OF NOSTRADAMUS

（海外版タイトルのロゴ）

PROPHECIES OF NOSTRADAMUS: CATASTROPHE 1999
(Nosutoradamasu Daiyogen)

Toshio Masuda, 1974. 90 min., color, widescreen. A Toho Film. New York Premiere.

sc: Toshio Yasumi; ph: Rokuro Nishigaki; music: Isao Tomita; dir. special effects: Teruyoshi Nakano.

With Tetsuro Tanba, Toshio Kurosawa, So Yamamura, Kaoru Yumi et al. In Japanese, with English subtitles, 35mm.

The French astrologer/prophet of four centuries ago, Nostradamus, predicted that the world would end in July, 1999. Dr. Nishiyama (Tanba), an environmental scientist, begins to discover strange abberrations in the environment, attributable to pollution. Soon he sees that Nostradamus was not far off the mark, but by then it is too late, and thirty minutes of rampant destruction ensue. Pollution has replaced radiation as the bogeyman here, a logical substitution in the wake of such true-life disasters as Minamata.（詳細不明・・・海外の記事）

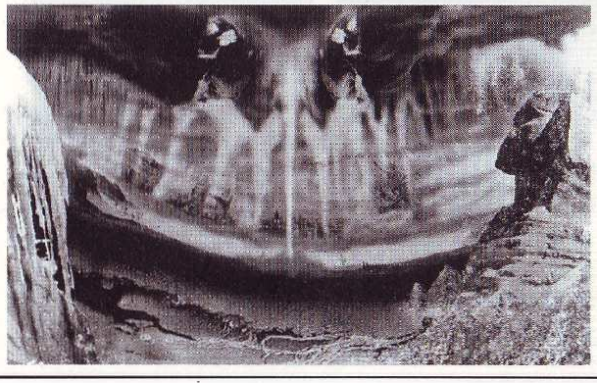
Last Days of Planet Earth, The (1974-Japanese) **C-90m.** BOMB. D: Toshio Masuda. Tetsuro Tamba, Toshio Kurosawa, So Yamamura, Kaoru Yumi. The air and sea are polluted, children attend school in gas masks, parents hallucinate—all predictions of Nostradamus. Preachy, laughably staged, atrociously dubbed; presented, perhaps, by the *National Enquirer*. Original title PROPHECIES OF NOSTRADAMUS: CATASTROPHE 1999.

これは、アメリカで劇場公開、テレビ放映、ビデオ化された作品がアルファベット順に紹介されている、Leonard Martin 著の「TV Movies」という洋書に記載された『ノストラダムスの大予言』の評価である。

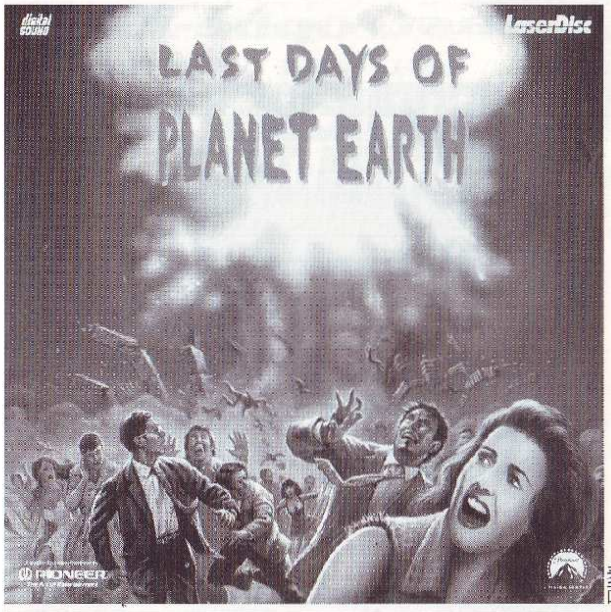
各作品には、「＊」単位で点数が付けられており、「＊＊＊＊」が最高点で、評価しえない作品には、あえて採点されずに「BOMB」と書かれている。

日本映画もかなり多く取り上げられており、特に黒沢明監督の作品は絶賛されているが、東宝の特撮映画はかなり厳しい採点がなされている。

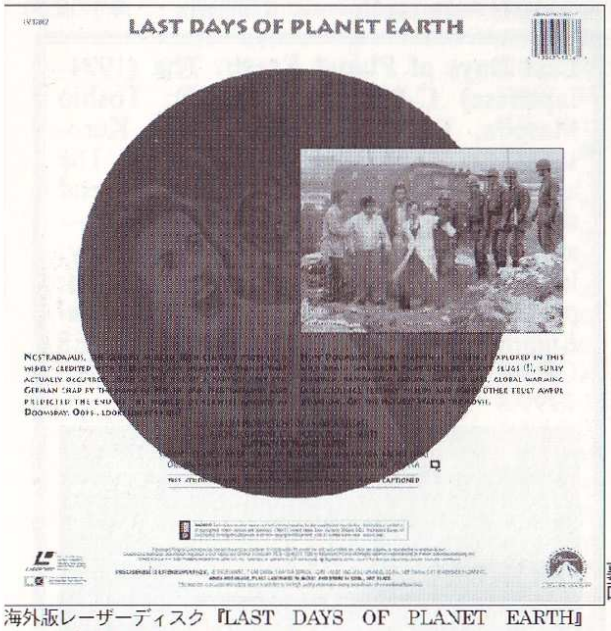
なお、「BOMB」の殿堂入りをした東宝の特撮作品は、『サンダ対ガイラ』、『キングコングの逆襲』、『８４ゴジラ』の３本で、新たに本作『ノストラダムスの大予言』が加えられている。



LAST DAYS OF PLANET EARTH



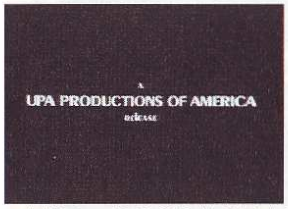
表面



裏面

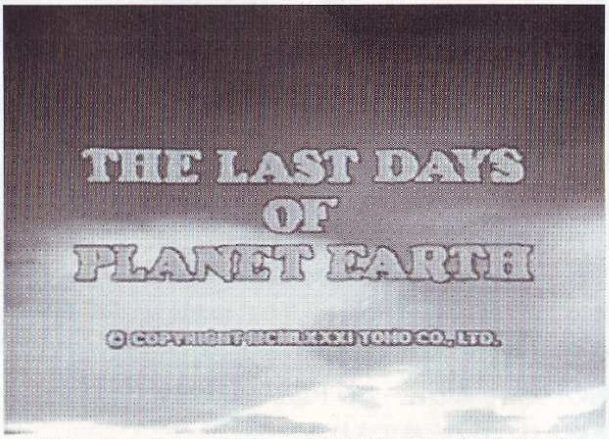
海外版レーザーディスク『LAST DAYS OF PLANET EARTH』

■ 海外版のタイトル、キャスト、スタッフ…



UPA PRODUCTIONS OF AMERICA、そして、TOHO COMPANY, LTD. のクレジットの後、いきなり、丹波哲郎の演じる玄学が、英語でのナレーションによって、ノストラダムス自身を、想像させるように描かれ、（日本版にあるような西山家の歴史は流れない）世界の歴史が流れる。

その直後に、メインタイトルが、映し出される。



以下、キャスト、スタッフ、のクレジットがメインテーマの曲とともに映し出される。

出演者　丹波哲郎　黒沢年男
山村聰　出美かおる

原作者　五島勉
（表記ミス　BEN　GOTO）

撮　影　西垣六郎
特技監督　中野昭慶

脚本　八住利雄

製作　田中友幸

監督　舛田利雄

キャストは4名、スタッフは計6名、の以上である。

ラストは日本版でタイトルバックに使用された核爆発のシーンを流用し“ THE END ”の文字で終わる。

比較検証 海外版と日本版

■海外版の主なカットされたシーン

①オープニングからタイトルバックまでが、大幅に短縮、編集されている。日本版ではタイトルバックに流れる岸田今日子の「予言の声」が、英語での男性の声（本編も）に変更されている。

②バレー教室でレッスンを教えるまり子のもとへ、アフリカから帰国した中川が尋ねてくるシーンを全てカット。

③街頭のオキシダント濃度の表示板をカット。

④すき焼き鍋を囲んだ西山家の団欒のシーンで、中川が豆腐を食べるくだり、良玄がＡＦ-２という防腐剤について語りだす、その後から全てをカット。

⑤サハラ砂漠の飢餓の写真～元の茶の間から縁側に場所を変え、良玄と中川が話をしているシーンをカット。

⑥西山環境研究所の所長室で、良玄と木田が、金策の話をしているシーンをカット。

⑦討論会「自然と人間と未来」のシーンを短縮。

⑧娘が死産した病院の廊下で、良玄に怒りをぶつける木田のシーンをカット。

⑨新聞記事「ニューギニア奥地で異常事態」をカット。

⑨羽田空港の駐車場で、第一次調査団を見送る良玄と所員たちのシーンをカット。

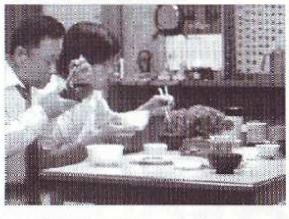
⑪西山環境研究所の所長室で、田山夫妻の相談を聞く良玄のシーンをカット。

⑫田山夫婦が帰った後、所長室に井原が入ってきて、尼崎で起こった患者のレントゲン写真をみるシーンをカット。

⑬新聞記事「またまた奇病か！人間が縮む」をカット。

⑭ニューギニアの奥地で原住民に襲われて、隊員が食べられるシーンをカット。

⑮ニューギニア奥地で、夜間の原住民との格闘シーン、及び、ＳＳＴが成層圏において爆発した影響で、世界各国の異常現象が起きるシーンから、良玄が報道陣のインタビューに応じている際、まり子が自宅から電話をかけてくるシーン迄の１３分１１秒が、裏焼きになっている。



納谷悟朗演じるニュースキャスター“太田一雄”の文字が逆になっていたり、洪水に襲われる家族の食事のシーンなどで裏焼きであることがよく解る。

⑯死への航路で沖へ向かうヨットの（死・怨）と書いてある旗のアップをカット。

⑰妻の臨終を見守る良玄～屋上で、良玄と中川が話をするシーン迄が裏焼きである。

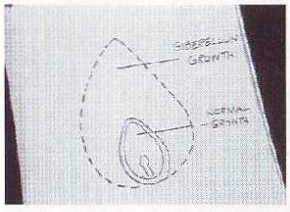
⑱夕映えの砂丘で踊る、まり子のシーンをカット。

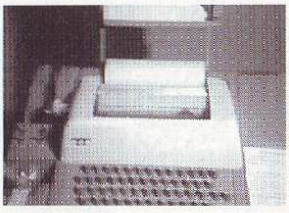
⑲軟体人間のシーンが、海外版では若干短くではあるが収録されている。が、二人（二匹？）の軟体人間が争う場面では、軟体人間の声（猫の声を逆回転させたような…）と、風らしき効果音が挿入されている。

⑳ラストシーンは日本版と編集が異なっている。日本版では、山村聰が演じる総理大臣が語り出し、画面に人々の日常生活が映って感動的な演説で終わるのであるが、海外版は、大演説を大幅に短縮し、その間に大洪水や都市壊滅のパニックシーンが挿入（その時のカットは、本編で使用されたもの。）されている。

■海外版によくある、新撮り差し替えのカットは以下の通りである。

①西山研究所で映し出される“稲の発育の図”が英語になっている。（図も日本版と比べると単調になっている）





②国連が第１次ニューギニア調査団を要請する際に、映し出されるタイプライター型のＦＡＸが、英字で着信しているカット。（日本版は新聞になっている）

③軟体人間が、ラストに多数でてきて、大ナメクジや大コウモリと闘う…という訳では無いので悪しからず！

この本誌の読者の方々の中には『LAST DAYS OF PLANET EARTH』のビデオもしくはレーザーディスクを、お持ちの方々も、多々おられるでしょう。

又、海外版の映像を見ながら、弊社のドラマＣＤを聞けばストーリーが成り立つ様に思いますが…、残念ながら、上映時間の違い及び、編集の前後のため不可能です。

＊参考までに日本版と海外版の比較検証表を御覧になって下さい。

必見！ホリデースペシャル

『ノストラダムスの大予言』のテレビ放送について…

１９８０年（昭和５５年）１１月３日（月曜日）テレビ朝日系で『ホリデースペシャル』サブタイトルは、“地震・戦争・飢餓・滅亡かサバイバルか！あなたはその時どうする？”（右図参照）として、１９時００分～２０時５１分に、放送された。

番組の提供は、放送の前半が、ロッテ、タカトクトイス、津村順天堂、Ｋ＆Ｋ国分。後半は、小林脳行、トミー、コンタック、パロマ、東宝東和、マンナンライフ、Ｓｏｆｔ９９、以上１１社であった。

映画本編は、約９０分のＴＶサイズで放送された。

１１４分の本編を、民放の２時間枠で放送すれば、約２０分ものＣＭが入り、放送コード等の問題も含め、テレビ放送用に劇場映画をカットすることは、仕方のないことであるが、この作品のおもしろさは損なわれていない。

ちなみに、ニューギニアの原住民が、第二次調査団のテント内の人間を喰うシーンは、公開当時から問題となり、フィルムから削除されていた。しかし、このテレビ放送ではカットされずに収録されているので、現在では、貴重な放送となっている。

なお、この放送の当日は、“世界を、地球を、宇宙を考える”と銘打って…、１９時００分からホリデースペシャル『ノストラダムスの大予言』。（朝日新聞に掲載された番組広告のコピーは、“大気が　地殻が　生物が　何かが　狂っている！”）２２時００分からは、カール・セーガン博士の科学ドキュメントシリーズ『コスモス（宇宙）』第１部『宇宙の浜辺で』が放送された。

余談であるが、この１１月３日はアカデミックな一日であり、文化の日であると同時に『ゴジラ』の誕生日でもあった。

昭和55年）11月3日　月曜日

10 テレビ朝日

6
15 テレビ大学講座「近代日本経済史」
7
00 ゴルフ　山形徳男
15 スポーツ「ゴルフ」
45 みどりの窓口◇
8
00 一休さん
30 博口モーニングショー　パタチ事件の真相は？世界をいどる美女3人
9
9.30 ファミリースペシャル「謎美清とサバンナの仲間たち・サファリレポート」羽仁進◇家庭
10
10.30 動物ミュージカル
11
00 やさしい園芸
15 女房には見せたくない　昭和長屋物語ルポ◇45園
0
00 アフタヌーン　中間伸　取沢遊戯すし店と太田博之社長対談◇スター
1
00 大富利　小林幸子
15 婦子の部屋「盲導犬物語・福沢英和」◇家庭
2
00 くらしの鼻
05 映画「さよならの日日」山田洋次　藤藤悦子　森繁久弥　伴淳三郎◇3.25家庭
3
3.30 映画大騒合戦◇35園
4
00 女のひろば「美男を輝かせる方法!!」◇番組
55 麗女っ子チックル　鈴酒　岡吉田理恵子
5
5.25 知恵袋人ダイエット3問◇55料理教室
6
00 サチライト　下町文化今に伝える江戸職人芸
30 園レーダー　三宅久之
50 ドラえもん
7
00 ホリデースペシャル「ノストラダムスの大予言　地震・戦争・飢餓・滅亡かサバイバルか！あなたはその時どうする!?」（昭和49年東宝）　舛田利雄監督　丹波哲郎　黒沢年男　司葉子　由美かおる　山村聡　内藤武敏
8
8.57 えニ昭神氏◇54園
9
00 サンキュー先生「楽かで純なオレ！」　西田敏行　黒谷真東　柴俊夫　藤岡琢也　成田三樹夫　初井言榮
54 世界あの店この店
10
00 COSMOS・宇宙「1部・宇宙の浜辺で・150億光年への出発」星間飛行▽コスモックカレンダー
「2部・宇宙の音楽」▽生物進化のアニメ　カール・セーガン
11
17.30園 小松鍵平▽スポーツ　増山勝子◇0.15園
0.21 トゥナイト　東大から第2の西遊!?▽ボルグの中年ラケット修業　必勝法

↑朝日新聞　（昭和５５年１１月３日）番組表より→

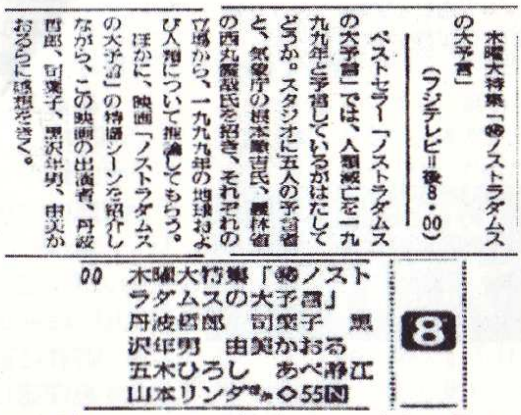
↓朝日新聞　（昭和５５年１１月３日）番組広告より

テレビON AIRされた数々の『ノストラ…』

■ホリデースペスシャルにおいてカットされた主なシーンを上げてみよう。

①良玄、明、まり子、所員らが所長室から出て、研究所前に停めてある、ワゴンに乗り込むシーン。
②渋谷駅街頭のオキシダント濃度の表示板。
③すき焼き鍋を囲んだ西山家の団欒で、良玄のセリフの「奇形児」という台詞を消去。
④討論会「自然と人間と未来」のシーン。
⑤奇形児のレントゲン写真～病院長と良玄のやりとり。
⑥環境庁で会議中の良玄の台詞で「部落」を消去。
⑦開発大臣がノイローゼになって、木に登って唄うシーン。
⑧四国の山道を走るバスの中で、バスガイドが歌謡曲の「あなた」を歌うシーン。
⑨四国を巡礼する木田夫妻のシーン。
⑩アフリカの飢饉の様子。
⑪ジュネーブ国際会議場の全景。
⑫コケやケロイドが生え、凶暴化したニューギニア原住民の顔のアップ。
⑬ニューギニア奥地の洞窟の外で、うなだれる良玄。
⑭一夜明け、第一次調査団の墓の前でバイブルを読むシーン。
⑮満開の桜の下で踊り狂っている若者たちのシーン。
⑯無人の駅と、群衆のシーンのカットバック。
⑰店や倉庫を襲い、品物を強奪する群衆のカット。
⑱国会議事堂の全景をカット。
⑲爆撃機、原子力潜水艦、空母から発進する戦闘機。
⑳人類が滅亡した地球上に、二人の軟体人間が登場するシーン。
㉑総理大臣の演説を一部カット。

■木曜大特集『㊙ノストラダムスの大予言』


木曜大特集「㊙ノストラダムスの大予言」
（フジテレビ＝後8・00）
ベストセラー「ノストラダムスの大予言」では、人類滅亡を一九九九年と予言しているがはたしてどうか。スタジオに五人の予言者と、気象庁の根本順吉氏、長林省の西丸震哉氏を招き、それぞれの立場から、一九九九年の地球および人類について推論してもらう。
ほかに、映画「ノストラダムスの大予言」の特撮シーンを紹介しながら、この映画の出演者、丹波哲郎、司葉子、黒沢年男、由美かおるに感想をきく。

8
00 木曜大特集「㊙ノストラダムスの大予言」
丹波哲郎　司葉子　黒沢年男　由美かおる
五木ひろし　あべ静江
山本リンダ◇55N

この番組は、１９７４年（昭和４９年）７月２５日フジテレビ系で、２０時００分から２０時５５分に放送された。

番組の内容は五人の予言者や科学者、五木ひろし、山本リンダなどの他、丹波哲郎や由美かおるの映画の主演者を交えた、作品の宣伝も兼ねたバラエティーであった。

■ガメラ２スペシャル 日本超大作ＳＦＸ映画博覧会

平成の時代になって、部分的ではあるが、なんと地上波で『ノストラダムスの大予言』が放送されている。

１９９６年（平成８年）７月１３日（木曜日）１０時３０分～１１時３０分に日本テレビ系で放送された。（テレビ雑誌等のタイトルは、「映画ガメラ２・レギオン襲来メイキング」であった）。

番組の内容は、福留功男アナウンサーを中心に、金子修介監督、藤谷文子など『ガメラ２』の関係者を交えながら、東宝や、大映の特撮映画（ゴジラ作品を除く）を紹介し、併せて『ガメラ２　レギオン襲来』のメイキングを放送した番組でもあった。その映画紹介の中に『ノストラダムスの大予言』が含まれていた！

放送された主なシーンは、数分であるが、夢の島の大ナメクジ、倉庫を襲う人々、核ミサイル発射等であった。

以上が、このドラマＣＤ『ノストラダムスの大予言』が発売される迄の、テレビで見ることができた『ノストラダムスの大予言』のビジュアルである。

今後、ＣＳ、ＢＳ、地上波等で、再び放送されることを、期待しようではありませんか…。

ルパン三世 念力珍作戦

『ルパン三世　念力珍作戦』
（『ノストラダムスの大予言』同時上映）
１９７４年（昭和４９年）８月３日封切
東宝映画＝国際放映提携作品
（東宝配給）
カラー作品　シネマスコープ
８２分（６巻　２２４２m）
映倫ナンバー　１８０６３

【スタッフ】

製作・・・・・・・・・・・藤岡　豊
同・・・・・・・・・・・大木亀雄
原作・・・・・モンキー・パンチ
企画・・・・・・・・・赤塚不二夫
同・・・・・・・・・・・中山千夏
脚本・・・・・・・・・・長野　洋
監督・・・・・・・・・・坪島　孝
撮影・・・・・・・・・市原康至
美術・・・・・・・・・竹中和雄
照明・・・・・・・・・小島正七
音楽・・・・・・・・・佐藤　勝
録音・・・・・・・・・西尾
編集・・・・・・・・・山地早智子
スチール・・・・・・・中尾　孝
助監督・・・・・・・・志村光隆
製作担当者・・・・・・杠洋之輔
製作宣伝・・・・・・・川島洋次
擬斗・・・・・・・・・宇仁貫三

【ストーリー】

フランス生まれの大怪盗、アルセーヌ・ルパンの血を引く泥棒貴族ルパン三世。彼は、先代ルパン二世をマカ・ローニー家に抹殺され、日本人を母に持つルパン大帝国の生き残りだった。

ある日、護送車で連行中の美女囚・峰不二子に一目惚れしたルパンは、デートをしようと、彼女を刑務所から救い出す。そのため、銭形平次の子孫・銭形警部、大岡越前の子孫・大岡、遠山金四郎の子孫・遠山らの警視庁の一団から追われることとなった。

だが、ルパンの命を狙って追いかけるもう一団の者たちがいた。ルパン三世が生きていると知り、彼を抹殺しようと画策するマカ・ローニー家である。

両者に追われるルパンだったが、ルパン帝国配下の生き残りで、彼を守ることを天職と心得る次元大介が味方に付いた。やがてルパンは不二子にそそのかされて、宝石強盗や金庫破りを重ねるが、最期には不二子に振られ、そのうえマカ・ローニー家系列の暗黒街のボスが雇った殺し屋に狙われた彼は、自ら刑務所に入所する。

やがてルパン逮捕を知った暗黒街のボスは、宇宙人をモデルにしたという古代の土偶を盗み、大資本家に売りつける念力作戦を開始する。そしてルパンと警察、殺し屋らが入り乱れ、古代の土偶を巡る三つ巴の攻防が開始されるのだった…。

（劇場公開オリジナル半裁ポスター）

【キャスト】

ルパン三世・・・・・・目黒祐樹

次元大介・・・・・・・田中邦衛

峰不二子・・・・・・・江崎英子

銭形警部・・・・・・・伊東四朗
大岡・・・・・・・・・人見　明
遠山・・・・・・・・・江幡高志
警視総監・・・・・・・藤村有弘
モッキンバット師…E・H・エリック
浅間山子・・・・・・・夏樹レナ
謎の女・・・・・・・安西マリア
若奥様・・・・・・・・恵　美
原九郎兵衛・・・・・・山本麟一
大口寅六・・・・・・・田中淳一
大下駄久六・・・・・・福山像三
田舎鳥吾作・・・・うえずみのる
殺し屋（丸　高方）・・・前川　清
殺し屋（火縄一郎）・・・・大泉　滉
殺し屋（一発必中）・・・鈴木和夫
殺し屋（道　千千）・・・中　庸介
ドラゴン・シスターズ・・ポピーズ
孤児院の殺し屋Ａ・・・天本英世
ガードマン・・・・・・広瀬正一
カプセル技術者・・・・・平田　守
浮浪者・・・・・・・常田富士男
交番の巡査・・・・・・青空球児
白バイ・・・・・・・・青空好児
護送警官・・・・・・・・鮎川　浩
パトロール警官・・・海野かつお
チョビ髭・・・・・・・堺左千夫
追突される男・・・・・小島三児
大ボスの声・・・・・・大平　透

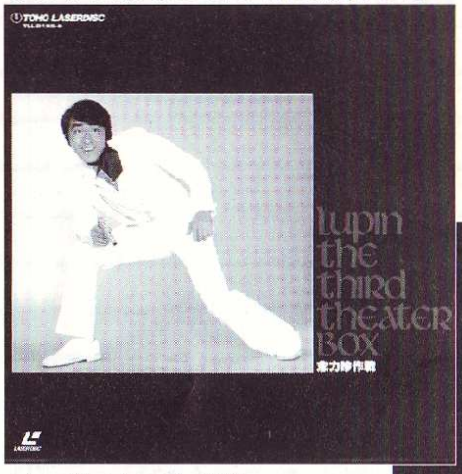
【解説】

現在に至っても全くその人気が衰えない、モンキーパンチ原作の同名コミックを基に、唯一実写化した貴重な（？）作品。『ルパン三世』ＰＡＲＴ１と、新シリーズのテレビ放送の中間期に製作・公開された。

実写のルパンワールドを彩るキャストには、軽妙な演技でオリジナリティ豊かなルパン三世を演じた目黒祐樹、結構意外なキャスティングだったニヒルな次元大介に田中邦衛、本作のファンにとっては永遠の美女・峰不二子にはエキゾチックな魅力が溢れる江崎英子、原作よりもお間抜けに設定された銭形警部に伊東四朗と、豪華な布陣。踊る殺し屋軍団ドラゴン・シスターズには、当時売出し中だったダンスグループのポピーズが熱演。その他、藤村有弘、人見明、江幡高志、大泉滉らの喜劇陣が総出演し、作品世界を多いに盛り上げている。また、東宝映画の作品らしく天本英世、堺左千夫、広瀬正一、鈴木和夫らが出演しているのは、東宝バイプレーヤーファンには嬉しいところ。唯一、本作には石川五右衛門のキャラが登場しないのが残念である。

スタッフには、監督に古沢憲吾と共にクレージー・キャッツ作品を支えた坪島孝、脚本に長野洋、音楽に日本映画音楽界の重鎮・佐藤勝と、日本映画を代表するベテランのスタッフが結集し、ライト感覚のコミカルな現代活劇として作品を完成させている。

本作は劇場公開後、テレビで数回放送されたのみで、一向にソフト化されない『ノストラダムスの大予言』と同様、なかなか鑑賞する機会に恵まれない作品であった。しかし、９３年４月に東宝から発売された、『ルパン三世』の劇場作品を網羅したＬＤセット『ルパン三世シアターＢＯＸ』に初収録、初ソフト化され、ノートリミングの美しい映像で、唯一本作を存分に楽しむことが出来た。願わくばビデオソフト化が果たされ、誰でも手軽に楽しめるようになることを切に期待したい…。



＊レーザーディスク 表紙
Lupin the third theater box
東宝ビデオ　ＴＬＬ－２１９９－６
３４９５１円（税抜き）５枚組
１９９３年４月１日発売（現在廃盤）

＊レーザーディスク 裏 ⇒

時間	ホリデースペシャル版	LAST DAYS OF PLANET EARTH	時間	劇場公開版（オリジナル）	フィルムストーリー
88'42"	見渡す限り廃墟の東京	0	104'58"	0	
89'07"	しかし何かが残った！	0	105'25"	0	324
——	超間顕シーンはカットされた	軟体人間登場	105'44"	0	
89'15"	もとの国会議事堂 良玄の発言は続き首相の、演説が始まる。しかし大幅に短縮	ホリデー版と同じく短縮	106'33"	0	325・326
89'59"	東京の街	————	111'00"	0	
90'03"	生まれ立ての赤ちゃん	————	111'04"	0	
90'06"	池引き網をする漁師	————	111'07"	0	
——	————	空母から発進する戦闘機	——	0	
90'10"	鳩と子供	————	111'11"	0	327
90'13"	緑の野山		111'13"	0	
90'16"	親子	————	111'16"	0	
——	————	発射された大陸弾道弾	——	————	
90'19"	雲海	————	111'19"	0	
90'21"	浜辺で、手をつなぐカップル	————	111'21"	0	328
		火山の大爆発	——	————	
90'26"	もとの国会議事堂の中　首相の演説は、続いている	————	111'26"	0	
90'33"	公園高校野球大会の様子	————	111'33"	0	
90'38"	結婚写真	————	111'38"	0	
90'41"	夕焼けの山	————	111'41"	0	
90'44"	田植え作業する農夫	————	111'43"	0	
——	————	ビルの崩落から逃げる人々	——	————	
90'49"	乳母車で寝ている赤ちゃん	————	111'48"	0	
90'53"	校庭で遊んでいる小学生	————	111'52"	0	329
——	————	スーパーを襲う群集	——	————	
90'56"	木漏れ日	————	111'55"	0	
91'01"	赤ちゃん	————	112'00"	0	
91'06"	御神輿のお祭りの様子	————	112'05"	0	
——	————	北極海で、解ける氷山	——	————	
——	————	都市を襲う鉄砲水	——	————	
——	————	バレーのレッスンする女の子	——	————	
——		良玄の顔のアップ	——	————	
——	————	めくられる「諸世紀」	——	————	
——	————	憲兵隊・取調室の玄学	——	————	
——	————	原子爆弾炸裂	——	————	
		原子雲をバックに　Tho　End	——	————	
91'11"	もとの国会議事堂・中首相の演説が、終わって満場割れるような拍手が、おこる		112'10"	0	330・331
91'56"	同・国会議事堂の前の広い道良玄と中川とより子の三人が歩いている。		112'55"	0	332
92'12" 92'25"	これは虚構の物語りである。だがたんなる想像の世界ではない。こうあってはならない・それが我々の願いである。　終		113'11" 113'24"	0	333

『ノストラダムスの大予言』BGMについて Chapter-6 1

♪作曲家　冨田勲

冨田勲１９３２年４月２２日生まれ。医師の長男として東京都に生まれる。幼少時代は中国で過ごした後、再び東京に戻り、高校と大学は共に慶応義塾で学んだ。

特に平尾貴四男や小船幸次郎らに師事した慶応義塾大学の在学中、全日本合唱コンクール（朝日新聞主催）に自ら応募、入賞し、この事が作曲家を志すことになったとのことである。

作曲家としての最初の仕事は、森永製菓等のＣＭソングや、日本コロンビアの学習教材用レコードで、これを皮切りに数多くの作曲活動を展開した。以下に代表的なものを挙げてみよう。

♪アニメーション作品

早くからアニメ音楽に関心を持っていた冨田氏の初仕事は、東映動画の劇場用作品『アラビアンナイト・シンドバットの冒険』（’６２年、共同音楽・米山正夫）。続いて『ガリバーの宇宙旅行』（’６５年）を担当したのち、『千夜一夜物語』（’６９年）、『クレオパトラ』（’７０年）等の、斬新でアダルトな劇場用長篇作品に起用された。アニメのテレビ作品に目を向ければ、『ジャングル大帝』（’６５年～’６６年）や、『リボンの騎士』（’６７年～’６８年）等、手塚治虫の虫プロダクション作品群に名スコアを提供しており、特に『ジャングル大帝』は、『子どものための交響詩』としてアルバム化され、１９６６年の芸術祭奨励賞を受賞している。

参考　レーザーディスク
（日本コロムビア　ＣＯＬＣ－３００９　現在廃版）

♪テレビ担当作品

テレビでは、ＮＨＫのドキュメンタリー『新日本紀行』（’６３年～’８２年）を代表に、同局放送の大河ドラマ『花の生涯』（’６３年）、『天と地と』（’６９年）、『新平家物語』（’７２年）、『勝海舟』（’７４年）、『徳川家康』（’８３年）の各作品を担当。

その他、特撮ファンにはおなじみの東映東京テレビ部の『キャプテン・ウルトラ』（’６７年）や、円谷プロの『マイティジャック』（’６８年）、『恐怖劇場アンバランス』（’７３年）等のテレビ映画がある。

♪劇場映画担当作品

映画音楽では、関川秀雄監督の『地獄の午後二時』（’５８年）を皮切りに、『警視庁物語シリーズ』（’５９年～’６２年）、『飢餓海峡』（’６４年）、『北海の暴れ竜』（’６６年）、『解散式』（’６８年）等、東映東京撮影所の作品群が多数を占める他、『座頭市あばれ火祭り』（’７０年）を始めとする’７０年代以降の勝プロ作品の数々を担当している。近年の作品には、山田洋次監督作品の『学校』（’９３年）がある。特撮作品では、ファンタスティックな映像が魅力の『夜叉ヶ池』（’７９年）があり、『ノストラダムスの大予言』は冨田氏の作曲活動が、映像作品からシンセサイザーへと移行する過渡期に誕生した作品となっている。

♪シンセサイザーの冨田へ

１９７４年にアメリカＲＣＡから発売された、ドビュッシーのピアノ曲『月の光』は、冨田氏の作曲家活動の一大転機となった。ムーグ・シンセサイザーを駆使した『月の光』は世界中で空前のヒットとなり、冨田氏は一躍シンセサイザー奏者として、脚光を浴びることとなる。

１９７５年には日本人として初めて、グラミー賞の４部門にノミネートされ「Album of the year」の他、全米レコード販売者協会の’７４年度最優秀クラシカル・レコードに選ばれるという栄誉にも輝いている。

以降、冨田氏は『月の光』を皮切りに、『展覧会の絵』、『火の鳥』、『惑星』と、氏のシンセサイザーによるクラシック作品は、そのいずれもが続けて大ヒットを飛ばしており、８４年にはオーストリアのリンツで、８万人もの参加によるコンサートを開催し、これを成功させている。

現在では、我が国というより、世界を代表するシンセサイザー奏者の第一人者として、冨田氏は不動の地位を確立し、彼の音楽は幅広い層の支持を受けている。

■『ノストラダムスの大予言』レコード成立の過程と録音について

『ノストラダムスの大予言』の公開に合わせて東宝レコードから発売された、シングル盤とＬＰの成立の経緯については、本作の最新のサントラ盤である、ＶＡＰから発売された「Ｊ－ＣＩＮＥサントラコレクション・ノストラダムスの大予言」解説書内の、『ノストラダムスの大予言』の音楽と、レコード化の経緯（執筆・早川優）が詳しいが、このサントラ盤を購入していない方のために、軽くざっとおさらいをしておこう。

『ノストラダムスの大予言』の音楽担当である冨田勲が本作の音楽制作を始めたのは、'７４年に米ＲＣＡから『月の光』がリリースされ、未だ日本国内では発売されていなかった時期である。

前年公開の『日本沈没』のサントラは、シングル盤が１枚のみという寂しい状況で、本作を『日本沈没』以上の作品にという東宝挙げての意気込みと、『日本沈没』での音楽商品の反省（？）からか、東宝レコードでは早い時期から、レコード用のステレオ音源と、劇中使用のモノラル音源の２種類の音楽が用意されることとなった。

音楽リールに残されたデータ等から、当時の録音の状況をざっと推測すると、最初に完成したのは「テーマ」と「愛」の２曲で、これがそのままシングルレコード化され本作初の音楽商品となった。

続いて「テーマ」と「愛」のアレンジ１４曲と、破滅のテーマをシンセサイザーで３種類演奏した曲を合わせて全部で１７種類１９曲が揃い、これを映画のストーリー順に並べ（若干の変更有り）、曲間に破滅のテーマ３バージョンとＳＳＴの飛行音や波のＳＥを加えて２種類のステレオ版の組曲を完成させ、これがＬＰのＡ・Ｂ両面に振り分けられて、本作のイメージアルバムのＬＰが完成、発売された。

一方、映画本編内に使用されるモノラル曲の録音は、１９７４年の７月１６日（本作の検定試写が７月２４日であり、録音から完成までが約１週間という、この製作状況の短さは驚きである）に東宝撮影所のサウンドステージで行われた。スクリーン上に劇中の録音場面を上映しながら、シンセサイザーの仕込み済の音源が現場でプレイバックされ、オーケストラの演奏とモノラルで同時にミックス・ダウンされ、次々と画面にピッタリと一致する各曲が、録音されたと推定される。

なお、メインタイトルのみは、ステレオ音源の「テーマ」をモノラルにトラックダウンし、映画の尺に合わせたものが劇中に使用された。

また、「愛」の曲も、当初はエンディングに使用される予定であったらしく、「テーマ」と同様にモノラルにトラックダウンし、映画の尺に合わせたものが用意されたが、実際の劇中には用いられず、Ｍ－３４のエンディング曲が新たに録音されている。録音に使用されたリールの総数は、保管用の正テープが７号リールで５巻、ダビング等の作業用として使用される副テープが７号リールで６巻、それぞれ３８ｃｍ／ｓｅｃのテープスピードで録音されている。副テープのリール数が正テープより１巻多いのは、正テープを基にして、シンセをオーバーダビングした、Ｍ－１９、Ｍ－２６、Ｍ－２８、Ｍ－３０等のシンセサイザーＭＩＸ分や、ステレオ曲である「テーマ」と「愛」をモノラルにトラックダウンした、劇中使用の細工音楽等が含まれているためである。

TITLE	DIRECTOR	FREQUENCY	REEL. NO.
ノストラダムスの大予言	舛田利雄	38	1
DATE	MUSIC BY.	RECORDER	RECORDIN. BY
49. 7.16	冨田勲	DENON	

	OK.NG	DB.NO	MUSIC.NO	TIME	NOTE
1	OK	1A	M-1	1'14"	TOP強い（シンセサイザー）
2	OK	〃	M-21	28"	
3	OK	1C	M-6	27"	（シンセサイザー含む）
4	OK	2B	M-8	2'25"	（ 〃 ）
5	OK	3B	M-13	1'01"	
6	OK	3C	M-14	59"	（シンセサイザー含む）
7	OK	4A	M-16	1'15"	（ 〃 ）
8	OK	4B	M-17	3'12"	

キューシート No.1

TITLE	DIRECTOR	FREQUENCY	REEL. NO.
ノストラダムスの大予言	舛田利雄	38	2
DATE	MUSIC BY.	RECORDER	RECORDIN. BY
49. 7.16	冨田勲	DENON	

	OK.NG	DB.NO	MUSIC.NO	TIME	NOTE
1	OK	4B	M-18	1'35"	（シンセサイザー含む）
2	OK	4C	M-19	16"	DB時は副-6のM-19使用
3	OK	5A	M-20	1'23"	
4	OK	5B	M-23	3'56"	（シンセサイザー含む）
5	OK	6B	M-26	1'04"	（ 〃 ） DB時は副-6のM-26使用
6			~~M-27~~		
7					
8	注	DB時は、M-19、M-26共に副-6に有る同NoのMを			
9		使用。（副-6には後からシンセサイザーが加えて有ります）			

キューシート No.2

TITLE	DIRECTOR	FREQUENCY	REEL. NO.
ノストラダムスの大予言	舛田利雄	38 cm/sec	副6
DATE	MUSIC BY.	RECORDER	RECORDIN. BY
49. 7.16	冨田勲	DENON	

	OK.NG	DB.NO	MUSIC.NO	TIME	NOTE
1			M-19	16"	シンセサイザー音 mix分
2			M-26	5'04"	〃
3			M-28		〃
4			M-30	2'34"	〃

キューシート No.6

TITLE	DIRECTOR	FREQUENCY	REEL NO.
ノストラダムスの大予言	弁田利雄	38	3
DATE	MUSIC BY	RECORDER	RECORDIN. BY
49. 7. 16	冨田勲	DENON	

	OK.NG	DB.NO	MUSIC.NO	TIME	NOTE
1	OK	6C	M-27	1'31"	(シンセサイザー含む)
2	OK	7B	M-30	2'34"	(ラマ ハスマ) (笛)
3			(シンセサイザーなし)		DB間に副-6のM-30使用
4	OK	8A	M-32	1'46.5"	(シンセサイザー含む)
5	OK	7C	M-31	1'03"	
6	OK	7A	M-29	41"	
7	OK	6A	M-25	1'00"	ロック5"119ローテ[illegible]
8	OK	8B	M-34	2'28.5"	(シンセサイザー含む)
9					
10	注	M-30は後からシンセサイザーを加えたものが			
11		副-6に有りますので、DB時は副-6を使用			
12					

キューシート No.3

TITLE	DIRECTOR	FREQUENCY	REEL NO.
ノストラダムスの大予言	弁田利雄	38	4
DATE	MUSIC BY	RECORDER	RECORDIN. BY
49. 7. 16	冨田勲	DENON	

	OK.NG	DB.NO	MUSIC.NO	TIME	NOTE
1	OK	2A	M-7	1'30"	(シンセサイザー含む)
2	OK	5A	M-22	1'18"	(〃)
3	OK	3A	M-11	1'23"	(〃)
4	OK	5A	M-21	1'01"	(〃)
5	OK	2B	M-9	1'11"	(〃)
6	OK	5B	M-24	2'28	
7	OK	7A	M-28		DB時は副-6のM-28使用
8					
9	注	M-28は後からシンセサイザーを加えたものが			
10		副-6に有ります。DB時にはこれを使用			
11					

キューシート No.4

TITLE	DIRECTOR	FREQUENCY	REEL NO.
ノストラダムスの大予言	弁田利雄	38	5
DATE	MUSIC BY	RECORDER	RECORDIN. BY
49. 7. 16	冨田勲	DENON	

	OK.NG	DB.NO	MUSIC.NO	TIME	NOTE
1	OK	2B	M-10	1'19"	(シンセサイザー含む) 西合せ
2	OK	3C	M-15	1'07"	(〃) 〃
3	OK	1A	M-3	1'10"	ドラムソロ (伴奏用)
4	Keep	1B	M-5-T1	19"	ピアノソロ (バーレーズ)
5	OK	〃	〃 T2	18.5"	〃 〃 西合せ
6	OK	8A	M-33	1'15"	(シンセサイザーのみ)
7					(〃)
8	O.S.C.	1K 7KHz			
9	テープ速度	19cm/sec	コピー		
10					
11	①	テーマ	3'32"		中ヌケになるから
12	②				タイム注
13	③	廃	2'20"		

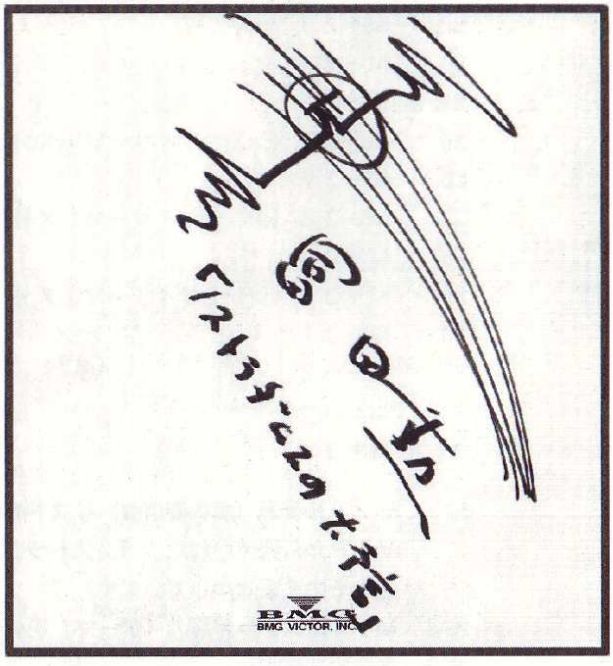
キューシート No.5

＊キューシート＝録音内容を詳細に記載した専用のシート
マスター用音楽テープに添付される

■『ノストラダムスの大予言』と冨田氏

なお、以下は余談であるが、『ノストラダムスの大予言』における、劇中を彩る数々の楽曲による音楽の重要性は、筆者の私が繰り返すまでも無く、本作を語る上で大変重要なもので、もし冨田氏が担当していなかったらと思うと、そら寒いものを感じる次第である。

ところで、『新日本紀行｜冨田勲の音楽』（ＢＶＣＦ－１５２５）のＣＤ発売を記念し、新宿のタワーレコードで開催された冨田氏のサイン会の際、筆者の友人が色紙に冨田氏のサインと共に、『ノストラダムスの大予言』と書いて下さいとお願いしたところ、それまでニコニコと笑顔でサインに応対していた冨田氏の顔色が変わり、「あんまり気にいってないんだよね」（『ノストラダムスの大予言』の仕事のことを指してのことと思われる）と、ボソっと語られたとのことで、筆者の私や、この解説を読まれる本作のファンの方たちにとっては、たいへん残念なことであるが、３０年以上も前から限られた時間と低予算での制約された条件で行われるスタジオでの録音作業の在り方に納得出来ず、音楽活動の場を劇判からシンセサイザーへと移行した冨田氏にとっては、『ノストラダムスの大予言』での作曲活動は、あまり触れられたく無い、過去の仕事ということが言えるようである。



冨田勲氏の直筆で『ノストラダムスの大予言』と…
新宿のタワーレコードで開催されたサイン会にて

劇中使用曲（モノラル音源）リスト

No.	Mナンバー（データ含む）	タイム	曲タイトル
1.	M－1	1：15	東宝マーク～嘉永五年
2.	M－2	0：30	嘉永七年・黒船来航
3.	M－3	1：10	敗戦の予言詩
4.	テーマ（M4）	3：23	メインタイトル
5.	M－5T2	0：19	バーレッスンBGM
6.	M－6	0：27	環境汚染
7.	M－7	1：21	「諸世紀」
8.	M－8	2：26	討論会～赤潮の襲来
9.	M－9	1：12	月夜の渚にて
10.	M－10	1：20	結ばれる二人
11.	M－11	1：23	木田の慟哭
12.	M－13	1：02	モダンバレエBGM～明の幻覚
13.	M－14	1：00	地下鉄の異変～突然変異
14.	M－15	1：07	西山の警告
15.	M－16	1：15	異常気象
16.	M－17	3：12	ニューギニア調査行
17.	M－18	1：35	巨大生物の襲来
18.	M－19（シンセサイザーMIX分）	0：15	カニバリズム
19.	M－20	1：23	狂鬼
20.	M－21	1：00	生ける屍の洞窟
21.	M－22	1：19	地上の地獄～埋葬
22.	M－23	3：55	終末の兆し
23.	M－24	2：29	母から娘へ
24.	M－25	1：01	満開の桜の下＆カーラジオBGM
25.	M－26（シンセサイザーMIX分）	5：07	若者たちの死
26.	M－27	1：22	暴徒
27.	M－28（シンセサイザーMIX分）	2：10	愛するものの死
28.	M－29	0：42	蜃気楼
29.	M－30（シンセサイザーMIX分）	2：36	永遠の生命
30.	M－31	1：04	放射能の恐怖
31.	M－32	1：28	最終核戦争
32.	M－33	1：16	沈黙した世界
33.	M－34	2：29	未来への願い・エンディング

注1　モノラル音源（劇中使用曲）リストの各曲のタイトルは、いたずらに混乱を避けるため、VAPから発売された、『ノストラダムスの大予言』のサントラ盤に表記されたタイトル名をそのまま流用しています。

注2　M－4はステレオ版の「テーマ」を使用、M－12は欠番である。

注3　音楽用語解説

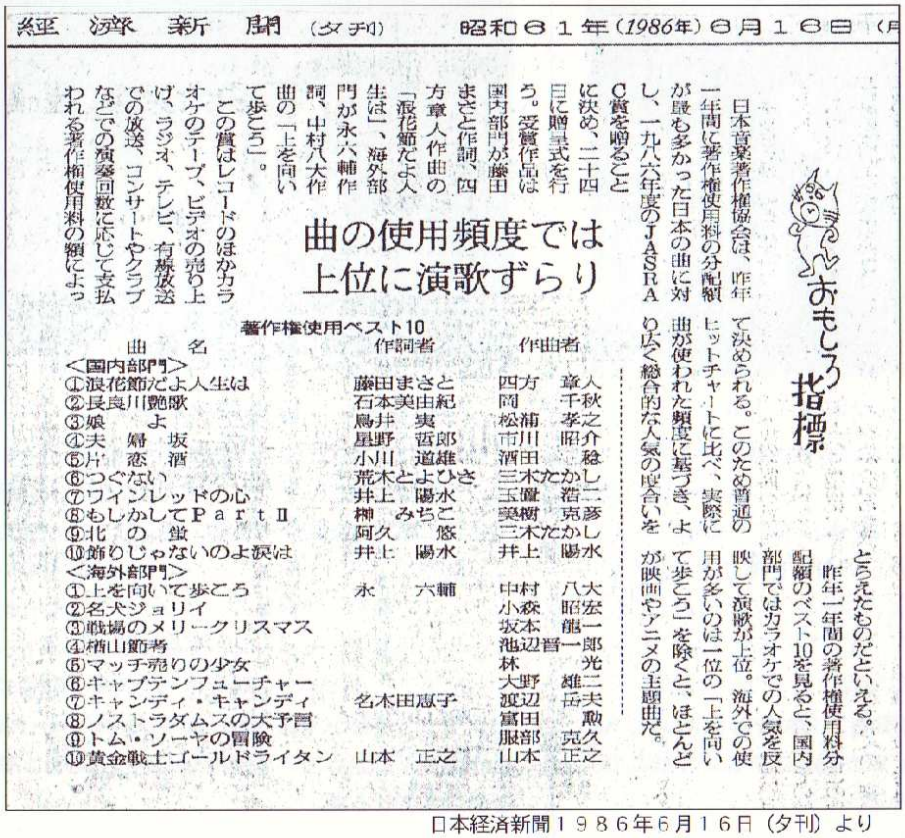
Mナンバー：映画の劇中音楽の挿入順を表す通しナンバー。

レコード用（ステレオ音源）リスト

No.	ステレオ版タイトル	モノラル版の相当曲
1.	テーマ	モノラル版のＭ－４に相当。（メインタイトル用の曲）
2.	愛	モノラル版未使用。（エンディング用の曲）
3.	Ｍ—２	モノラル版のＭ－８に相当。
4.	Ｍ－３	モノラル版のＭ－１０に相当。
5.	Ｍ－５	モノラル版のＭ－１４に相当。
6.	Ｍ－６	モノラル版のＭ－１１に相当。
7.	Ｍ－７	モノラル版のＭ－１６に相当。
8.	Ｍ－８	モノラル版のＭ－１７に相当。
9.	Ｍ－９	モノラル版のＭ－１８に相当。
10.	Ｍ－１０	モノラル版のＭ－２０に相当。
11.	Ｍ－１１	モノラル版のＭ－２３に相当。
12.	Ｍ－１２	モノラル版のＭ－２８、Ｍ－２４に相当。
13.	Ｍ－１３	モノラル版のＭ－２６に相当。
14.	Ｍ－１４	モノラル版のＭ－３０に相当。
15.	Ｍ－１５	シンセサイザーによる破滅のテーマ。（曲間のつなぎに使用）
16.	Ｍ－１６	シンセサイザーによる破滅のテーマ。（曲間のつなぎに使用）
17.	Ｍ－１７	シンセサイザーによる破滅のテーマ。（曲間のつなぎに使用）
18.	Ｍ－１	モノラル版のＭ７に相当。

注１　Ｍ４は欠番。

冨田勲の『ノストラダムスの大予言』が海外部門のベスト８に…
やはり、良い音楽は万国共通なんですね。



経済新聞（夕刊）　昭和６１年（1986年）６月１６日（月

おもしろ指標

曲の使用頻度では上位に演歌ずらり

日本音楽著作権協会は、昨年一年間に著作権使用料の分配額が最も多かった日本の曲に対し、一九八六年度のＪＡＳＲＡＣ賞を贈ることに決め、二十四日に贈呈式を行う。受賞作品は国内部門が藤田まさと作詞、四方章人作曲の「浪花節だよ人生は」、海外部門が永六輔作詞、中村八大作曲の「上を向いて歩こう」。

この賞はレコードのほかカラオケのテープ、ビデオの売り上げ、ラジオ、テレビ、有線放送での放送、コンサートやクラブなどでの演奏回数に応じて支払われる著作権使用料の額によって決められる。このため普通のヒットチャートに比べ、実際に曲が使われた頻度に基づき、より広く総合的な人気の度合いをとらえたものだといえる。

昨年一年間の著作権使用料分配額のベスト10を見ると、国内部門ではカラオケでの人気を反映して演歌が上位。海外での使用が多いのは一位の「上を向いて歩こう」を除くと、ほとんどが映画やアニメの主題曲だ。

著作権使用ベスト10

曲名	作詞者	作曲者
＜国内部門＞		
①浪花節だよ人生は	藤田まさと	四方　章人
②長良川艶歌	石本美由紀	岡　千秋
③娘よ	鳥井　実	松浦　孝之
④夫婦坂	星野　哲郎	市川　昭介
⑤片恋酒	小川　道雄	酒田　稔
⑥つぐない	荒木とよひさ	三木たかし
⑦ファインレッドの心	井上　陽水	玉置　浩二
⑧もしかしてＰａｒｔⅡ	柳　みちこ	桑樹　克彦
⑨北の蛍	阿久　悠	三木たかし
⑩飾りじゃないのよ涙は	井上　陽水	井上　陽水
＜海外部門＞		
①上を向いて歩こう	永　六輔	中村　八大
②名犬ジョリイ		小森　昭宏
③戦場のメリークリスマス		坂本　龍一
④稲山節考		池辺晋一郎
⑤マッチ売りの少女		林　光
⑥キャプテンフューチャー		大野　雄二
⑦キャンディ・キャンディ	名木田恵子	渡辺　岳夫
⑧ノストラダムスの大予言		冨田　勲
⑨トム・ソーヤの冒険		服部　克久
⑩黄金戦士ゴールドライタン	山本　正之	山本　正之

日本経済新聞１９８６年６月１６日（夕刊）より

『ノストラダムスの大予言』絵で見る劇中使用曲解説 徹底分析!!

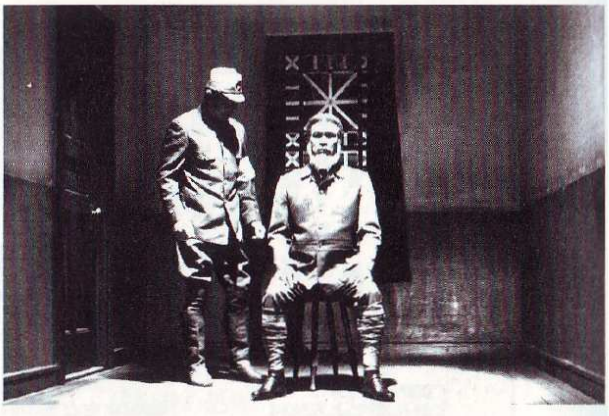
1.　M－1　東宝マーク～嘉永五年

東宝マークから、東宝映像株式会社と株式会社東宝映画の製作会社、PANAVISIONのクレジット、嘉永五年（一八五三年）の出島の綿絵と当時の長崎の風景。そして「洋楽指南　西山玄哲」の表札を掲げる、西山邸での蘭学者・西山玄哲の講義のシーンまでに流れる、オープニング曲。

劇中の玄哲の講義で語られるのは、フランス国の大予言者”ノストラダムス”の紹介と、『諸世紀』に収められた「わだつみを越えて、黒いまが船がエダという都につき、力によって商う…」である。

2.　M－2　嘉永七年・黒船来寇

嘉永七年の黒船来寇之図から、ノストラダムスの予言書『諸世紀』を持った、玄哲の妻おりんが息子の玄武を連れて西山邸から命からがら逃げるシーン。そのバックの「嘉永七年、米国の提督ペリーが九隻の黒船を率いて、浦賀沖に来た。玄哲の妻おりんが持ち出した『諸世紀』は玄哲の子、玄武からその子玄学へと伝わり、太平洋戦争の末期を迎えた」という、『諸世紀』が玄哲から玄武、そして玄学へと伝わったことを告げるナレーションが流れる、短いメインテーマの変奏曲。



3.　M－3　敗戦の予言詩

第二次世界大戦の末期、長崎憲兵隊に連行された玄学が、柏尾憲兵少佐にノストラダムスの第二次世界大戦の予言詩（第六巻の四十九、第二巻の五十九、第三巻の十三）を語るシーン（モノトーンによる、ヒトラーの登場とナチスの進軍、連合軍のノルマンディ上陸作戦で膨大な船団と旗艦ネプチューン上の総指揮官アイゼンハワー、そしてナチスの統治から解放された群衆が歓喜する等のインサート映像が入る）と、太平洋戦争での日本の敗北と原爆投下を語るまでに流れる、ドラムの音が軍靴の響きを想像させる曲。

4.　M－4（テーマ）メインタイトル

新型爆弾の登場を語る玄学の言葉の直後、原爆投下のキノコ雲に登場するメインタイトル、そして第二次世界大戦後の変貌する世界（国連の様子やアポロの月面着陸、ケネディ大統領の暗殺、日本の万博、ベトナム戦争、等）の映像と、予言詩の朗読（第一巻の六十三、第二巻の四十八など）をバックに、左から右へと赤字でスタッフ、キャストのクレジットに流れる、タイトルバックの本作のメインテーマ。この曲は、ステレオ音源の「テーマ」をモノラルにトラックダウンし、映像の長さに合わせて曲間を一部詰めて編集された。

5.　M－5　T2　バーレッスンBGM

玄学の息子である、西山良玄の一人娘・まり子が、先生を勤めるバレースクールで、生徒の子供たち（すべて女の子）にバーレッスンをするシーンに流れる、ピアノによる現実音。

6.　M－6　環境汚染

西山環境研究所の所長室で、良玄とまり子、アフリカから帰国したばかりのまり子の恋人である中川明の３人が、日本の鳥の死や、東西を問わないアフリカでの水を失った野獣の死と、人間への影響、そして干ばつで広がるサハラ砂漠等の環境汚染について、語り合うシーンに流れる短い曲。

7.　M－7　『諸世紀』

すき焼き鍋を囲んだ西山家の団欒で、良玄が奇形児の発生を示唆するノストラダムスの予言詩を語り始めるシーンから、まり子が西山家の家宝でもあるが、先祖の悲劇の原因となった『諸世紀』を持ちだし、水爆戦争や超光化学スモッグといわれる、“一九九九年七の月に空から恐怖の大王が降ってくる”という、地球滅亡の予言詩の可能性や、大気中の汚染物質の影響による地球の砂漠化について語り合う、一連のシーンに流れる、不気味さを兼ね備えた、メインテーマの静かな曲。

8.　M－8　討論会～赤潮の襲来

市民と学者が語り合う、討論会「自然と人間と未来」で、「将来の東京は便利で快適になるのでは？」という若者の質問に、動物学者が一か所への過密集中による、二十日鼠の全滅した例をスライドで説明するシーンから、良玄が語るカドミウム、水銀、ＰＣＢがもたらす公害の影響。そして、赤潮の発生による海洋汚染によって、死んだ魚が大量に打ち上げられた漁村の浜辺に集まった漁民たちが、口々に悲観するシーンまでに流れる、静かな曲調の前半部に対して、重厚なまでの後半部の対比が絶妙な、メインテーマの変奏曲。

9.　M－9　月夜の渚にて

明の故郷である、キラキラとまばゆいばかりに水面が光る夜の浜辺で、静かに語り合う二人。

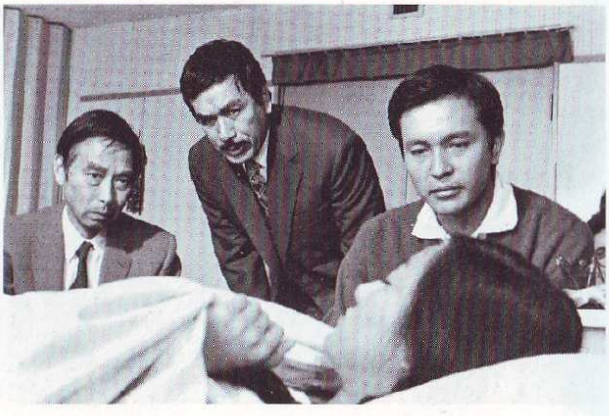
「きれいに見えるこの海も死んでゆくお魚の悲鳴で一杯なのね…」と、つぶやくまり子に、「どんなに悲惨なことを見たり聞いたりしても、人間は我が身にひっかぶらなきゃ本当にそのことがわからない。先の赤潮の被害に対する、地元の漁業長を務める自分の父親の姿を見て、環境対策に腐心する、まり子の父・良玄の仕事の意義が少しは分かったような気がする」と語る明。

そのシーンに静かに流れる、愛のテーマのアレンジ曲。

10.　M－１０　結ばれる二人

見つめあい、やがて眼を閉じたまり子に、静かに唇を重ねる明。二人は、浜辺に係留されている漁船の中で、初めて一つに結ばれる。そして、まり子は明との愛を確認出来た嬉しさに、静かに涙を流すのだった…。

二人の愛を暖かく見守る様に流れる、シンセサイザーによる、愛のテーマ。



11.　M－１１　木田の慟哭

西山環境研究所の会計係で、６４歳になるまで一生懸命真面目に働いてきた木田。その彼が、娘の死産に動転し、病院の通路で、「先生が研究所でやって来た事は、少しは役に立っているんですか！先生、先生は、私の孫一人救えないんですか！」と、見舞いに訪れた良玄に対して、行き場の無い憤りをぶつけるシーンに流れる、チェロとシンセによる、悲壮感を漂わせたメインテーマのアレンジ。木田役を演じる、浜村純の鬼気迫る迫真の演技が、楽しみにしていた初孫を失った義父の悲劇を、如実に伝えている。

12.　M－１３　モダンバレエ～明の幻覚

人間の骨格が１５センチから２０センチも縮んでしまうという、媒塵の多い地方である尼崎で発生した病状を伝える、「またまた奇病か！人間が縮む」の新聞記事のアップから、まり子とモダンバレエの観劇に行った明が、その鑑賞中に、舞台上の全ての踊り子が縮んでしまうという幻覚を見るシーンと、まり子がそんな明を心配するまでの一連のシーンに流れた、ダイナミックに演奏される現実音楽。

13.　M－１４　地下鉄の異変～突然変異

午前５時に渋谷駅を発車した、地下鉄銀座線の始発電車が構内を進行中、一夜のうちに大発生した未知の植物群に覆われるシーンから、福島県の亜鉛高山の廃坑近くにある小さな村で、同じ水系の地下水を飲んでいた子供たちの中から、歩くスピードが異常に速い子、ジャンプ力のみ増大した子、７～８桁の暗算が速い子等の突然変異の発生と、その直後の子供たちの死亡という、日本各地で発生した奇怪な公害問題の二例を、良玄が環境庁の会議室で報告するシーンに流れる、メインテーマのアレンジ曲。

14.　M－１５　西山の警告

「人類は莫大な消費に向かう。そして巨大なモーターが時代を一変する。雨、血、ミルク、飢饉、兵器、疫病。空には長い炎を吹き出すものが飛びまわるようになる…（第二巻の四十六）」という、ノストラダムスの予言詩のイメージを用いて、消費社会と化した現在の物質文明が引き起こしている公害問題を、環境庁の会義室で良玄が警告するシーンのバックに流れる曲。

ギターとシンセによる、静かな旋律であるが、不気味さを喚起させるメインテーマ。

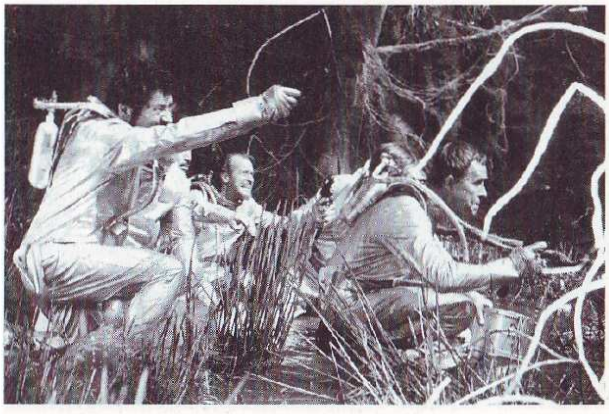
15.　M－１６　異常気象

大気汚染による、空中の微粒子状の塵が太陽光線を遮ったことで、地球の寒冷化が急速に進み、亜熱帯であるハワイ北部の海上が氷結するシーンから、洋上を航行中の船舶（船名バランタイン）が閉じ込められ、一方、アフリカ、インド、東南アジア方面での長期にわたる大干ばつでは多数の死亡者が発生し、地球各地での異常気象が１０億の人間を餓死線上に彷徨わせているという、一連のシーンに流れる、シンセによるテーマの変奏。ちなみにこのシーンのナレーションは、『サザエさん』のノリスケさんこと、村越伊知郎氏が担当。

16.　M－17　ニューギニア調査行

成層圏に蓄積した原子の灰が、ジェット気流に乗って、ニューギニア奥地に集中的に降下した。調査に向かった国連の第一次調査団が全員消息不明となり、その報告が公害問題諮問委員会の席上に届けられた。

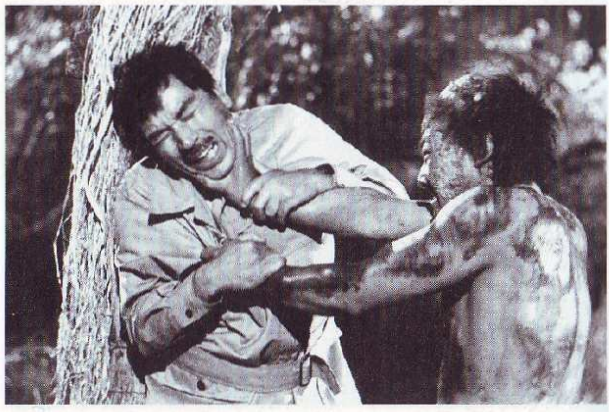
パプア島の地図のアップから、自ら第２次調査団員を名乗り出る良玄。そして、航空機を乗り継いで、ニューギニアのポートモレスビーからゴロカへと到着し、明や他の隊員たちと共に、ランドローバーで奥地へと進んで行くシーンに流れる、勇壮なマーチ風のテーマ曲。M－３０と並んで、本作の音楽の中でも白眉の一曲である。



17.　M－18　巨大生物の襲来

放射能に汚染されたニューギニアのジャングル内で、同様の放射能によって生態系に影響を受けたと思われる、巨大化したコウモリとヒルの大群が、第二次調査団員に襲いかかるシーンの曲。

突如、彼らの眼前に飛来する巨大コウモリのカットから、第２次調査団のフランク隊員の首に張り付いた巨大ヒルが引き剥がされて、隊員の一人がピストルでこれを撃つまでに流れる、オーケストラとシンセサイザーで構成された、この世の地獄を表現するかの曲。



18.　M－19　カニバリズム

汚染されたヒルの影響で、第２次調査隊のテント内で昏睡状態のフランク。遠くから聞こえる、獣の叫びのような声を聞いた隊員たちは、各自が銃を持ち、テントから出て周辺を警戒した。やがて、テントの中からの物音で、テントに戻った良玄と団員の一人は、放射能で体表がケロイド状となり、口を血で真っ赤にして、フランクの体に喰らいついている、２人の原住民を目撃する。そのシーンと、直後、良玄らに襲いかかって来た一人を、隊員が拳銃で射殺するまでの、ショッキングなシーンにかかるブリッジ曲。

19.　M－20　狂鬼

放射能の汚染は、人間の生態系にも深刻に及んでいた。２人の原住民を射殺した後、テントから出て、原住民の狂暴化を他の隊員たちに警告する良玄に、テントの上にいた一人の原住民が飛びかかるシーンから、次々と現れた原住民が、第２次調査団員に襲いかかるシーン、驚異的な跳躍で木々を渡り、次々とアップになる原住民の不気味な顔。そして、拳銃やライフルで、調査団員が反撃するシーンまでに流れる、メインテーマの変奏曲。

20.　M－２１　生ける屍の洞窟

逃げ去った原住民を追跡する第２次調査団員。捜索中の彼らが、偶然発見した洞窟の奥で見たものは、放射能の汚染によって全身をケロイド状に変化させ、声をかけても何の反応もみられない、第一次調査団員たちの無残な屍の姿であった。良玄はその中に日本の調査団員として、西山研究所から派遣された二人の所員、大根と吉浜の姿を見つけ、そのあまりにも変わり果てた二人の様子に言葉も無い。

それらのシーンに流れる、シンセサイザーによる、悲痛をイメージした曲。

21.　M－２２　地上の地獄～埋葬

自らの手で大根らの生きる屍を安らかに眠らせた良玄が、洞窟内で次々と起こる拳銃の発砲音を聞くシーンから、「神は、神は何故、人間に地獄を与えたもうたか。これは今、地球の上で起こったことなんだ。明日にも、明日には地球の上は、みんな地獄になるかもしれん」と、悲痛なまでに語るシーン。そして、第一次調査団員を丘の上で埋葬した第二次調査団員たちが、その魂を鎮魂させるかのようにバイブルを読むシーンまでに流れた、M－２１と同一曲である、レクイエム風のテーマ曲。

22.　M－２３　終末の兆し

瀬戸内海上空でのＳＳＴの爆発で、成層圏に蓄積した酸化チッソの影響による、オゾン層の破壊をきっかけに、太陽の超紫外線が地表に降り注ぐ。発生する山火事、タンカー炎上、北極洋の氷山の融解。「第十巻の七十一、大地と大気は冷えていく。大きな氷もいっしょに。恐れの木曜日が訪れるとき、そしてもう晴れることはなくなる…」ヒートウェイブによる大雨、鉄砲水、アメリカの大洪水、ソビエトの干ばつ。地球規模での異変で、急速に絶望的な終末へと向かう状況を象徴するかのような、メインテーマのスローアレンジ。

23.　M－２４　母から娘へ

呼吸器系の病気で、自宅で静養中の伸枝が、娘のまり子に出来た赤ちゃんに気付き、自分の考えを静かにまり子に語る。「どんな時代にも、女は新しい生命を産んで、それを立派に育て上げてゆくのが、女の務めだと思います。お願いしますね…」と、まり子の手を握ってやさしく諭すシーンから、まり子が産む赤ちゃんのことを、「私の次の命ですもの」と、伸枝が残り少ない自分の生命を悟り、床に伏せって一筋の涙が頬を伝うまでに流れる、親子の情愛を表現した、ギターとフルートによる、温かく静かな愛のテーマ。

24.　M－２５　満開の桜の下＆ｶｰﾗｼﾞｵBGM

地球規模で発生した終末への恐怖と絶望感から、満開の桜の木の下で踊り狂うヒッピー風の若者たちや、お弁当を広げて花見をする一家のシーンと、首都圏を脱出しようとする大量の車の列で洪滞するシーンの、カーラジオのＢＧＭとして流れる、ロックサウンドの現実音楽。この曲は、このシークエンスの前の、「いたずらな恐怖、絶望にとらわれて衝動的に動くことなく…」という、日本国民に対して、このような時だからこそ冷静に行動するようにと願う、良玄のセリフをかき消すかのように鳴らされる。

25.　M－２６　若者たちの死

「生きてはいるが、若者たちは、その意味を遂に掴めない。薬を煽り、男女ともに滅びてゆくだろう（第一巻の二十二）」「美しい処女の輝き、それはもう輝くことはない（第十巻の六十九）」。

爆発、炎上を続ける車両で充満した高速道路のシーンから、夜の公園で麻薬に溺れる者、死の装束でヨットで船出する者、絶壁からバイクで次々とダイビングする者という、死に急ぐ若者たちの一連のシークエンスに流れる、メインテーマのロックアレンジ。本作の中でも聴き応えたっぷりの、５分以上にもわたる大作である。

26.　M－２７　暴徒

「小麦の値段は跳ね上がり、人間が人間を喰う時代が訪れるだろう（第二巻の七十五）」。

主要食料の放出と、生活の安全と治安の維持を約束し、人心を安定させようとした、日本政府の対応を信頼出来ない暴徒たちが、全ての経済活動をストップした東京の街を背景に、次々とスーパーマーケットや備蓄倉庫を襲撃する。互いに食料を奪い合ったり、米俵を持ち去るシーンに流れる、バイオリンとシンセサイザーで悲壮感を漂わせながら、奏でられるメインテーマ。

27.　M－２８　愛するものの死

庭の花が枯れ果てている、静まり返った西山家で、最期の時を迎えた伸枝が、「今度生まれた時も、あなたの奥さんになります…」「約束しましたよ…」と、夫の良玄に深く感謝しながら静かに語りかけ、やがて、その意識がゆっくりと遠ざかり、天国へと召されてゆくシーンの、木管楽器とシンセによる、静かに奏でられる愛のテーマの変奏。

涙と鼻水を流しながら愛妻の最期を見届ける、良玄役の丹波哲郎一世一代の名演技は、涙無くしては見られない。

28.　M－２９　蜃気楼

東京付近の上空を覆った厚いスモッグが、太陽光線の光のベクトルを変化させ、空全体を反射鏡にして、天空に１８０度逆転した東京の街を出現させる。

ビルの屋上で良玄や明が、この不気味な蜃気楼を目撃するシーンから、路上の暴徒たちが驚愕するシーン、そしてこの蜃気楼を、良玄が明に説明するまでにかかる曲。

29.　M－３０　永遠の生命

病床の伸枝の気遣いに勧められて、安全な伊勢地方へと来ていたまり子。その静かな海岸で、母の伸枝が亡くなったことを明から知らされたまり子は、気丈にも赤ちゃんが出来たことを明に話し、父の良玄から反対されたにもかかわらず、その子を産むことを強く決心する。やがて海岸を走りだしたまり子は、砂丘の上で一心に踊り続ける。そのバックに出現した多数の光輪は、異常現象の表れなのであろうか。きらめき輝く青春と、躍動感溢れる生命を爆発させるように、ダイナミックなまでに演奏される愛のテーマ。

30.　M－３１　放射能の恐怖

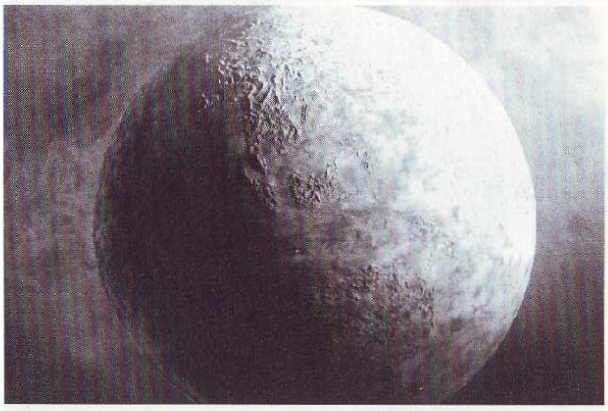
国会の特別委員会に出席した、良玄のイメージで語られる、自然界の異常事態。「原子力発電所には、許容安全度というものはあり得ないし、地震に対しても絶対に安全とは言えないのであります。だとすれば、これは言語に絶する公害である」。巨大地震の発生による原子力発電所の爆発で、放射能を充満した死の灰が大都市に降り注ぎ、次々と炎上するコンビナート群。その結果、黒炭化した死体に放射能を含有した黒い雨が降り注ぐ。

本作の中では同一のテーマを唯一持たない、凄まじいまでの放射能の恐怖を表現した曲。

31.　M－３２　最終核戦争

特別委員会でさらに熱弁される、良玄の破滅のイメージ。「一九九九年七の月、空から恐怖の大王が降って来る…」（第十巻の七十二）A、B、Cの世界の各陣営から発射された核ミサイルによって、全ての都市は一瞬にして爆発、消滅。次々と上空に噴出するキノコ雲が地球を滅亡させてゆくという、一連のシークエンスに流れる曲。出だしのトランペットが圧巻な、軽快に奏でられるメインテーマのアレンジ。

なお、この核爆発のシーンは、『世界大戦争』からのライブフィルムの流用によって構成されている。



32.　M－３３　沈黙した世界

「美しい処女の輝き、それはもう輝くことはない．すべてのものは毛と皮が剥け、狂って争い、怪物が地球を覆うことになる」（第十巻の九十八）。

核戦争後の地球上の描写。不気味なまでの赤い大気に覆われた茶褐色の死の惑星・地球と、俯瞰による壊滅した関東平野、そして人間が全く生存することの無い、一面が廃墟と化した東京の大地。

メインテーマの冒頭のフレーズが、シンセサイザーによって、何度も繰り返される、Ｍ－１６の「異常気象」と同一の曲。

33.　M－３４　未来への願い・エンディング

「今こそ全人類は物質文明の欲望に終止符を打ち、窮乏の生活に耐え、全世界の人々と共にこの苦難の闘いを闘い抜こう」と、熱く語る総理大臣の演説から、場内の満座の拍手に感無量の良玄と、国会議事堂の前を歩く良玄、明、まり子の３人のラストショットにかぶさる製作者のメッセージ「これは虚構の物語である。だがたんなる想像の世界ではない。こうあってはならない ―― それが我々の願いである。」に流れるエンディング曲。

スローテンポで雄大に奏でられる愛のテーマが、人類の未来に明るい希望を灯している。

■　予告編のＢＧＭについて

本作の予告編に流用されたＢＧＭを、使用された順に紹介しよう。まず、頭から

１曲目　『日本沈没』Ｍ５Ｔ２
２曲目　タイトル不明
３曲目　『日本沈没』Ｍ１３Ａ
４曲目　『日本沈没』Ｍ９
５曲目　『日本沈没』Ｍ２８Ｔ３

全５曲。不明の１曲を除いて、それ以外は、全て『日本沈没』からの流用である。

SOUND COLLECTION

音楽商品リスト＆解説

本作の公開から、これまでに発売された、『ノストラダムスの大予言』音楽商品の数々を紹介しよう。

現在までに様々な商品が発売されているが、本作の音楽世界を手軽に楽しむのであれば、ビクターから発売の『ノストラダムスの大予言／惑星大戦争』ＣＤと、ＶＡＰから発売の『ノストラダムスの大予言』サントラＣＤがあれば、本作のステレオとモノラルの殆どの楽曲が楽しめる。

唯一残念なのは、ビクターから発売の『ノストラダムスの大予言／惑星大戦争』ＣＤが現在では廃盤になっていることで、こちらが欲しい方は、中古店でのゲットをお勧めする次第である。

①『ノストラダムスの大予言』

１７ｃｍシングル盤　東宝　ＡＴ－１０６９　５００円

１９７４年８月５日発売（現在廃版）

「テーマ」と「愛」のステレオ音源の２曲をＡ、Ｂ両面に振り分けた、記念すべき『ノストラダムスの大予言』の初音楽商品。Ｂ面収録の「愛」は、ＬＰ盤では曲の初めに波の効果音がインサートされているため、素材曲がそのまま収録されたシングル盤は、当時としては貴重な存在であった。

②『Ｃａｔａｓｔｒｏｐｈｅ　１９９９』

３０ｃｍＬＰ盤　東宝　ＡＸ－８０１２　２２００円

１９７４年９月２５日発売　（現在廃版）

このアルバム用に録音されたステレオ音源全１８曲をフルに活用し、映画『ノストラダムスの大予言』の作品世界を再現したイメージアルバム。シングル盤に収録された「テーマ」と「愛」の２曲の他に、「テーマ」と「愛」のバリエーション１３曲や「破滅のテーマ」３曲を合わせ、その他にＳＳＴの飛行音や波の効果音を挿入し、曲間のオーバーラップやフェードアウト等の処理を経て構成された。なお、Ａ、Ｂ両面に付された組曲のタイトルは、Ａ面が『ＳＯＵＮＤ　ＴＲＡＣＫ　１』、Ｂ面が『ＳＯＵＮＤ　ＴＲＡＣＫ　２』という、当時のサントラ盤に多数見られた単純なものであった。（ジャケット上：表紙帯び付き　下：裏）

③『テレビ・映画★最新ビッグ・ヒット曲集』

30cmLP盤　東宝　AX−8015　2200円

1974年11月25日発売（現在廃版）

東宝レコード（現・東宝ミュージック）が原盤を持つ、テレビや映画等の音源を集めたオムニバス盤。『ノストラダムスの大予言』からは、シングル盤のA面曲である「テーマ」を、SIDE−Aの5作品目にステレオ録音で収録している。なお、同SIDEの4作品目には、『日本沈没』（シングルのテーマ1を収録）の他、『太陽にほえろ！』や『われら青春』のテレビ作品も合わせて収録。SIDE−Bには、『ドラゴン怒りの鉄拳』等のブルース・リー主演のカンフー映画や、『栄光のル・マン』、『さよならモロッコ』等を収め、たいへん多彩な内容のレコードとなっている。

（ジャケット　上：表紙　下：裏）

④『SOUNDTRACK　TOMITA』

30cmLP盤　東宝　AX−8804　2200円

1975年8月25日発売（現在廃版）

『Catastrophe　1999』の新装再発売盤。『月の光』に始まり、『展覧会の絵』、『火の鳥』と続く、富田勲のシンセサイザー作品のヒットによって発売されたと推測されるLP盤。

なお、ジャケットを見ると一目瞭然なのだが、『ノストラダムスの大予言』のアルバムであるということは、極力伏せられた商品となっていることがわかる。

なお、このページと次のページに、『Catastrophe　1999』のステッカーを添付したジャケットと、未添付のジャケットの2種類を掲載した。

（ジャケット　上：表紙　下：裏）

（ジャケット　ステッカー付き　上：表紙帯び付き　下：裏）

⑤『ＳＦ映画の世界　ＰＡＲＴ４』
カセットテープ　アポロン
ＫＳＺ５５３９　２０００円
１９８５年４月２１日発売
（現在廃盤）

《東宝レコード廃盤復刻シリーズ》として、アポロンからＬＰとカセットが再発売された商品。収録曲は同一である。なお、同シリーズのＰＡＲＴ３はジャケットが変更され、ＰＡＲＴ５は『大魔神』、ＰＡＲＴ６は『大怪獣ガメラ』にそれぞれ内容が変更された。

⑤『ＳＦ映画の世界　ＰＡＲＴ４』

３０cmＬＰ盤　東宝　ＡＸ－８１２３　２２００円
１９７８年１０月２５日発売（現在廃版）

『ゴジラ』ＬＰ盤の大ヒットに続いて発売された、東宝ＳＦ特撮映画の音源を集大成し、初収録したオムニバス盤ＬＰ。

第４集のＢ面６曲目に、『Ｃａｔａｓｔｒｏｐｈｅ　１９９９』のステレオ音源の素材から、Ｍ－７（モノラルではＭ－１６に充当）を収録。タイトル曲でもないのに、『ノストラダムスの大予言・タイトル』の収録題名で、しかもステレオ表記でありながら、録音はモノラルで行われている。

（ジャケット　上：表紙帯び付き　下：裏）

⑥『ゴールデンスペシャル１５００　日本の大作映画ベスト２２』

３０ｃｍＬＰ盤　ＣＢＳソニー１５ＡＨ４３４　１５００円

１９７８年４月２１日発売（現在廃版）

高橋洋一編曲、スクリーンランド・オーケストラの演奏による、『ノストラダムスの大予言』タイトル曲のカバー版が収録されている珍盤。Ｂ面の８曲目に本曲が収録されている。その他には『日本沈没』、『宇宙戦艦ヤマト』や『用心棒』、邦画各社の『金田一』シリーズ等を収録しており、本作のマニアやサントラファンは、必聴の価値があると思われるＬＰである。

（ジャケット　上：表紙帯び付き　下：裏）

⑦『ＳＦ特撮映画音楽全集　第１０集』

３０ｃｍＬＰ盤　キング　Ｋ２２Ｇ－７１２０　２２００円

１９８３年６月５日発売（現在廃版）

東宝の特撮映画のオリジナル音源を、１０枚のＬＰに集大成した人気シリーズ。『ノストラダムスの大予言』本編使用のモノラル曲を初めて音盤化した。

第１０集のＢ面４作品目に２曲を収録しており、収録曲は、Ｍ－１７（ニューギニア調査行）とＭ－３０（永遠の生命）。

この商品より、徐々に『ノストラダムスの大予言』劇中使用テイクのモノラル音源が商品化されるようになった。

（ジャケット　上：表紙　下：裏）

⑧『ＳＦ特撮　映画主題曲集　第３集』

カセットテープ　アポロン　ＫＳＺ５４８４　２０００円

１９８４年３月３０日発売（現在廃版）

東宝や大映のＳＦ特撮映画の音源をカセットテープで収録し、キングレコードの『ＳＦ特撮　映画音楽全集』の補完版として、全５巻が発売された。『大空のサムライ』や『クレージーの大爆発』等の初音盤化商品としても、当時としては珍しく貴重な存在であった。

第３集のＳＩＤＥ－Ｂの２作品目に、ステレオ版「テーマ」をモノラルにトラックダウンし、曲間を編集した、本作のタイトル曲を初音盤化。なお、このテープはＤＯＬＢＹ・Ｂタイプで録音されていた。（上：発売当時のチラシ　下：カセット表紙）

⑨『ゴジラ・東宝特撮映画音楽全集』

カセットテープ　ＪＴＮ－１４７８　１８０００円

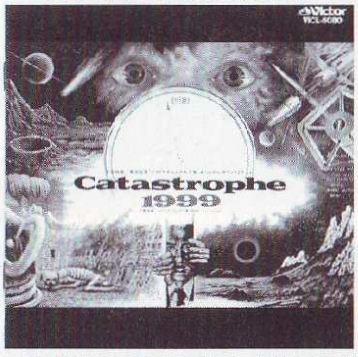
１９８４年１２月発売（現在廃版）

『ゴジラ』（８４年版）の公開時に、初代ゴジラから４５作品もの東宝特撮映画の音楽を全１０巻のカセットテープに集大成し、その他、「ＥＸＰＯ’７０三菱館」やゴジラのＳＥドラマを合わせて収録し、日本ディスクライブラリーが通信販売のみで発売した商品。１万８千円という価格は当時の購入者にとって、さぞ高額だったろうと思われる。

８巻目のカセットのＢ面１曲目に、モノラル音源のＭ－２６・シンセサイザーＭＩＸ分（若者たちの死）を初収録した。

（上：発売当時のチラシ　下：カセットボックス表紙）

＊上：発売当時のミニカタログ



⑩『ノストラダムスの大予言／惑星大戦争』

ＣＤ　ビクター　ＶＩＣＬ－５０８０　２５００円

１９９１年７月２１日発売（現在廃版）

かつてＬＰレコード等で発売された、邦画のサントラ盤をＣＤで復刻してリリースする、ビクター音楽産業の『ＯＳＴオリジナルサウンドトラック名盤コレクション』のシリーズで、『Ｃａｔａｓｔｒｏｐｈｅ　１９９９』（音楽商品リスト②参照）と『惑星大戦争』（東宝レコード・ＤＸ－４００５・１９７７年１２月発売）の東宝特撮映画の両ＬＰが採り上げられ、カップリングで発売された。

２作品を１枚で楽しめるこのＣＤはたいへんなお得盤で、しかも、ＬＰレコード特有のノイズや音飛びの無い、たいへんクリアな音で楽しめる本ＣＤは、ＣＤ黎明期に於ける、貴重な商品だった。

このシリーズの販促用のスペシャルサンプラーＣＤ（非売品）には、１３曲目に『Ｃａｔａｓｔｒｏｐｈｅ　１９９９』から、ＬＰのラストの曲である「愛」が、波の効果音付きで収録された。

⑪『ＳＦ特撮映画音楽全集　第１０集』

ＣＤ　キング　ＫＩＣＡ２０４０　２０００円

１９９１年１０月５日発売（現在廃版）

かつて発売された同シリーズのＬＰを、そのままＣＤ化した商品。トラック１７と１８に、Ｍ－１７（ニューギニア調査行）とＭ－３０（永遠の生命）の２曲を収録。内容はＬＰと全く同様である。

⑫『ＳＦ特撮映画音楽全集　ＥＸＴＲＡ』

ＣＤ　キング　ＳＳＸ４４　非売品（特典）

１９９２年１月２０日

『ＳＦ特撮映画音楽全集』のＣＤ全１０枚の購入者に、プレゼントされた特典盤。ＣＤに添付された１０枚の応募券と、２５０円分の切手をキングレコードに送ると、商品のＣＤが応募者に郵送された。

ＣＤの内容は、『ＳＦ特撮映画音楽全集』のＬＰ発売時の特典であった１７ｃｍＬＰ（未収録曲と効果音を収録）の全内容と、『電送人間』、『マタンゴ』、『ノストラダムスの大予言』、『惑星大戦争』の４作品から選曲された未収録曲による。

筆者は『ノストラダムスの大予言』と『惑星大戦争』の選曲を担当しており、劇中使用のモノラル音源から、その時点で未だＣＤに音源化されていない、東宝マークのオープニング曲Ｍ－１、討論会『自然と人間と未来』から、赤潮に覆われた海のシーンに流れるＭ－８、総理の演説からラストに流れるエンディング曲のＭ－３４の３曲をセレクトした。

なお、このＣＤの構成当初にはモノラル音源のＭ－１９を収録する予定があった。

⑬『怪獣王　日本ＳＦ・幻想映画音楽体系』

ＣＤ　キング　ＫＩＣＤ－２２０１～１０　２８０００円

１９９４年１月８日発売（現在廃版）

東宝、東映、大映、松竹等の邦画各社が製作した、ＳＦ・特撮・幻想映画の音楽を１０枚のＣＤに振り分け、集大成した、画期的なＣＤセット。

『ノストラダムスの大予言』は、ＤＩＳＣ５のトラック５に収録されており、収録曲は、劇中使用のモノラル音源から、タイトル曲の「テーマ」、モダンバレエの鑑賞中に、中川明が幻覚を見るシーンのＭ－１３、国連の隊員が原住民に食いつかれて、良玄が驚愕する幻のシーンのＭ－１９、良玄のイメージによる、原発の爆発で死の灰が大都会に降り注ぐシーンの曲であるＭ－３１の４曲と、ステレオ音源の素材曲から、Ｍ－１４（モノラル音源では、Ｍ－３０の『永遠の生命』に相当）を収録し、全５曲で本作のブロックを構成した。

なお、このブロックの構成初期には、Ｍ－３１の代わりに、最終核戦争のシーンに流れるＭ－３２を収録する予定もあった。

⑭『スクリーミング　ア　ゴーゴー』

ＣＤ　イーストウエストジャパン

ＡＭＣＡ４２４６　２３００円

１９９６年４月２５日発売（現在入手困難）

東宝ミュージック（旧・東宝レコード）の企画で、イースト・ウエストジャパンからリリースされ、渋谷モンド系のリスナーをターゲットとした、“ＧＯ　ＣＩＮＥＭＡＮＩＡ”シリーズのＲＥＥＬ５に、『ノストラダムスの大予言』から２曲が収録されている。

収録曲は、モノラル音源から、第２次ニューギニア調査団員が原住民に襲撃されるシーンのＭ－２０（収録曲名・劇伴No.1）と、中川明が幻想を見るシーンのＭ－１３（収録曲名・劇伴No.2）。

⑮『ノストラダムスの大予言』

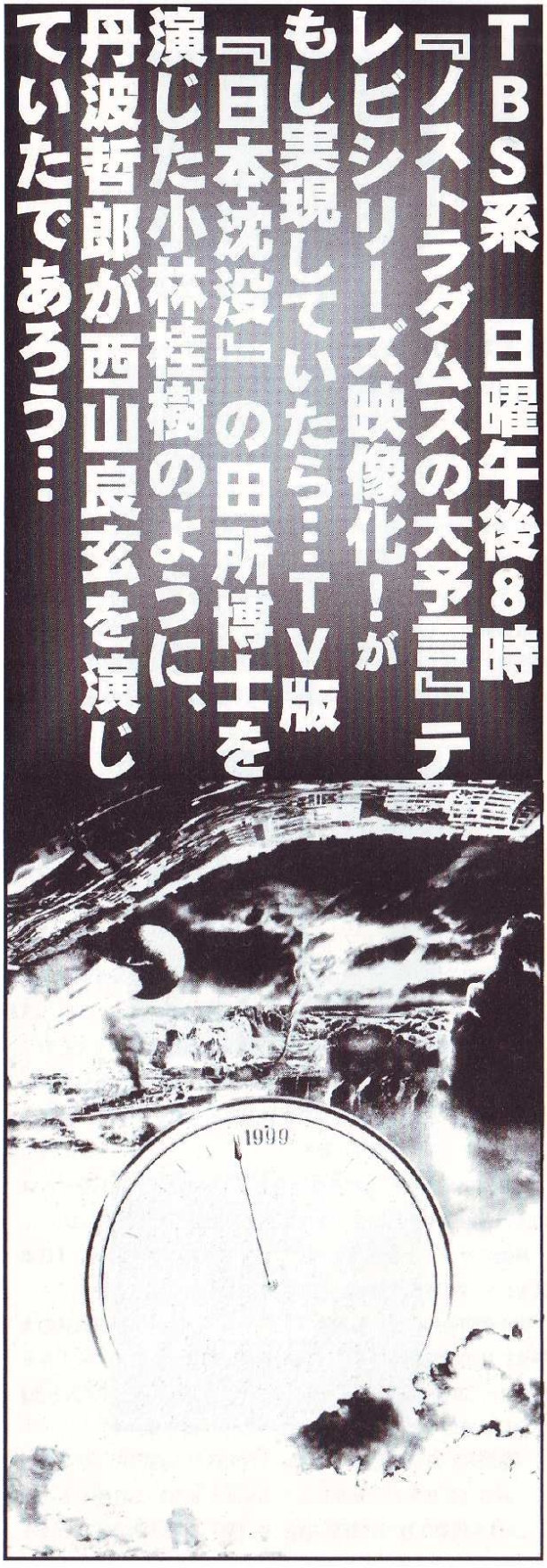
ＣＤ　ＶＡＰ　ＶＰＣＤ－８１１７３　２５００円

１９９６年１０月２日発売

いつかは発売されるだろうと思われていた、『ノストラダムスの大予言』劇中使用のモノラル曲を全曲網羅した完全盤ＣＤ。

邦画のサントラ盤を精力的にリリースするＶＡＰから、『日本沈没』や『新幹線大爆破』と共に発売された。

劇中使用曲の他に、未使用の別テイクと、『ノストラダムスの大予言』初の商品化である１７ｃｍシングル盤（東宝ＡＴ－１０６９）のＡ、Ｂ面の両曲をボーナストラックに収録した、『ノストラ』ファン必帯の１枚である。（上記ジャケットは、横向き）



幻の企画、テレビ映像化について

東宝久々の破滅スペクタクルの大作である『日本沈没』（７３年）は、邦画初の２０億円もの配収を記録する大ヒットとなった。

そして『日本沈没』は古今東西のヒット作の宿命で、すぐさまテレビ化が決定され、昭和４９年の１０月６日から、昭和５０年の３月３０日まで、ＴＢＳ系で日曜午後８時のゴールデンタイムに、１時間番組として、全２６話が放送された。

ちなみに『日本沈没』の特撮シーンは、３５mm映画用の撮影の他に、早期からテレビでの使用を考慮し、同時に１６mmカメラでの撮影も行っていたという。

『日本沈没』に次ぐ東宝パニック路線の第２弾『ノストラダムスの大予言』も当然、早期からテレビ化が予定されていた。（『日本沈没』と同様に、１６mmカメラを同時に回していたかは、現在のところ不明）。放送時期は、本作の公開翌年である昭和５０年で、『日本沈没』のテレビ版を放送したＴＢＳ系で放送する予定だったとのことである。

しかし、結局『ノストラダムスの大予言』のテレビ化は、陽の目を見ること無く、企画のみで消えてしまった。これには様々な原因が考えられるが、まず第一に、『ノストラダムスの大予言』の公開による配収が、東宝の思惑とは違って、『日本沈没』の半分位しか無かったこと。第二に、先に放送されていた『日本沈没』のテレビ版が、視聴率的に低迷を続け、苦戦していたことの二点が挙げられ、これらのことからも、『ノストラダムスの大予言』のテレビ化の企画が流れてしまったのも、無理からぬことだったであろう。

もしも、『ノストラダムスの大予言』のテレビ化が実現していたら、映画とテレビの両方で、『日本沈没』の主役の田所博士を演じた小林桂樹の様に、丹波哲郎がテレビでも西山良玄役を演じていたかもしれず、合わせて映画版の様々なパニックシーンが、毎週見られたかもしれないと思うと、本作のテレビ版が製作されなかった事は、とにかく残念なことである。

なお、今回この原稿を書くに当たって『ノストラダムスの大予言』のテレビ化の資料は、これといってたいしたものが無く、これ以上様々なデータを書けないことが残念である。

魔王降臨

『ノストラダムスの大予言Ⅱ 恐怖の大魔王』幻の映像化…

『ダイハード』や『ターミネーター』、最近では東宝の『モスラ』（平成作品）や『学校の怪談』、『エイリアン』等、劇場映画やテレビ作品に限らず、ヒット作には続編の企画が必ずといっていいほど立てられる。そして企画段階のままで終わるものがあれば、1作目以上の予算をかけて晴れて製作・完成され、陽の目を見る作品もある。

東宝の『ノストラダムスの大予言』の場合は、当然、その前者に当たるわけであるが、本作にも決してその予定が無かったわけではない。それが、この本誌の巻末に掲載されている、『ノストラダムスの大予言Ⅱ　恐怖の大魔王』である。

この企画書は筆者の友人が、とある作品のスタッフとして東宝撮影所内に出入りしていた際、たまたま撮影所内のある場所で偶然に発見したものである。今思えばよくぞ現物が残っていたという感が強く、この世にいったい何冊が現存するのかという程の、貴重品であることは間違いない。

さて、この企画書の内容については、ここに復刻された企画趣旨と、そのストーリーを読んでいただけば一目瞭然であるが、少々解説をさせていただこう。

この作品は『ノストラダムスの大予言Ⅱ　恐怖の大魔王』というタイトルであるが、純粋に昭和４９年に公開された前作の続編というスタイルをとってはいない。企画趣旨に記載されている、五島勉のベストセラーである大予言シリーズの第３弾、『ノストラダムスの大予言Ⅲ』をストーリーのベースとして、その中の一つのエピソードが物語に組み込まれている。

それはストーリーの冒頭に記載されている、昭和５５年の１月３日に起こった、イースタン航空のエアバスＡ３００の３人のスチュワーデスが血の汗を流すという”汗血症”という奇病のエピソードのことである。この事件を物語の発端に、これを地球滅亡の前兆と感じたルポライターの五島勉が、東亜大学理工学部の武部教授と共に霊媒実験をおこない、ノストラダムスの霊を呼び出して、ノストラダムス自身が作り出した四次元空間を、過去から未来へと予言書の内容通りの体験飛行をするという、どこまでも現実的な描写に終始した１作目と比べると、汗血症等の大きな謎と、世界戦争突入へのサスペンスを盛り込んだ、たいへんファンタジック性の強い、映画ならではの作品となっているのが、本作の大きな特徴である。

なお、この企画書の表紙には、執筆時期のデータがまったく記載されていない。五島勉の『ノストラダムスの大予言Ⅲ』が刊行されたのが、昭和５６年２月１５日ということで、企画趣旨内での、この本についてのベストセラー上位という記載や、エピソードの一部流用など、この企画書が成立したのは、少なくとも昭和５６年の２月下旬以降であると思われる。

企画趣旨の冒頭には『大予言Ⅱ』の再提案というくだりがあり、第１作の公開が昭和４９年の８月で、あまりヒットに恵まれなかったにもかかわらず、プロデューサーの田中友幸は『ノストラダムスの大予言』の続編の企画を、長期にわたって提出、そして温めていたことが容易に推察され、東宝の希代のプロデューサー、田中友幸がこの作品に如何に情熱を注ぎ、映像化に腐心していたかが伺えるものである。

なお、余談であるが、ノストラダムスの大予言に関しての映像化は、東宝作品の他に、幸福の科学が製作した『ノストラダムス戦慄の啓示』（劇中に登場するノストラダムス役を大月ウルフが好演している）が、東映系で９４年に公開された。

また、企画段階で終わった作品には、『ノストラダムス戦慄の啓示』をベースに、９１年に角川映画が発表した東宝作品と同名の『ノストラダムスの大予言』。

また、英国のロジャー・クリスチャンが監督した『ＮＯＳＴＲＡＤＡＭＵＳ』も、残念ながら公開延期となっている。

ノストラダムスが“恐怖の大王”が降ってくると予言した１９９９年が、もう翌年にやって来る。

それを迎える現在となっては、ノストラダムスの映像作品化は、もう不可能なのであろうか？筆者はたとえ２１世紀になろうと、様々に解釈されたノストラダムスの映像作品が作られることを願っているのである…。

Essay

映画『ノストラダムスの大予言』の思い出

中村　哲

私がこの作品、東宝映画『ノストラダムスの大予言』のことを初めて知ったのは、昭和４９年７月２５日（木）午後８時～８時５５分・フジテレビ系で放送された、本作の特番である『木曜大特集』を観た時だった。確かゲストに五木ひろしが出演していて、「私は今日、由美かおるさんのヌードを見るために来ました（このような言葉だったと記憶する）」と、ニコニコしながら喋っていたことと、この作品が核ミサイルの最終戦争で、地球人類の滅亡を暗示して終わるという、映画のラストシーンの紹介で、その特番が終わったことを記憶している（軟体人間のシーンの放送は無かったと記憶する）。

昭和３８年生まれの私は、当時１１歳。小学校５年生の鼻タレ小僧の私には、核戦争で終わるこの番組のラストの描写はあまりにも衝撃的で、さすがに小便はちびらなかったが、あまりの怖さにその夜は寝ることもままならず、当然ながら映画館に行くことは無かったのである。まあ、今思い起こせば、子供の私にとって、当時のオカルトや世紀末のブームは、大なり小なりそれこそが、“恐怖の大王”という言葉で表現される、悪夢の存在であったのである。

そして月日は経ち、私にこの作品のことを思い出させてくれたのは、昭和５５年３月の『モスラ対ゴジラ』の２回目のリバイバル上映（同時上映は『ドラえもんのび太の恐竜』）の頃から盛んに開催されるようになった、東宝特撮映画のオールナイトの１プログラムに、『日本誕生』、『日本沈没』、『ノストラダムスの大予言』の３作品の上映が、テアトル池袋であったのだ。東宝特撮映画を殆どスクリーンで観たことが無かった私は、当然毎週のように閑健されるオールナイト上映に熱中し、当然、このプログラムにも行ったのである。日本が誕生、沈役し、そして地球が滅亡するという、とんでもないプログラムで上映された当日のオールナイトで、私は初めて『日本誕生』と『ノストラダムスの大予言』をスクリーンで鑑賞した。特に『日本誕生』のノーカット上映は、確かこの時以降あまり無く（現在では諸事情で短縮版のみらしい）、たいへん貴重な上映ではあった。

で、『ノストラダムスの大予言』である。本作を初めて観た私の率直な感想は、かなりの映画的な誇張はあるが、たいへんまじめに製作された作品であり、しかも特撮の出来が想像していたよりも良く、なんといってもすばらしかったのは、富田勲の音楽であり、ついでに「丹波が本当によく喋る映画だな～」（笑）ということだった。唯一残念だったのは、データとしては知っていたが、作品中の２箇所がカットされていたことである。余談だが、私は当日の『ノストラダムスの大予言』の上映中、ノイローゼの開発大臣が自宅の木に登ったシーンで、劇場内に響く位の大笑いをした１人の観客がいたことを、鮮明に覚えている。

以来、私はこの作品の魅力にすっかり取りつかれてしまった。この時期には本作のテレビ放送もあり、私の『ノストラ』熱は一気に爆発した。しかし、昭和５８年６月２５日のオールナイト上映を最後に本作はスクリーンから消え、予定されていたビデオ発売も中止となり、テレビ放送のビデオを持ってはいたが、当然、カットされた軟体人間を見たいという、この作品のファンであれば当然の、その欲求はつのった。

たまたま本作の１６ミリがレンタルされていること（当時で３～４万円のレンタル料だった）を知った私は、軟体人間のシーンが無いかもしれないが、こりゃ見るっきゃない！とばかりに私のまわりの自称『ノストラ』ファンを５人集め、その６人で『ノストラ』会なるもの（笑）を発足させて、その友人の家で本作の上映会を開催した。結果から言えば、見事にフィルムはカットされており、軟体人間のシーンがあってくれ～という私の願望は、あっけなく打ち砕かれたが、それでも久しぶりにフィルムで観る全長版の本作に『ノストラ』会のメンバーはそれぞれ存分に堪能、満足し、その夜は明け方まで、『ノストラ』話に明け暮れたのであった。まあ、今思えば、この上映会なんかは所詮、一特撮ファンの戯言に過ぎないのであろうが、このような自分が好きな作品に対する熱い思いや、ささやかなれど、たゆまぬ努力は、いつの時代でも忘れずに大切にしたいものである。

そして今回、グリフォンの尽力で、ドラマＣＤという形ながら、本作の商品が発売され、そのスタッフの一人として執筆できることは、何ものにも変えがたい喜びである。いつの日か、この商品を購入した皆が、本作を映像でも楽しめる日が来ることを、一日千秋の思いで待っていたい。

中村　哲　プロフィール

１９６３年東京都生まれ。会社員とライター業の二足の草鞋を履いていたが、突然のリストラで、偶然にもＮＹの『ＧＯＤＺＩＬＬＡ』ツアーに、取材を兼ねて参加した幸運（？）の持ち主。主に東宝特撮映画を中心とした特撮、アニメの執筆活動をおこなう。最近の主な仕事は『ゴジラ・クロニクル』、『ゴジラ画報第２版』、『永井豪のダイナミックワールド』（以上、全て執筆）、『ＧＯＤＺＩＬＬＡ』ノベライズ豪華装丁版（解説）等多数。

○石くんのお楽しみはココからだ！！
≪底などぬけてないゾ！！超大作≫

昭和元禄の夢も終わった１９７４年初夏、日本の映画館では『エクソシスト』『ドラゴン怒りの鉄拳』『スティング』など、さまざまな作品が上映され。ここ東宝系の劇場では、超大作『ノストラダムスの大予言』が上映されていた。そして、東宝映画『ノストラダムスの大予言』が公開されて、四半世紀が過ぎ去った。ちょうど、ノストラダムスが人類滅亡を唱えたのと同じ１９９９年である。

時の経つのは早いものだと感じる。公開初日に一番乗りをしたのが昨日のようである。それだけ、当時から期待していた作品であった。前年に起こったオイルショックによって、この年の特撮作品は消沈気味で、翌年には、ウルトラマン、仮面ライダー、ゴジラなどのシリーズ作品が、次々と消えていった…。

この時期の正月には、特撮超大作『日本沈没』が公開され、その第二弾の『ノストラダムスの大予言』には、いやが上にも期待した。しかも、今度は日本のみならず、世界…地球を滅亡させてしまうのである。過去にも『世界大戦争』『妖星ゴラス』など、地球を壊滅させるスペクタクル作品はあったが、日常生活（衣食住）をより密接に取り入れた特撮作品はこれが最初であろう。

五島勉の原作は予言の訳である。原作はあって無きがごとしと言っても過言ではない。どんなストーリーになるのか、興味深かった。問題の箇所が無いと言えば嘘になるが、そんな事はこの際、私には関係なく、おもしろい映画だった。現実味あふれる、嘘八百の娯楽の世界と私は思っている。そんな、気持ちを満たしてくれた作品であった。

特撮はもとより、良玄と伸枝の愛と死、明とまり子の愛の賛歌、総理大臣の人類へ対しての熱弁、良玄、いや丹波哲郎のラストの“丹波節”！！。など、人間ドラマとして感動する場面が幾つかある。この場面をドラマＣＤなどで、確かめてみてはいかがだろうか。

冨田勲の音楽も短期間の作曲時間とはいえ、インパクトの強い曲ばかりである。特に〝永遠の生命〟（Ｍ－３０）など、俗に言う愛のテーマの音楽は作品をより一層盛り上げている。

上記の場面の他にも、声優として有名な納谷悟朗や市川治などの演技が生で見れたり、Ｈなシーンもあったりする。

『ノストラダムスの大予言』と言ったら現在では、あの幻のシーンが話題になっている昨今であるが、『ウルトラセブン』の第１２話と同様に、その部分しか興味本位で見るのはどうかと感じている。周りの意見に乗せられて、作品を見て無い人達までイメージばかり先行しているのでは…。そんな為にも、映像が一日でも早く見れる事を願っている。ビデオでも良いけれど、やはり大画面での復活を望みたい。折角のパナビジョンの映画なのだから。ましては、自分の大好きな作品なのだから。

「映画とは何でしょう？作品を作品として上映させる責任であります。その作品のフィルム自体が壊滅の急坂を今、クレームをつけられながら封印、ジャンクされているんです…。神仏による大決断を、私は東宝に祈りを込めてお願いします！」

大石昌弘　プロフィール

うなぎパイで有名な浜松に住む、幼き頃『ウルトラQ』の本放送を見て人生を踏み外した３０代後半の男。東宝特撮映画の公開初日や、『美少女戦士セーラームーン』のミュージカルには、欠かさず東京に駆けつける傍ら、『ノストラダムスの大予言』や『ザ・ウルトラマン』、『日本沈没』（テレビ版）等のマイナー作品を特集した同人誌「夢倶楽部」を編集・発行する、心に星を持つ神出鬼没の謎の怪人。それが“○石昌弘”だ！（笑）。

夢倶楽部　ＶＯＬ。５　特撮大好き！東宝篇①

夢倶楽部　ＶＯＬ。７　特撮大好き！東宝篇②

『ノストラダムスの大予言』がある風景

早川　優

人はなぜ、恐ろしいものを観たがるのだろう。映画館の暗闇の中で、人は怪物や殺人鬼の物語を楽しむ。あくまで安全なスクリーンのこちら側に居て、銀幕の彼方で繰り広げられる物語を消費する。絶対の安全は確保しておいて恐怖の物語を仮想体験する時、それは純粋な娯楽となる。元をただせば、数々の伝承にたどり着くのかも知れない。物語を享受する類の娯楽の中で、恐怖というカテゴリーはかなり重要な位置を保ってきた。一方で教訓話…宗教からくる説話の類がある。人生を悔い改め、よりよい民に人を導くために紡がれた説話の数々。それは、死後に生前の行ないを清算することを説いたものや終末の物語など、世界中に存在する。子供の時分に親が頻繁に用いる決まり文句も同系列だろう。言うことを聞かないと…に…されちゃうよ、というあれだ。世界中でノストラダムスの予言がもてはやされた背景には、そんな教訓話じみた側面と、恐怖を安全に消費したいという願望の二つの面があってのことだろう。

僕の場合、“ノストラダムス”と聞いて最初に連想するのは、祥伝社ノンブックから刊行された五島勉の大ベストセラー『ノストラダムスの大予言』の表紙に描かれた瞳のない青白い女性の顔だったりする。ベストセラー達成の要因の何割かは、絶対にあの表紙画が担っていたはずである。僕はノストラダムスの予言の怖さはすでに知っていたので、絶対に読みたくはなかった。が、ついに刷りが１３０版を越える頃、僕はとうとう本を手に取ってしまった。

同書は占星術師・ノストラダムスが予言として書き残したとされる４行詩を、強引とも言える解釈で数々の歴史事実に当てはめ、ついには１９９９年の７の月に人類に大いなる災厄が訪れるという結論を導き出す、一種、ノンフィクションを装った恐怖文学の傑作たり得ていた。その五島勉の本が映画になるという。これを観に行かない手はあるまい。果たして、映画は見せ物的な怖さの中に数々の警告を潜ませた、大イベント作品であった。公開前から期待していた地下鉄内に巨大植物が繁殖するシーンや、ニューギニアのジャングル調査シーンを楽しみ、そして最終戦争のくだり。人類はすでに滅び、核兵器が自動制御で飛んで行く。やがて赤茶けた地球が映し出され、丹波哲郎のナレーションとともに日本列島、関東平野へ誘われる。すでに五島勉の本は読んでおり、人類滅亡後の世界に怪物が出現する展開であることは知っていた。しかし、軟体人間の姿についての予備知識はなかった。岸田今日子の予言の朗読が終わると、静まり返った荒野に全身を醜く爛れさせた新人類２人が登場、ミミズ状の生物を巡って争う。そのインパクトったらない。目の前で世界が滅亡して生き残ったのはミュータント…。小学生の観客としては絶望の極みだった。何ちゅー救いのなさ！？　心の中でそんな言い回しはしなかったとは思うが。一転、それが国会のシーンに変わってビックリ。あれっ？　人類は滅んだんじゃなかったの？　すぐに、今までのシーンは西山良玄の演説内容を映像化したものだと気がつく。ホントの本当に、心底、救われた気持ちだった。ラストの国会のくだりが、高木彬光の名著『ノストラダムスの大予言の秘密』のごとく、観る者の精神的安全弁として機能することもあり、僕は半ば安心して、この世紀末破滅ロマンを堪能したのだった。

続いて『ルパン』を鑑賞（『ノストラ』の後では、さすがに分が悪かった。残った印象は江崎英子のレザー・スーツ姿ばかりという体たらく。この２本はずっとトラウマなのである）。今から考えてみても、観客に希望を持たせる『ノストラ』のラストの仕掛けや、併映の『ルパン』が無かったとしたら、劇場からどんな顔をした観客が出てきたか判ったものではない。やはり、明るく楽しい東宝映画。ラストの３人の主役のように、決然とした顔をして小屋を後にするのが筋といえるだろう。初公開から２５年。表現の一部が問題となって、『ノストラダムスの大予言』は、簡単には目にすることの出来ない作品となってしまった。人は容易に観られないとなれば余計に気にかかる。こうして『ノストラ』は伝説の一つになった。もう１９９９年７月は眼と鼻の先。この盤を手にしたおられる皆さんの大半は、１９９９年カウンドダウンへの恐怖の洗礼を受けたノストラ世代だろう。破滅が来ないことを願いつつも、心の暗闇に蹲る恐怖を感じるのは筆者ばかりではあるまい。来たる７の月を無事にやり過ごした暁には、記念に『ノストラダムスの大予言』の上映会なんかが出来たら素敵かもしれない。

早川　優　プロフィール

１９６５年埼玉県出身。大学卒業と同時にフリーライターとしての活動を開始。主に、映画、アニメーションのサントラＣＤや、各種映像ソフトの企画・構成・執筆を中心に活動を続け、現在に至る。ＣＤに、『黒澤明映画音楽全集』、『佐藤勝映画音楽全集』、『怪獣王～日本ＳＦ・幻想映画音楽体系～』は、９４年度の日本レコード大賞企画賞を受賞。共著に『ウルトラマン特撮の秘密百科』、『懐かしのテレビアニメ９９の謎』など。本作の愛好者の集まり、“ノストラ会”のメンバー。

興行成績について

■１９７４年　配収トップ１０

No.	作品タイトル	配給会社	配給収入
1	『ノストラダムスの大予言』	東宝	６億９千８，４２０，０００.円
2	『エスパイ』	東宝	４億７千５，４３０，０００.円
3	『男はつらいよ　寅次郎子守唄』	松竹	４億７千０，１５０，０００.円
4	『男はつらいよ　寅次郎恋やつれ』	松竹	４億４千０，７５０，０００.円
5	『三代目襲名』	東映	４億３千２，８７０，０００.円
6	『あゝ決戦航空隊』	東映	３億８千２，８６０，０００.円
7	『仁義なき戦い　完結篇』	東映	３億６千７，２４０，０００.円
8	『伊豆の踊子』	東宝	３億５千２，４６０，０００.円
9	『超能力だよ全員集合！！』	松竹	３億４千５，５００，０００.円
10	『山口組列伝　九州進攻作戦』	東映	３億３千４，５９０，０００.円

■１９７３年　参考データ

No.	作品タイトル	配給会社	配給収入
1	『日本沈没』	東宝	１３億２千２，４３０，０００.円
2	『人間革命』	東宝	５億５千７，８３０，０００.円
3	『ゴルゴ１３』	東映	４億５千７，５２０，０００.円

注１　『ノストラダムスの大予言』は、同時併映の『ルパン三世・念力珍作戦』との２本込みで、最終配収９億８１９７万円である。この記録は'８６年当時のデータで、邦画配収のベスト８８である。（ベスト１は『南極物語』の５８億４９４４万円）

注２　『エスパイ』は、同時併映の『伊豆の踊子』との２本込みで、最終配収９億３９１２万円である。この記録は'８６年当時のデータで、邦画配収のベスト９８である

注３　『日本沈没』は、同時併映の『グアム島珍道中』との２本込みで、最終配収１９億５１８６万円である。この記録は'８６年当時のデータで、邦画配収のベスト１３である。

注４　表記されている全ての配給収入は、'８６年当時の金額である。

■興行成績　解説

『ノストラダムスの大予言』は、前年末に公開され、日本映画界で初の配収２０億円を記録した、超特大のヒット作『日本沈没』を目標に製作・公開された。しかし、公開前の大きな期待に反して、『日本沈没』に比べて半減程度の成績で終わったことは、掲載した興行成績のデータを見るまでも無い。では、このような成績に終わった原因は何だったのか？「キネマ旬報」'７４年８月下旬号に掲載されたその記述によれば、『ノストラダムスの大予言』は『日本沈没』に比べて、ジャーナリスティックな話題性が今一つ少なく、当時の社会的な風潮もこの作品を盛り上げるには至らず、この基本的な違いが、若い世代を中心とした巾広い観客層による動員の厚さでは、とても『日本沈没』には及ばないと分析されていた。結局、この予想はほぼ的中し、前述の通りの興行成績に終わるのだが、これはやはり『日本沈没』の成績が当時の邦画界にとって、とてつもなくずば抜けたものであり（一応、東宝が柳の下の二匹目のドジョウを狙ったとしても）、これと比較すること自体が無理な話であったと言えるだろう。しかも、本作の興行成績は、この頃の映画界全体に及ぶ斜陽の時期といえど、'７４年の第１位（しかも第２位が『エスパイ』というのも我々にとって嬉しい事実！）という輝かしいものであり、やおら悲観するようなことは無いように筆者は思えるのであるが、読者の方々は如何に考えられますか？

作品封印への経緯

滅亡へ向かう人類の姿を、ある種の美しさをも湛えた映像表現で描き切った『ノストラダムスの大予言』。それは宣伝惹句の「恐怖ロマン」という呼び名がまさに相応しい、昭和４０年代を締めくくる快作であった。

そして、その名をさらに深く、忘れ得ぬものとしている最大の要因のひとつが、作品中の表現に端を発した抗議事件と、その後の作品封印への顛末といえるだろう。作品で問題となったのは以下の２シーン。

①ニューギニアの奥地へ派遣された調査員が、死の灰でおかされ。顔にケロイド症状のある原住民に襲われて食べられる場面。（２コマ計４９フィート）

②核戦争後の地球（赤茶けた大地）に生き残った頭の大きな人間らしい動物（キャスティング表では軟体人間と表記）が登場するが、その中の被爆者の小頭症を思わせるラストシーン（１コマ９１フィート）である。あわせて１分４５秒のカットである。（①、②とも朝日新聞１９７４年１２月１９日の記事より）

本作品『ノストラダムスの大予言』に関して、ファンの間で半ば伝説的に語られているのは、これらのシーンに対するクレームが１９７４年夏の作品のロードショー公開中に行なわれ、東宝はすぐさま全国２００館の劇場に指示し、即座に該当シーンを削除する対応を取ったというものである。が、これは仮に行なわれていたとしても、かなり局地的な対応だったのではないだろうか。

当時、各地方における興行でも、これらのシーンが手付かずだったとの証言が複数ある。「筆者自身」も当時、本作品を観たが、間違いなくノーカットの状態であった。少なくとも公開中の本作品に全国規模でカットが施されたという点に関しては、ファンの間に伝わる噂の域を出ないことを明記しておきたい。

さて、上記の放射能の影響を極めて陰惨な形で表現した２シーンが問題になったのは事実である。
毎日新聞１９７４年１２月１９日の記事「『被爆者を怪物視』の抗議に東宝がカット約束映画『ノストラダムスの大予言』」を中心に事実関係を整理すれば、以下の通りになる。

作品に対し抗議を繰り返したのは、（朝日新聞、毎日新聞の記事の記述によれば）「大阪府原爆被害者団体協議会、８０００人」及び、「原水爆禁止全面軍縮大阪府協議会、約３０団体。」

事件が起きたのは、ロードショー公開されて間もない１週間後の出来事である。関西地区の劇場で、上記団体（原水協または原水禁）に関係する青年が映画『ノストラダムスの大予言』を鑑賞していた。

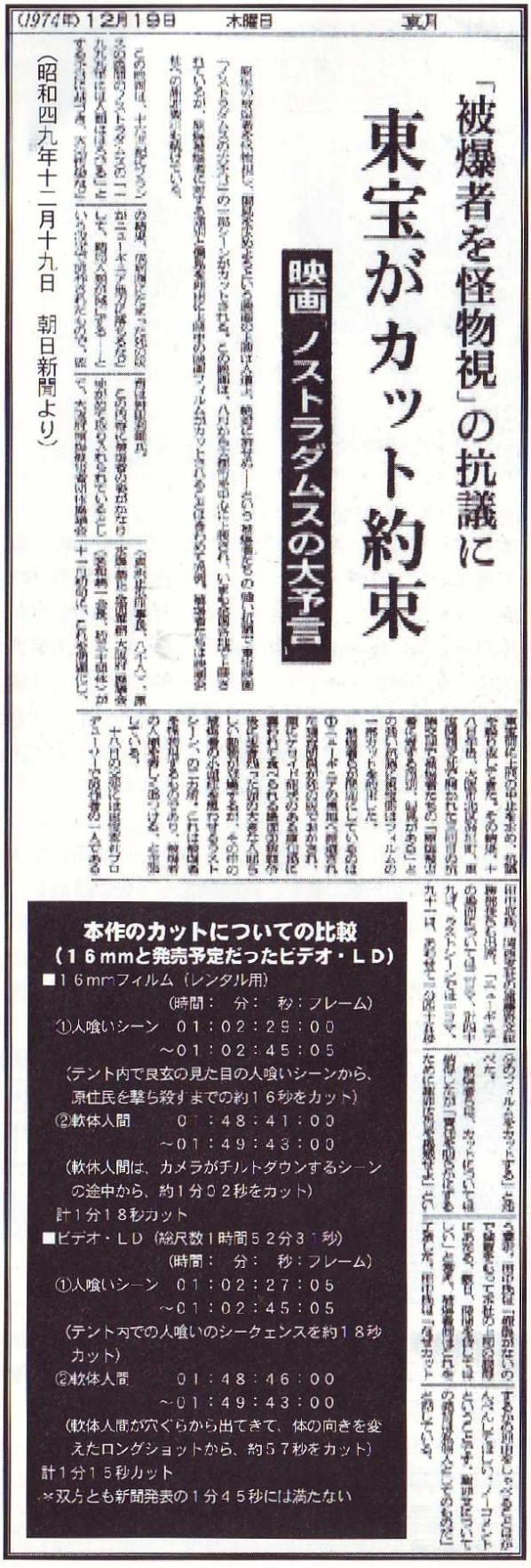
クライマックスを迎え、放射能の影響により人間の毛と皮が剥け、醜く変貌し、餌（ミミズらしき生物）を奪い合って死闘を繰り広げる場面に直面したとき、被爆者の小頭症を思わせるような姿の怪物視した描写に、青年は突如我に返り、自分が関係する団体へ映画の内容を報告した。

団体は、明らかに被爆者に対する差別であると判断、直ちに映画の製作元である東宝に対する抗議を開始。
最初はたった一本の電話からであった。その際、東宝側は“表現の自由”を盾に、いい加減に対応。
これに怒った団体は、東宝に対し徹底的な抗議活動に出た。

同団体、及び協議会は同年１１月に作品の表現について問題を抱き、被爆者の人権を著しく傷つける作品の製作・配給元である東宝に対して上映の中止を求める働きかけを行なった。

その結果、両者間で同年１２月１８日午後、東宝株式会社関西支社にて３回目の交渉の場がもたれ、東宝側は抗議側が問題視した両シーン・計１分４５秒分のカットを約束。

さらに同月２５日付の全国紙に、東宝株式会社・株式会社東宝映画・東宝映像株式会社、以上３社の連名による謝罪広告を掲載。そして、交渉に基づき、東宝は上映用プリントから該当個所の削除を行なった。



(1974年)12月19日　木曜日　東月

「被爆者を怪物視」の抗議に

東宝がカット約束

映画「ノストラダムスの大予言」

（昭和四九年十二月十九日　朝日新聞より）

本作のカットについての比較
（１６mmと発売予定だったビデオ・ＬＤ）

■１６mmフィルム（レンタル用）
（時間：　分：　秒：フレーム）
①人喰いシーン　０１：０２：２９：００
～０１：０２：４５：０５
（テント内で民玄の見た目の人喰いシーンから、原住民を撃ち殺すまでの約１６秒をカット）
②軟体人間　０１：４８：４１：００
～０１：４９：４３：００
（軟体人間は、カメラがチルトダウンするシーンの途中から、約１分０２秒をカット）
計１分１８秒カット

■ビデオ・ＬＤ（総尺数１時間５２分３１秒）
（時間：　分：　秒：フレーム）
①人喰いシーン　０１：０２：２７：０５
～０１：０２：４５：０５
（テント内での人喰いのシークェンスを約１８秒カット）
②軟体人間　０１：４８：４６：００
～０１：４９：４３：００
（軟体人間が穴ぐらから出てきて、体の向きを変えたロングショットから、約５７秒をカット）
計１分１５秒カット
※双方とも新聞発表の１分４５秒には満たない

←（昭和四九年十二月二五日　毎日新聞より）

お詫び

当社が製作配給しました映画「ノストラダムスの大予言」は、その製作意図に反し、心ならずも原水爆で被害を受けた方々に対する配慮と認識が足りず、被爆者の方々に対する偏見を観客に与える部分がありましたことを深くお詫び致します。
つきましては十二月二十日以降、その部分をカットして上映しますのでご諒解を賜りたくお願いします。

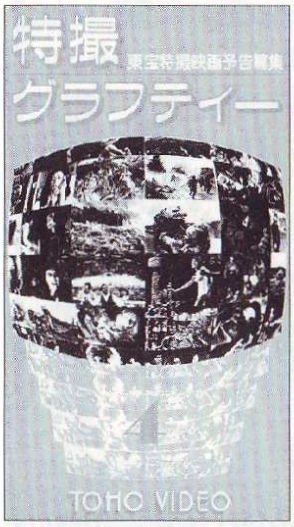
昭和四十九年十二月二十五日

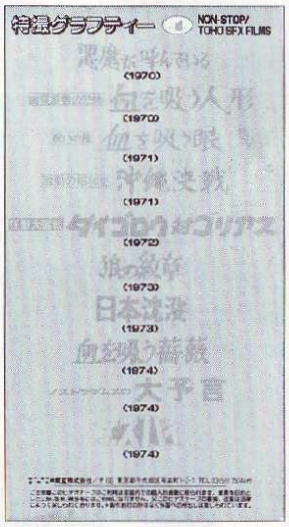
東宝株式会社
株式会社東宝映画
東宝映像株式会社

これ以降、１６mmのレンタル・フィルムでも、本作品をノーカットで観ることは叶わなくなった。

ただし、削除はあくまでプリント段階での処理であり改変がネガフィルムに及ぶものではない。それゆえ、１９８０年１１月３日のテレビ朝日系「ホリデースペシャル」における唯一無二の『ノストラダムス』テレビ放映の際には、ニューギニア原住民のシーンが流れることにもなった。

さて、こうした経緯を経て、東宝としては『ノストラダムスの大予言』という作品に対する問題は一掃されたと認識していたようである。
作品を封印しようなどという考えは一切なかったはずだ。





東宝ビデオ　特撮グラフテイー４（現在廃版）

それは、東宝ビデオから発売された“ゴジラもの”以外の東宝ＳＦ・特撮・幻想ジャンルものの予告編集『特撮グラフティー』シリーズでも、本作の予告編がしっかり収録されていることにも明らかだ。さらに、東宝ビデオでは一連の特撮作品、リリースの一貫として、１９８６年３月１日に本作品のビデオを発売（定価１２８００円）することを決定する。定着していたレーザーディスク版（定価９５００円）も遅れて４月２１日に発売される運びとなっていた。

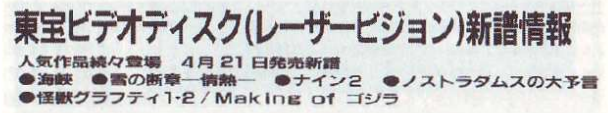
マスターの製作作業を終え（当然ながら、当初のマスターはノーカット版であり、次段階として先の該当シーンを削除したマスターが起こされている）、パッケージ周りのデザインも完成、東宝ビデオの新譜案内書に告知が載り、後は出荷を待つばかりという段階になって、急遽発売は中止された。

上記写真　宇宙船Ｖｏｌ．２９（１９８６年４月号）Ｐ９４より

＊Ｐ９５にはレーザーディスクの発売予定も掲載

右上写真　宇宙船Ｖｏｌ．２９（１９８６年４月号）広告より

右下写真　東宝ビデオディスク　新譜情報より



TOHO VIDEO NEWS

夜叉

日本海に面した小さな港町に妻や子供たちと静かに暮している漁師。その男の背中一面に彫られた夜叉の刺青だけが捨てたはずの過去を……。「駅・STATION」「蝦夷」「居酒屋兆治」に続く、高倉健シリーズ・最新作。共演は田中裕子、いしだあゆみ、ビートたけし他。音楽は世界的アーティスト、トーツー・シールマンス、主題歌トッツ・ジャズ・シンガー、ナンシー・ウィルソンが雰囲気を盛りあげます。

（カラー、127分、ビスタサイズ、14、800円）

ノストラダムスの大予言

かつてのベストセラー、五島勉の司名原作をベースに絵巻物風人類滅亡ファンタスティックに展開されます。代々、ノストラダムスの予言書「諸世紀」に基づき数々の予言を残してきた西暦一族。千年の良心もその一人であった。エジプトに出現し、ハワイが爆発し、ノストラダムスの予言通りに規、刻と世界が終末を迎えようとしている……。

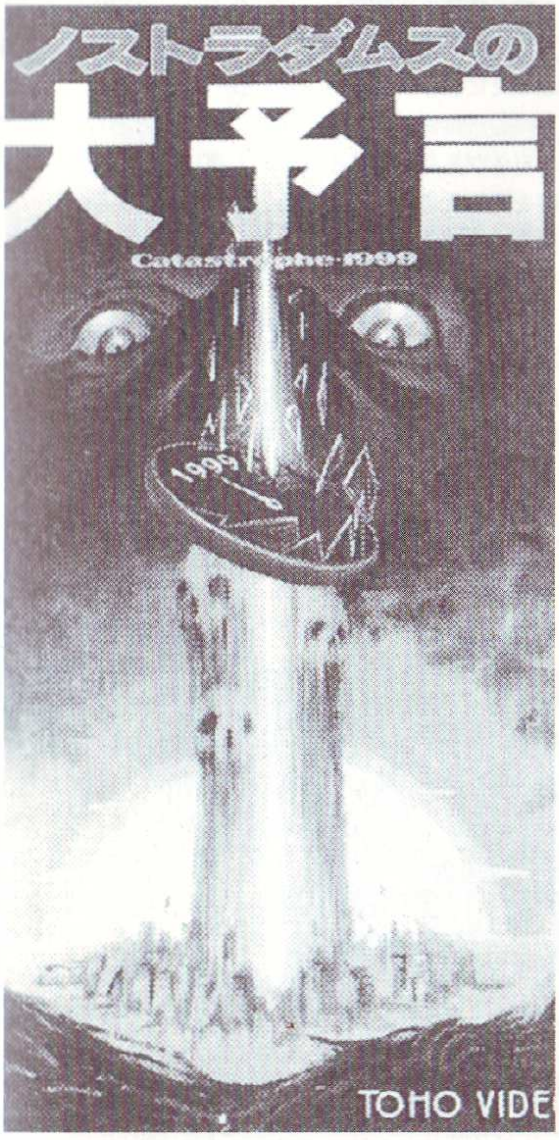
（カラー、116分、シネスコ版、12、800円）

呪いの館　血を吸う眼

ファンタスティック・ホラーシリーズ第3弾は吸血鬼の登場です。日本で初めての映血鬼ものとして当時センセーションをまきおこし、物議もかもされながら、ドラキュラ伯の故郷田森の迫真せまる演技とそれを彩づける怪奇映画の第一人者山本迪夫監督の演出にマニアならずとも興味津津。

（カラー、92分、シネスコ版、8、000

東宝の社内誌、『宝苑』に掲載された新作ビデオ情報ページ



上記、『宝苑』に掲載された幻のビデオパッケージ（当時紙箱）

一説によれば、東宝の社内誌『宝苑』掲載のビデオ発売情報が、当時のトラブルを知る関西支社社員の目に留まり、その人物からの強い要請に沿った自主規制とのことである。パッケージまで完成していた後の発売中止という異例の自体に当時のビデオ製作現場の混乱は想像するに余りある。本来ならば有り得ない一線を越えた後での発売中止決定が下されたという事実は、背景に存在する様々な事情を示唆しているといえる。

それにしても、被爆者の人権保護という名目の下、なぜ『ノストラダムスの大予言』という作品ばかりが、被爆した宇宙人の侵略を描いた『ウルトラセブン』第１２話『遊星より愛をこめて』とともに、生ける贄となり続けているのだろうか。被爆した対象を悪側に描いているのが、これらの作品が問題とされる理由の一つである。

そうであれば、日本のジャンル映像作品の中には類似の例は他にも枚挙に暇がないのに、それらがまったく指摘されないのはなぜか。

その代表例が『ゴジラ』であろう。１９５０年代、冷戦下のアメリカでは放射能の恐怖を興味本位に扱った怪物映画を量産した。我が『ゴジラ』は、そうした一連の作品――特に『原子怪獣現わる――からインスパイアを受けて誕生したことは周知の事実である。

日本の遠洋マグロ漁船・第五福竜丸がビキニ環礁における水爆実験の死の灰を浴びた事件を反映し、その物語には極めて明確な反戦・反核兵器のテーマが盛り込まれているとはいえ、ゴジラはオリジナルのリドサウルスよりも露骨に全身をケロイドで覆い尽くした姿を与えられ、日本国民を恐怖のどん底に陥れる。

ゴジラというキャラクターが問題視されないのはなぜなのだろう。被爆によって怪物化したのが恐竜だからか。同じように『ウルトラセブン』の、地球人によって被爆させられて怪物化したギエロン星獣が復讐にやって来る『超兵器Ｒ１号』というエピソードにもクレームが寄せられたという話は聞かない。

こちらも人型でないから良いのか。人間が怪物化するのが問題というのであれば、被爆した船員が液体生物化する『美女と液体人間』や、被爆したキノコを食べた人間が怪物化（そのデザインも、初期段階のケロイド状から最終段階のキノコ＝原爆雲状まで、極めてシンボライズされたものだ）する『マタンゴ』という作品もある。

これらは片やミステリアスな娯楽作品として、片やアイロニカルな文明批判を軸とした恐怖映画として、共に傑出したフィルムだが、『ゴジラ』以降、放射能という発想から抜けきれなかった時期の東宝作品であり、キャラクター設定の根幹に「被爆」が明確に存在していること

は事実である。

一時期『マタンゴ』のＬＤ＆ＶＣが絶版状態だったこともあるが、基本的に両者が『ノストラダムスの大予言』のごとく封印されたことはない。

これらの作品がクレームの対象にならないのは、単に抗議側の眼に触れていないだけなのではないか、と思えてくる。

一方で海外の作品はどうか。放射能で人間が怪物化する話など、掃いて捨てるほど存在する。

『戦慄！プルトニウム人間』と続編の『巨人獣』などは、その極みであろう。放射能の影響で巨大化してしまうマニンジ大佐は、あろうことかその人間性をも日増しに奪われていくという設定である。

被爆したミュータントが地底に隠れ住み、核兵器を神と崇める『続・猿の惑星』はどうか？

『ノストラダムス』や『ウルトラセブン』第１２話が規制を受け続ける一方で、これらの作品は主にソフトという形で鑑賞することができる。

海外で製作された作品を国内配給する分には問題がないというのだろうか。

さらに言えば、『ノストラダムスの大予言』の米国上映版は現在ではＬＤ化されており、日本でも輸入盤で手に入れることができる。これには、例の核戦争後のくだりも（若干短くなっているとはいえ）収録済みなのである。

国内では自主規制しながら、海外ではライセンスを許可する。こうしたダブルスタンダードといえる行為にも、作品を封印している理由の不明瞭さ、理不尽さが垣間見える。『ノストラダムスの大予言』とて、興味本位だけで核戦争後の世界を描いたのではない。それを描いた裏には、あくまで人類滅亡という悲劇を起こしてはならないという製作者側の思いが…（たとえ、その何割かは建前にせよ）込められている。

そうした意図はまったく省みられることなく、画面上の表現だけで作品すべてが葬り去られることは、あまりに悲しい。『ゴジラ』や『マタンゴ』がクレームの対象にならないのはなぜか？

それが表現上の問題から目に触れないのだとしたら、抗議側の姿勢はあまりに貧しい。これらの作品における反核・反戦、そして文明批判のテーマを描くために、それらの表現が必要なのだ、という必然に対する理解であって欲しい。

そうであれば、『ノストラダムス』や『ウルトラセブン』第１２話の冤罪も晴れるだろうから。

最後にもう一つ。『ノストラ』の問題がここまで大きく後に尾を引く結果となってしまったのは、あくまで東宝の対応に問題があったということを敢えて書き記しておきたい。まず、最初に抗議を受けた際の対応のいい加減さ。この時、自信をもって作品の意図を徹底的に抗議側に伝え、両者で真摯に話し合うべきではなかったか。

それこそ、自社の他の作品『ゴジラ』等を例に出し、反核をテーマに据えてきた東宝怪獣映画のスタンスを理解してもらうよう努めるべきだった。

しかし、最初の対応が不十分だったために抗議は強弁なものとなり、結果的に両者の話し合いは、作品から２つのシーンをカットするということで決着がついた。これは、両者が歩み寄れる最大公約数的な処置として容認せざるを得ない事実である。

重要なことは、先にも記した通り、東宝が上映プリントから該当シーンを削除、謝罪広告も全国紙に掲載したことで、交渉の決着はついているという事実である。

理解不能なのは、当時の確約に基づいてシーンの削除を施したビデオ・ＬＤを発売中止としてしまったことだ。

当時の抗議側との一件はすでに解決しており、この異例の自体があくまでことなかれ主義による一社員の要請に端を発した自主規制によるということである。

映画は娯楽の側面が強いとは言え、れっきとした一つの芸術作品である。一度世に発表された芸術は広く市民が享受し得るものとなる。発表した側にも一度世に問うた以上は、それを保護し保存する責任がついてまわる。今回の東宝の作品を封印してしまうという行為は、文化の創り手にあるまじき行為であると断言せざるを得ない。さらに悪いことには、一旦は決定したビデオ発売の撤回という行為が『ノストラダムスの大予言』がタブーであるとの前例となり、一度は収まった炎に油を注ぐ結果となってしまったことだろう。

東宝の及び腰は、同時発売のＣＤ『獣人雪男』にも言える。同作で問題となった被差別部落に関する描写・台詞を、なぜ『大怪獣バラン』のように削除するだけではビデオ発売できないのか、という単純な疑問である。

こういう消極的な形で自主規制を進めていったなら、世の映画はことごとく抹殺されてしまうであろう。その大衆性があだとなって、我が国では映画が未だに十分な芸術的価値を見出されないままとなっている。それゆえ、その表現は常に規制の対象となる。

ノストラダムスが予言した運命の日まで僅か１年余り。

今回のＣＤ発売が契機となって、来るべく来世紀には、我が国にはびこるこうした理不尽なことが過去のものとなっていることを切に願って筆を置く。

『ノストラダムスの大予言』の思い出

昭和48年、パニック映画『日本沈没』が正月映画として公開され空前の大ヒットとなった。特撮を担当した中野昭慶の特技監督第1作となったこの作品で、私はセカンド助監督を勤め、特撮B班の担当であった。このあと翌昭和49年、中野昭慶は『ゴジラ対メカゴジラ』で伝統ある東宝怪獣映画の特技監督としてクレジットされるようになった。この作品で私は特撮のチーフ助監督、本編のトップセカンドを勤めた。以上が『ノストラダムスの大予言』までの特撮監督の経過であって、この時期は特撮の全盛期といえるだろう。撮影所も活気づき、製作スタッフは燃えに燃えた。

この時代のこうした流れの中で、『ノストラダムスの大予言』の製作が開始された。この作品では日活の舛田監督が担当され、我々も相当の刺激を受けた。この作品の原点となった五島勉氏の原作本もベストセラーになっており、世の中も『未来に対する漠然とした不安』、そんな雰囲気を抱えていたように思える。

特撮映画的にはあらゆるジャンルの場面が登場して大変楽しい思い出となった。その中でも撮影中のエピソードとして、沼沢地が蒸発するシーンと山火事が起こるシーンの撮影で、東宝撮影所のNo.7ステージを全焼させてしまい、これにはさすがに驚いてしまった。しかし、この作品で得られた経験と技術は、それ以降次々と作り出される特撮作品に充分いかされている。この点だけでも大変意義深く、思い出深い作品となった。

監修　川北　紘一

ゴジラよりも怖〜い…大魔王降臨…？

グリフォン
GRYPHONE inc.

東宝